



ハケ遺跡埴輪集合写真



ハケ遺跡坏集合

はじめに

ふじみ野市は平成17年10月に旧上福岡市と旧大井町が合併し、平成27年に10周年を迎え、今また新しい時代を歩みはじめています。

ふじみ野市は、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。さらに、ふじみ野市となってからは、人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きく変化しています。

新たな歴史を歩みはじめたふじみ野市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2万数千年前の旧石器時代から現代までの永い歴史をみることができます。

本報告書は、国・県からの補助金と民間開発に伴い各事業者の皆様からの費用負担を受けて実施した、ハケ遺跡第16・19・20地点発掘調査の成果を記録した報告書です。

今回、ハケ遺跡の調査でこれまで未確認であった古墳4基が新たに発見され、さらにふじみ野市内で初めてとなる人物埴輪も出土しました。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

こうして発見された新たな歴史の一部を、「夢のある心豊かな学びのまちづくり」のため、貴重な文化財を将来にわたって保存・継承し、地域の皆様や子供たちが、生涯にわたって地域の歴史や文化を学び続けられるよう目指してまいります。貴重な文化財と共に、本書が将来にわたって活用されれば幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担とご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁、埼玉県教育委員会生涯学習文化財保護課、市関係各課、調査関係者、そして各事業者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会
教育長 朝倉 孝

例 言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の、試掘調査・発掘調査3件の報告書である。
2. 本発掘調査に先立ち行った試掘調査と発掘調査および整理作業は、2014（平成26）年度が総経費11,003,024円に対し国庫補助金5,500,000円と県費補助金2,000,000円の交付を受け、2014（平成26）年4月1日～2015（平成27）年3月31日まで実施、2015（平成27）年度が総経費10,005,757円に対し国庫補助金5,000,000円と県費補助金2,500,000円の交付を受け、2015（平成27）年4月9日～2016（平成28）年3月31日まで実施したものの一部である。民間開発を原因として行った3件の本調査は、開発原因者から委託を受け、ふじみ野市教育委員会が主体となって行った。開発原因者・委託者は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業に伴う費用は各開発原因者・委託者からの委託費により行った。

遺跡名・地点名	委託者	契約期間
ハケ遺跡第16地点	千代田ホーム（株）	平成26年9月3日～平成27年3月31日
ハケ遺跡第19地点	（株）住協	平成27年6月2日～平成28年3月31日
ハケ遺跡第20地点	千代田ホーム（株）	平成27年10月29日～平成28年3月31日

3. 調査組織







調査主体者 担 当 課	ふじみ野市教育委員会 社会教育課文化財保護係（平成26年度は生涯 学習課上福岡歴史民俗資料館文化財保護係）	社会教育課 副課長兼文化財保護係長（2016.4.1から兼務）
教 育 長	朝倉 孝（2014.4.1～）	文化財保護係調査担当者 高崎 直成（2013.4.1～）
部 長	西郷雅美（2014.4.1～2015.3.31） 中野 剛之（2015.4.1～2017.3.31） 土屋 浩（2017.4.1～）	高崎 直成（2005.4.1～） 鍋島 直久（2005.4.1～2017.3.31） 岡崎 裕子（2015.4.1～） 庶務担当 橋本祐可子（2015.4.1～）
課 長	小林 清（2015.4.1～2016.3.31） 佐藤 龍司（2016.4.1～）	岡 健司（2013.4.1～2015.3.31） 柳澤 健二（2011.4.1～2015.3.31） 発掘調査員補 越村 篤（2014.4.1～2015.9.30） 鎌田 翔（2015.11.2～）
生涯学習課上福岡歴史民俗資料館長	坪田 幹男（2013.4.1～2015.3.31）	臨時的任用職員 高橋 京子（2005.4.1～）
副 課 長	佐藤 龍司（2015.4.1～2016.3.31）	

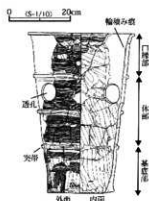
4. 本書作成にあたっての作業分担は、事実報告及び遺構、遺物の執筆は第4章Ⅱ（2）④を鎌田が、それ以外は岡崎が行った。第19地点縄文土器・石器・古代以降出土遺物・第20地点出土遺物の観察表作成を鎌田が担当した。整理作業の分担は次のとおりである。遺物接合・復元：中田藤子、川中ひろみ。石器実測：岩城英子、鎌田翔。土器実測・拓本：明石千とせ、鎌田翔、齊藤有紀、坂本民子、佐竹里佳、鈴木千恵子、深谷美奈子、松平静、山内康代。遺構・遺物図トレース：鎌田翔、小林登喜江。図版作成：青山奈保美、大久保明子、齊藤有紀、鈴木千恵子、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子。遺構写真：鍋島直久、越村篤、岡崎裕子。レイアウト・遺物写真：大久保明子、岡崎裕子。発掘調査から整理作業、報告書刊行までの業務委託は次のとおりである。第19地点の基準点測量、空中写真撮影及び空中写真測量は株式会社東京航業研究所に業務委託した。遺構図版作成の一部は株式会社中野技術に業務委託した。第19地点のテラ分析はパリオ・サーヴェイ株式会社に業務委託した。第19地点の地中レーダー探査については株式会社中野技術の協力を得た。墳輪については大谷徹氏（財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団）に、環型土器については尾形剛敏氏（志木市教育委員会）に御教示を賜りました。記して感謝申し上げます。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
天ヶ嶋岳、上田寛、越前谷理、大久保淳、大久保聡、大谷徹、大屋道則、岡田賢治、尾形剛敏、加藤秀之、神木繁嘉、久津間文隆、國見徹、隈本健介、酒井智晴、笹森健一、佐藤一也、佐藤啓子、塩野敏和、清水理史、鈴木清、高木文雄、田中信、坪田幹男、徳留彰記、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓容、堀善之、松尾鉄城、水村孝行、柳井章宏、和田晋治、埼玉県教育委員会市町村支援部生涯学習文化財課、上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。（敬称略）
青山奈保美、明石千とせ、新井和枝、飯塚恵津子、飯塚泰子、家泉浩孝、壺岐久子、石垣ゆき子、伊藤功、井上晴江、

井上麻美子、岩城英子、上田寛、白井孝、大川早苗、大久保明子、岡良子、岡本信勝、神谷道子、川中ひろみ、小池絵千花、小池恵美子、小林登喜江、齊藤有紀、坂本民子、桜井英史、佐竹里佳、澤田洋、重田恵子、鈴木勝弘、鈴木千恵子、須藤さち子、関田成美、高橋けい子、高貝しづ子、丹治つや子、辻村万史、當山りえ、中川圭子、中田藤子、野岡由紀子、比嘉洋子、深谷和江、深谷美奈子、福田美枝子、藤澤暉、藤丸亮介、増澤勝実、松平静、宮川幸佳、盛政清美、山内康代、矢作梓、米田昇三、若林紀美代

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

- (1) 縮尺は原則として、遺構配置図 1:300、遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30、炉などの詳細図 1:30、土器実測図 1:4、土器拓影図 1:4、石器実測図 1:4、2:3、銭 1:1 である。
- (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。
- (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示は、
 擾乱 、地山(ローム) 、煤・炭化物範囲 、石材 、赤彩 、黒斑 、
 土器 ●、石器 ★、黒曜石・チャート ▲、礫 ○である。
- (4) 土器断面図は、■が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
- (5) 遺構・遺物実測図中の▲▼マークは、図の接続、結合を示す。
- (6) 埴輪の各部名称については、下図参照。(土生田純之編「考古調査ハンドブック 10 古墳の見方」2014 140頁を一部改変)



(7) 遺物の色調については、『新版標準土色帖』1987年版(農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修)を基に通用表記とした。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。
3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会に保管してある。

埼玉県ふじみ野市
市内遺跡群 21 目次

はじめに	i
例 言	ii
凡 例	iii
目 次	iv
挿図目次	v
表 目 次	vi
写真図版目次	vi
第 1 章 ふじみ野市の遺跡	1
I ふじみ野市の立地と環境	1
II 市内の遺跡	2
第 2 章 ハケ遺跡	5
I ハケ遺跡の立地と環境	5
第 3 章 ハケ遺跡第 16 地点	9
I 調査に至る経過と概要	9
II 遺構と遺物	9
第 4 章 ハケ遺跡第 19 地点	24
I 調査に至る経過と概要	24
II 遺構と遺物	24
第 5 章 ハケ遺跡第 20 地点	67
I 調査に至る経過と概要	67
II 遺構と遺物	67
第 6 章 まとめ	70
附 編	75
写真図版	83
抄録	118

挿 図 目 次

<p>第 1 図 ふじみ野市の位置と周辺の地形・・・・・・・・・・ 1</p> <p>第 2 図 ふじみ野市遺跡分布図 (1/30,000)・・・・・・・・・・ 3</p> <p>第 3 図 ハケ遺跡の地形と調査区 (1/4,000)・・・・・・・・・・ 5</p> <p>第 4 図 ハケ遺跡遺構分布図 (1/2,000)・・・・・・・・・・ 7</p> <p>第 5 図 ハケ遺跡第 16・19・20 地点遺構配置図 (1/500)・・・・ 8</p> <p>第 6 図 ハケ遺跡第 16・19 地点遺構配置図 (1/100)・・・・・・ 9</p> <p>第 7 図 ハケ遺跡第 16 地点遺物出土状況 (1/60)・・・・・・・・10</p> <p>第 8 図 ハケ遺跡第 19 地点 1 号墳周溝 (1/60)・・・・・・・・11</p> <p>第 9 図 ハケ遺跡第 16 地点 1 号墳周溝掘方 (1/60)・・・・・・12</p> <p>第 10 図 ハケ遺跡第 16 地点埴輪出土状況 (1/20)・・・・・・・・13</p> <p>第 11 図 ハケ遺跡第 16 地点出土円筒埴輪① (1/4)・・・・・・・・14</p> <p>第 12 図 ハケ遺跡第 16 地点出土円筒埴輪② (1/4)・・・・・・・・15</p> <p>第 13 図 ハケ遺跡第 16 地点出土形象埴輪① (1/4)・・・・・・・・16</p> <p>第 14 図 ハケ遺跡第 16 地点出土形象埴輪② (1/4)・・・・・・・・17</p> <p>第 15 図 ハケ遺跡第 16 地点出土形象埴輪③ (1/4)・・・・・・・・18</p> <p>第 16 図 ハケ遺跡第 16 地点出土形象埴輪④ (1/4)・・・・・・・・19</p> <p>第 17 図 ハケ遺跡第 16 地点出土形象埴輪⑤ (1/4)・・・・・・・・20</p> <p>第 18 図 ハケ遺跡第 16 地点出土遺物 (1/4)・・・・・・・・・・21</p> <p>第 19 図 ハケ遺跡第 19 地点調査前墳丘測量図 (1/300)・・・・25</p> <p>第 20 図 ハケ遺跡第 19 地点遺構配置図 (1/200)・・・・・・・・27</p> <p>第 21 図 ハケ遺跡第 19 地点 2 号墳墳丘測量図 (1/100)・・・・29</p> <p>第 22 図 ハケ遺跡第 19 地点 2 号墳掘方 (1/100)・・・・・・・・31</p> <p>第 23 図 ハケ遺跡第 19 地点 2 号墳土解図① (1/100)・・・・33</p> <p>第 24 図 ハケ遺跡第 19 地点 2 号墳土解図② (1/100)・・・・35</p> <p>第 25 図 ハケ遺跡第 19 地点 2 号墳遺物出土状況 (1/60・1/30) 36</p> <p>第 26 図 ハケ遺跡第 19 地点 2 号墳ピット (1/60)・・・・・・・・37</p> <p>第 27 図 ハケ遺跡第 19 地点 2 号墳出土遺物① (1/4)・・・・・・・・38</p> <p>第 28 図 ハケ遺跡第 19 地点 2 号墳出土遺物② (1/4)・・・・39</p> <p>第 29 図 ハケ遺跡第 19 地点 3 号墳墳丘測量図 (1/100)・・・・40</p> <p>第 30 図 ハケ遺跡第 19 地点 3 号墳土層 (1/60)・・・・・・・・41</p> <p>第 31 図 ハケ遺跡第 19 地点 3 号墳遺物出土状況① (1/30)・・・・42</p> <p>第 32 図 ハケ遺跡第 19 地点 3 号墳遺物出土状況② (1/30)・・・・43</p> <p>第 33 図 ハケ遺跡第 19 地点 3 号墳出土遺物 (1/4)・・・・44</p> <p>第 34 図 ハケ遺跡第 19 地点 4 号墳墳丘測量図 (1/100)・・・・45</p>	<p>第 35 図 ハケ遺跡第 19 地点 4 号墳 (1/60)・出土遺物 (1/4)・・・・46</p> <p>第 36 図 ハケ遺跡第 19 地点遺構外出土埴輪 (1/4)・・・・・・・・47</p> <p>第 37 図 ハケ遺跡第 19 地点縄文時代遺構配置図 (1/200)・・・・48</p> <p>第 38 図 ハケ遺跡第 19 地点縄文時代集石土坑 (1/30)・土坑 (1/60)・・・・・・・・49</p> <p>第 39 図 ハケ遺跡第 19 地点縄文時代ピット (1/60)・・・・・・・・50</p> <p>第 40 図 ハケ遺跡第 19 地点出土縄文土器① (1/4)・・・・・・・・51</p> <p>第 41 図 ハケ遺跡第 19 地点出土縄文土器② (1/4)・・・・・・・・52</p> <p>第 42 図 ハケ遺跡第 19 地点出土縄文土器③ (1/4)・・・・・・・・53</p> <p>第 43 図 ハケ遺跡第 19 地点出土石器① (2/3・1/4)・・・・・・・・56</p> <p>第 44 図 ハケ遺跡第 19 地点出土石器② (1/4)・・・・・・・・57</p> <p>第 45 図 ハケ遺跡第 19 地点古代以降遺構配置図 (1/200)・・・・59</p> <p>第 46 図 ハケ遺跡第 19 地点土坑 (1/60)・・・・・・・・60</p> <p>第 47 図 ハケ遺跡第 19 地点ピット (1/60)・・・・・・・・61</p> <p>第 48 図 ハケ遺跡第 19 地点溝 (1/120)・土層 (1/60)・・・・62</p> <p>第 49 図 ハケ遺跡第 19 地点堀跡 (1/120)・土層 (1/60)・・・・63</p> <p>第 50 図 ハケ遺跡第 19 地点礎石建物跡 (1/60)・・・・・・・・64</p> <p>第 51 図 ハケ遺跡第 19 地点出土遺物 (古代以降) (1/4・1/6・1/1)・・・・・・・・65</p> <p>第 52 図 ハケ遺跡第 20 地点遺構配置図 (1/300)・土坑遺物出土状況・ピット (1/60)・・・・・・・・67</p> <p>第 53 図 ハケ遺跡第 20 地点堀跡 (1/150)・土層 (1/60)・・・・68</p> <p>第 54 図 ハケ遺跡第 20 地点出土遺物 (1/4・1/20)・・・・・・・・69</p> <p>第 55 図 プレ板山人物埴輪 (1/10)・・・・・・・・74</p>
---	--

目 次

第1表	ふじみ野市遺跡一覧表	2	第11表	ハケ遺跡第19地点縄文時代ピット一覧表	50
第2表	ハケ遺跡調査一覧表	6	第12表	ハケ遺跡第19地点縄文時代土坑一覧表	50
第3表	ハケ遺跡縄文時代住居跡一覧表	6	第13表	ハケ遺跡第19地点出土縄文時代遺物観察表	54
第4表	ハケ遺跡古代住居跡一覧表	7	第14表	ハケ遺跡第19地点出土石器・石製品観察表	58
第5表	ハケ遺跡第16地点出土古墳時代遺物観察表	22	第15表	ハケ遺跡第19地点土坑一覧表	61
第6表	ハケ遺跡第16地点出土縄文時代遺物観察表	23	第16表	ハケ遺跡第19地点古代以降ピット一覧表	61
第7表	ハケ遺跡第19地点2号墳周溝内ピット一覧表	37	第17表	ハケ遺跡第19地点溝一覧表	61
第8表	ハケ遺跡第19地点2号墳出土古墳時代遺物観察表	39	第18表	ハケ遺跡第19地点出土遺物(古代以降)観察表	66
第9表	ハケ遺跡第19地点3号墳出土古墳時代遺物観察表	44	第19表	ハケ遺跡第20地点出土遺物観察表	69
第10表	ハケ遺跡第19地点集石土坑・出土礫観察表	49			

写真図版目次

写真図版1	ハケ遺跡第16地点(1)	83	写真図版19	ハケ遺跡第19地点(7)	101
写真図版2	ハケ遺跡第16地点(2)	84	写真図版20	ハケ遺跡第19地点(8)	102
写真図版3	ハケ遺跡第16地点(3)	85	写真図版21	ハケ遺跡第19地点(9)	103
写真図版4	ハケ遺跡第16地点(4)・19地点1号墳	86	写真図版22	ハケ遺跡第19地点(10)	104
写真図版5	ハケ遺跡第16地点(5)	87	写真図版23	ハケ遺跡第19地点(11)	105
写真図版6	ハケ遺跡第16地点(6)	88	写真図版24	ハケ遺跡第19地点(12)	106
写真図版7	ハケ遺跡第16地点(7)	89	写真図版25	ハケ遺跡第19地点(13)	107
写真図版8	ハケ遺跡第16地点(8)	90	写真図版26	ハケ遺跡第19地点(14)	108
写真図版9	ハケ遺跡第16地点(9)	91	写真図版27	ハケ遺跡第19地点(15)	109
写真図版10	ハケ遺跡第16地点(10)	92	写真図版28	ハケ遺跡第19地点(16)	110
写真図版11	ハケ遺跡第16地点(11)	93	写真図版29	ハケ遺跡第19地点(17)	111
写真図版12	ハケ遺跡第16地点(12)	94	写真図版30	ハケ遺跡第19地点(18)	112
写真図版13	ハケ遺跡第19地点(1)	95	写真図版31	ハケ遺跡第19地点(19)	113
写真図版14	ハケ遺跡第19地点(2)	96	写真図版32	ハケ遺跡第19地点(20)	114
写真図版15	ハケ遺跡第19地点(3)	97	写真図版33	ハケ遺跡第20地点(1)	115
写真図版16	ハケ遺跡第19地点(4)	98	写真図版34	ハケ遺跡第20地点(2)	116
写真図版17	ハケ遺跡第19地点(5)	99	写真図版35	ハケ遺跡第20地点(3)	117
写真図版18	ハケ遺跡第19地点(6)	100			

第1章 ふじみ野市の遺跡

1 ふじみ野市の立地と環境

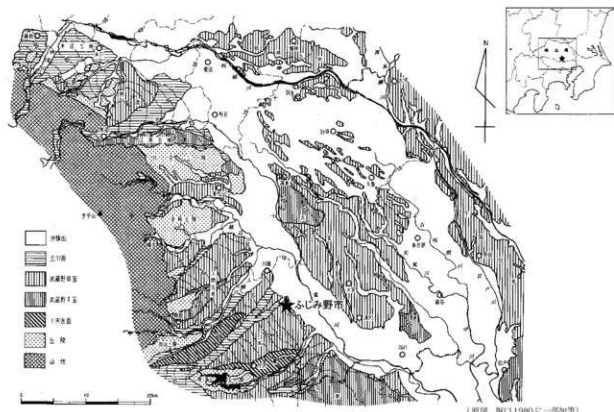
ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田圃風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地縁辺部と荒川低地の沖積地に大きく分かれ、旧大井町域は武蔵野台地縁辺部に位置し、旧上福岡市域は台地縁辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15～20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図

で見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地（大井台）がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禅寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦にみえるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。



(原図 堀口1980の一部加筆)

第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

II 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに観覧する。

【旧石器時代・縄文時代】市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤間江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線上には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が丘上から流れ落ち流となっていたため「滝地区」の名

称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に対峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期関山期の集落跡が確認されている。

川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ岡遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保堀跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷺森遺跡が存在する。

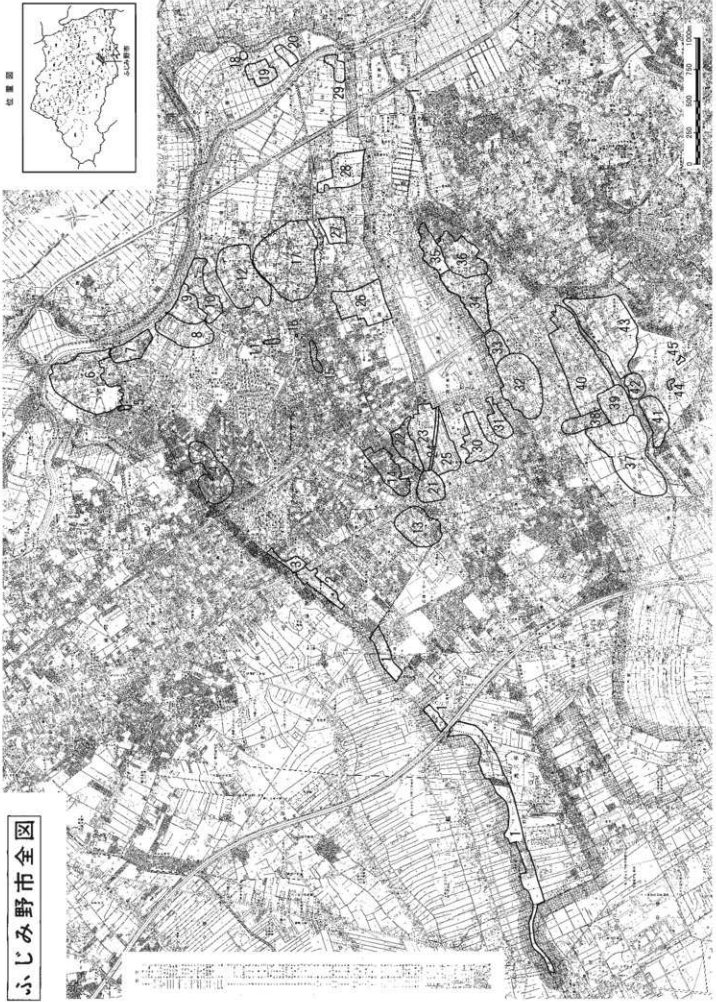
福岡江川の900m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中

第1表 ふじみ野市遺跡一覧表

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3	西遺跡	縄文中期の集落跡	25-001
4	北野遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落	25-002
5	川崎遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落跡	25-004
6	川崎遺跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7	ハケ遺跡	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡	25-005
8	上福岡貝塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006
9	権現山遺跡群（古墳群）	古墳前期の集落跡、古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落	25-007
10	滝遺跡	縄文時代、古墳前期・中期、奈良・平安、近世の集落跡	25-008
11	西原遺跡	縄文時代の散布地	25-025
12	長宮遺跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009
13	亀居遺跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
14	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
15	富士見台権現山遺跡群	古墳後期の横穴墓	25-011
16	福遺跡	古墳後期の横穴墓	25-023
17	松山遺跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18	天神遺跡	古墳中期の散布地	25-018
19	城山遺跡	中・近世の館跡	25-019
20	川袋遺跡	奈良・平安の散布地	25-020
21	江川南遺跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007
22	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23	東久保遺跡	旧石器、縄文中期、近世の集落跡	30-049
24	亀久保堀跡遺跡	中世の館跡	30-006

No	遺跡名	主な時代	遺跡番号
25	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
26	駒林遺跡	近世の館跡・中世の墳墓	25-013
27	福岡新田遺跡	縄文時代の散布地、中・近世寺院	25-015
28	鷺森遺跡	縄文前期の集落跡	25-017
29	伊佐尾遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021
30	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
31	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
32	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期、後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
33	中沢前遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
34	神明後遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
35	笛間東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
36	浄理寺跡遺跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡、近世寺院跡	30-022
37	小田久保遺跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
38	大井宿遺跡	近世～近代の宿場跡	30-010
39	大井宿跡遺跡・大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
40	本村遺跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
41	西台遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
42	大井戸上遺跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
43	東台遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
44	大井宿木戸跡	近世～近代の宿場跡	30-048
45	石塔畑	中世の散布地	30-027

ふじみ野市全図



第2図 ふじみ野市遺跡分布図 (1/30,000)

沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ロームⅢ層～Ⅹ層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。

さかい川の800 m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5～6 mの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連続と続く。一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるA T 段灰前（立川ロームⅦ層）の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では穴六、落とし穴が散在する。

【弥生・古墳時代】 荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐高遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群（埼玉県指定史跡権現山古墳群）は、方墳11基の他に古墳時代初期の前方後方墳（2号墳）1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群（通称権現山北古墳群）3基がある。ハケ遺跡第16地点の調査（2014）で、古墳の周溝から、6世紀後半頃とみられる複数の人物埴輪と、円筒埴輪が新たに発見されたが、古墳の形態や主体部については不明である。また第19地点の調査（2015）では6世紀代の円墳3基が新たに発見され、群集墳であることが判明した。

他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】 7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5 kmの台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世

紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろまで続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉から9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。またハケ遺跡からは鈎帯金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

【中世】 駒林遺跡では14世紀代に造立された板碑の下に、蔵骨器が埋納された墓石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶毘跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13～16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。

16世紀後半から17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、浄禪寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

【近世】 近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏居館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地藏院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である浄禪寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などでまとまった遺構と遺物が確認されている。また鷺森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である東京第一陸軍造兵廠川越製作所（通称造兵廠「火工廠」）の跡地で、防爆土塁・防空壕・水溜・消火栓・排水枡などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。

第2章 ハケ遺跡

I ハケ遺跡の立地と環境

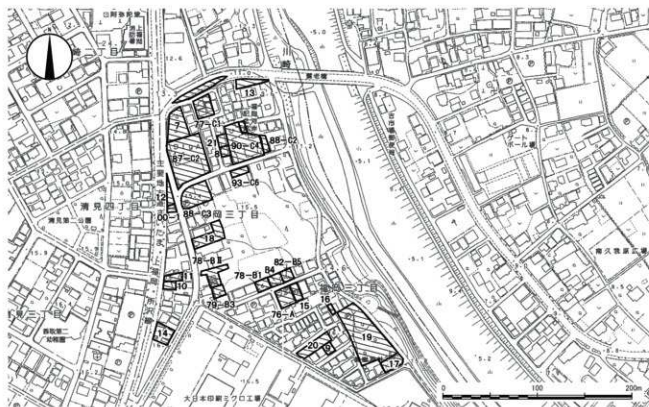
ハケ遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の東側付け根に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。遺跡の北側は落差2m程度のゆるい斜面を形成し、小支谷が入る。標高は14～16mで、遺跡の範囲は南北360m、東西160m以上ある。宅地開発される遺跡中央に畑が残る。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳～奈良・平安時代、中近世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、権現山遺跡がある。

1976年以降、宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2015年12月現在20ヶ所で調査が行われている。

主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構（旧福田屋跡）と、2014年に第16地点の発掘調査で、古墳の周溝から6世紀代の人物埴輪と円筒埴輪多数が出土した。さらに2015年度の調査で6世紀代の円墳3基が新たに確認、検出された。

本遺跡は、かつてハケ遺跡A、ハケ遺跡B、ハケ遺跡Cと呼称していたが、現在はハケ遺跡に統一している。



第3図 ハケ遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第2表 ハケ遺跡調査一覧表

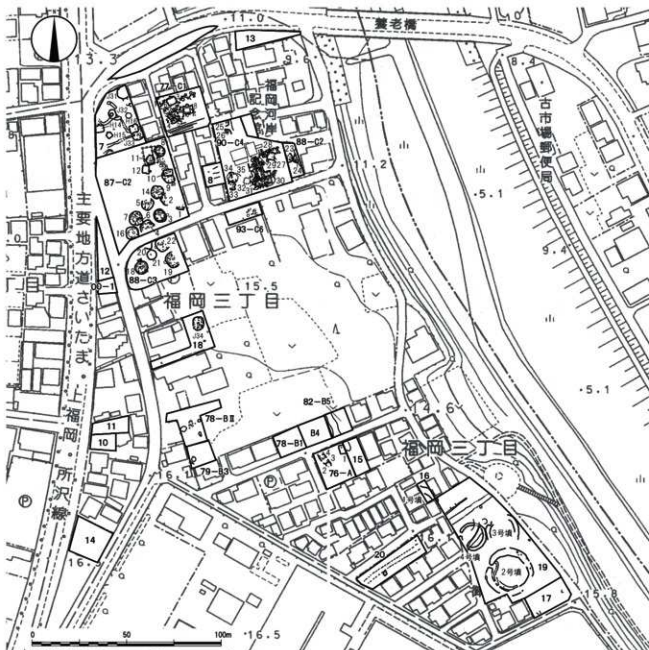
地区 地点	所在地	調査期間 ()は経年調査	面積 (㎡)	調査理由	確認された遺構と遺物		所在報告書
					遺構	遺物	
A-1次	大寺中編同学通居1228～2021	1979.9.11～16	306	個人住宅	古墳状遺跡1、櫛付遺跡3、縄文土器		上福岡市遺跡調査報告書
C-1次	大寺中編同学通居1480	1977.8.2～27	1,794	宅地造成	縄文住居跡5、弥生平安埴塚跡2、櫛付遺跡、土坑、伊須		ハケ遺跡調査会 ハケ遺跡C地区 縄文文化財の調査(Ⅰ)
B-1次	中編岡1238-40	1979.8.28～9.10	165	個人住宅	遺構なし。縄文中期土器片		縄文文化財の調査(Ⅰ)
B-2次	中編岡1181-2	1979.9.11～25	360	建築建設	土坑4、伊須1、土器		縄文文化財の調査(Ⅰ)
目-3次	中編岡1238-37	1979.7.20～31	166	個人住宅	土坑3、縄文土器		縄文文化財の調査(Ⅰ)
B-5次	大寺中編同学通居1228-46	1982.5.10～17	165	遺構	溝1、縄文中期土器		縄文文化財の調査(V)
C-2次	編岡2-2061.1～2	1987.4.16～5.29	1,900	倉庫付住宅造成	縄文中期住居跡11、弥生平安埴塚4、溝1		縄文文化財の調査(X)
C-3次	編岡2-2-1	1988.8.15～20	627	倉庫	縄文中期住居跡4、平安埴塚2		縄文文化財の調査(Ⅺ)
C-7次	編岡3-4-2	1988.10.28～28	60	軽便物貯蔵庫	縄文中期住居跡1		縄文文化財の調査(Ⅻ)
C-4次	伊須田遺跡地区内	1990.6.20～9.6 19.7.1日～一週間調査予定	300	空堀田原付建設地	空堀田原付建設地、縄文土器片、縄文土器、弥生土器、粘土製7つ折目小椀(1)、江戸前期～中期長方形土坑12・溝1・平安埴塚跡3・縄文中期住居跡2、縄文倉、晩期住居跡3		2年度調査報告書史料資料編
C-6次	編岡3-1189、2065-2	1993.5.6～18	142	個人住宅	縄文中期土坑6		縄文文化財の調査(Ⅻ)
C-4次	編岡3-2069.1の一部	1994.6.10～1.31	54	沼原に併設する管理倉庫 倉庫造成工事	縄文中期住居跡5、土坑30		縄文文化財の調査(Ⅻ)
C-8次	編岡3-1884-8	2000.1.26	100	個人住宅	遺構遺物なし		縄文文化財の調査(Ⅻ)
C-7次	編岡3-2	(2006.7.10～22)	666	宅地造成	縄文・弥生平安埴塚跡抽出		市内遺跡群3
C京8	編岡3-2069-9	(2009.3.17)	99	個人住宅	住居跡確認		市内遺跡群6
C京9	編岡3-1257-7、1259-1	(2010.2.2～4)	120	個人住宅	土坑1、竪穴跡1		市内遺跡群8
10	編岡3-1363-14	(2011.4.22)	122	個人住宅	地盤不明		市内遺跡群14
11	編岡3-1363-11	(2011.4.21～22)	158	分譲住宅	縄文時代前期外壁礎石1、土器		市内遺跡群14
12	編岡3-1472-1	(2012.9.24)	122	個人住宅	ビッド1、土器		市内遺跡群15
13	編岡3-1488-1	(2013.10.2～3)	160	個人住宅	遺構遺物なし		市内遺跡群18
14	編岡3-1503-15	(2013.11.22)	144	個人住宅	遺構遺物なし		市内遺跡群18
15	編岡3-1228-19	(2014.4.8～9)	184	共同住宅	遺構遺物なし		市内遺跡群20
16	編岡3-1254-7-14・17	(2014.8.11～9.21)9.3～9	68	分譲住宅	古墳1基、人物・内筒輪軸、縄文土器		市内遺跡群21
17	編岡3-1219-1-2	(2014.9.26～30)	99	個人住宅	管状の土管1、近世～近代陶磁器、ガラス製品		市内遺跡群20
18	編岡3-1182、2066-5	(2014.12.4～10)2015.1.6～16	511	個人住宅	縄文時代中期住居跡1、伊4、土坑2、溝2、縄文土器		市内遺跡群16
19	編岡3-1222-1、1223～1225、1226	(2015.3.17～5.31)10.31	2,297	宅地造成	古墳4、土坑7、ビッド多数、竪穴1、溝4、縄文土器、土器群、古銭、銅貨		市内遺跡群21
20	編岡3-1252-1	(2015.10.14～16)2015.10.29～30	375	分譲住宅	古墳1基の復原1、土坑1、ビッド、縄文土器、竪穴、土器群、土器群、土器群		市内遺跡群21
21	編岡3-1195-4・15、2069-10	(2016.1.5)	101	個人住宅	遺構遺物なし		未報告
22	編岡3-1201の一部	(2015.12.26～2017.3.19)2017.1.20～2.8	249	1817段築物調査発掘	古墳住居跡1(H30)、土坑13、ビッド13、縄文土器、土器群		未報告
23	編岡3-1183-1の一部	(2017.7.10)	137	個人住宅	ビッド、縄文土器片		未報告
24	編岡3-1179-1、1179-1、1180-1、1181-1、2066-2、2067	(2017.7.19～27)2017.7.28～8.7	1,702	宅地造成	縄文時代住居跡1、第7次埋戻し、土坑1、時期不明黒石土坑1、ビッド12		未報告

第3表 ハケ遺跡縄文時代住居跡一覧表

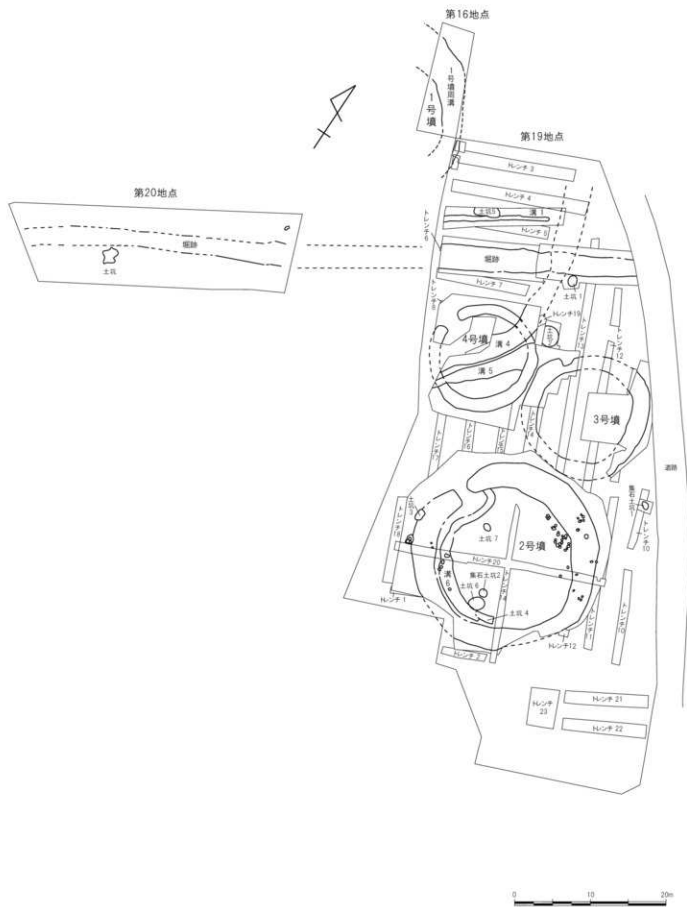
住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形状 ()は推定	規模	伊			遺構	高さ	主軸方位	時期	備考	文献
						地盤	伊須	石垣						
1	1977	C地区1号住居	1/4	(伊形)	6000							加賀利EⅡ		ハケ遺跡C地区
2	〃	C地区4号住居	完全	櫛形	6000	○						加賀利EⅠ		〃
3	〃	C地区5号住居	完全	(方角)	400×500	○						鎌倉		〃
4	〃	C地区6号住居	(完備)			○						加賀利EⅡ前	7号土壘跡	〃
5	〃	C地区7号住居				○	○					加賀利EⅠ		〃
6	1987	C地区2次1号住居	1/3						○			加賀利EⅠ		縄文文化財の調査Ⅰ
7	〃	C地区2次2号住居	西1/2	隅丸台形					○	○		加賀利EⅡ	溝掘り土蔵出土	〃
8	〃	C地区2次3号住居	完備	櫛形	720×600			○				加賀利EⅡ	溝掘り文、資料系多い	〃
9	〃	C地区2次4号住居	北1/2						○			加賀利EⅡ		〃
10	〃	C地区2次5号住居	ほぼ完備	円形	620							加賀利EⅡ		〃
11	〃	C地区2次7号住居	完備	円形	700							加賀利EⅡ		〃
12	〃	C地区2次8号住居	完備	円形						○	○	加賀利EⅠ	2軒の住居の基礎	〃
13	〃	C地区2次9号住居	完備	方形	720					○	○	加賀利EⅡ	15号土壘跡	〃
14	〃	C地区2次11号住居	完備	円形	450×400	○						加賀利EⅡ		〃
15	〃	C地区2次14号住居	完備	円形	660×640		○					加賀利EⅡ	3層建榑木	〃
16	〃	C地区2次16号住居	完備	隅丸台形	670×650	○						加賀利EⅡ		〃
17	1988	C地区3次18号住居	完備	円形	650					○	○	加賀利EⅡ	17号土壘跡	〃
18	〃	C地区3次19号住居	西2/3	円形	800×500			○				加賀利EⅡ	2軒の住居の基礎	〃
19	〃	C地区3次21号住居	完備	円形	460～480					○		加賀利EⅠ	溝石敷敷物	〃
20	〃	C地区3次22号住居	西4/5	不整形円形	700							加賀利EⅡ		〃
21	1990	C地区4次23号住居	1/4	(方角)								安行1	採掘から土塊	市史資料編
22	〃	C地区4次24号住居	西側未調査	櫛形										
23	〃	C地区4次25号住居	南東側1/4	(円形)	500							加賀利EⅡ		〃
24	〃	C地区4次26号住居	北東側1/4	(櫛形)	600							加賀利EⅡ古		〃
25	〃	C地区4次28号住居	土器片が多数出土したため住居とした									加賀利EⅡ		〃
26	〃	C地区4次29号住居										加賀利EⅡ古		〃
27	〃	C地区4次30号住居	土器片が多数出土したため住居とした										竪石等～堀之内	〃
28	〃	C地区4次31号住居	土器片が多数出土したため住居とした										堀之内	〃
29	〃	C地区4次34号住居	一部	櫛形	560							加賀利EⅡ		〃
30	〃	C地区4次35号住居	一部	(円形)	(8m×7m)							加賀利EⅡ		〃
31	2013	7地点J31号住居	1/0	櫛形	690×500	○				○		無形～加賀利EⅠ	H17住居、礫石土坑3・4と重なる	市内遺跡群13
32	〃	7地点J32号住居		円形	480×408	○						無形Ⅱ		〃
33	〃	7地点J33号住居	90%		570×500	○						加賀利EⅡ	H16住居、礫石土坑1、溝2と重なる	〃
34	2014	18地点J34号住居	完備	櫛形	726×580	○	○			○		加賀利EⅡ～Ⅲ		市内遺跡群16

第4表 ハケ遺跡古代住居跡一覧表

経緯	調査名	調査率	平面形状 (1/10縮尺)	規模	カマド	扉	床	主軸方位	時期	備考	文献
1	1976 A地区 LND1	1/2	楕円形	440 × (280)	K	北	○		縄文		上福岡市遺跡調査報告書
2	C地区 3号住	完壁	長方形	470 × 480	K	北	○		B C 3四半期		
3	C地区 8号住	完壁	長方形	560 × 380 × 44	K	北	○		B C 4四半期		
4	C地区 2次 6号住	完壁	方形	300 × 280	K	北			縄文		
5	C地区 2次 10号住	完壁	長方形	450 × 300	K	北	○		B C 中		
6	C地区 2次 12号住	完壁	長方形	400 × 340	K	南東	○		9 C 後半		
7	C地区 2次 15号住	遺跡 1/4					○		9 C 後半		
8	〃 2次築立柱建物	併存(4棟)		870 × 470				東面に庇	8 C 中葉		
9	1988 C地区 3次 17号住	完壁	長方形	350 × 290	K	北東	○		10 C 前期		権蔵文化財の調査 11 市史資料編
10	C地区 3次 20号住	南東 1/6							8 C 3四半期		
11	1990 C地区 4次 27号住	完壁	方形	400 × 380		北東	○		10 C 前期		
12	C地区 4次 32号住								10 C 前期		
13	〃 C地区 4次 33号住								8 C 3四半期		跡部金岡出土
14	2013 第7地点 H 14号住居		長方形	410 × 340	K	北	○		8 C 中頃		市内遺跡群 13
15	〃 第7地点 H 15号住居		長方形	290 × 275	K	北			9 C が		
16	〃 第7地点 H 16号住居		不整形	395 × 468	K	北			8 C 後半		
17	〃 第7地点 H 17号住居		不明	1300 × 140					B C 前~中頃か		
18	2017 第22地点 H 18号住居										未報告



第4図 ハケ遺跡遺構分布図 (1/2,000)



第5図 ハケ遺跡第16・19・20地点遺構配置図 (1/500)

第3章 ハケ遺跡第16地点

I 調査に至る経過と概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2014年8月4日付で「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の南東部に位置する。申請者との協議の結果、遺構の存在を確認するため2014年8月11日～9月2日まで試掘調査を実施した。試掘調査は幅約1～1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後人力による調査を行った。地表面下30～40cmのところで地山ローム層と溝1条を確認し、溝の時期特定のため一部を掘り下げたところ、人物埴輪が出土した。これにより確認された溝が古墳の周溝であることが判明した。

原因者と再協議の結果、遺構への影響が避けられないため、原因者負担による本調査を行った。

本調査は2014年9月3～9日まで実施した。試掘調査を行った1・2トレンチの両側に3・4トレンチとして約1～1.5m幅のトレンチを設定し、重機による表土除去の後、人力による調査を行った。遺構平面図、全体図の作成には平板測量で記録を行った。

II 遺構と遺物

【位置・形状・規模】調査区中央で古墳の周溝の一部を検出した。今回の調査で発見した古墳を1号墳とした。周溝の一部のみの検出のため墳形は不明だが、おそらく円墳であろう。今回検出した第16、19地点の周溝から推定される墳丘の規模は、推定外径22～24m、内径約15mである。墳丘盛土は既に削平されており、残存していなかった。

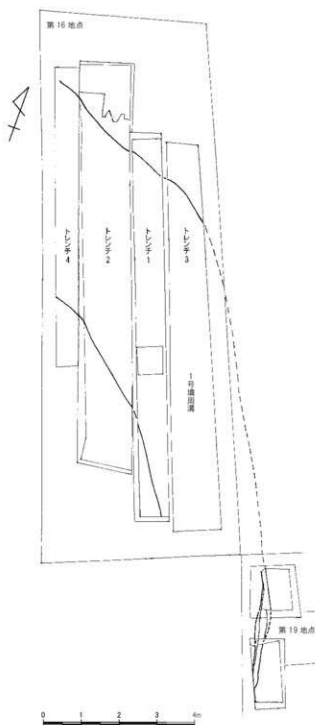
【周溝】周溝は上幅約4.1m、下幅約3.1m、深さ約0.9mである。断面形は逆台形を呈し、墳丘側が急角度に立ち上がる。また墳丘側が比較的深く掘り込まれている。覆土は大きく3層に区分される。最下層には底面を覆うようにロームブロックを多量に含む黄褐色土が堆積し、「整地面」を形成する。その他は概ね自然堆積である。

【遺物出土状況】周溝内墳丘側に円筒埴輪、人物埴輪が集中していた。出土した遺物のほとんどは細片であった。周溝底面から約30～70cmの高さに遺物が集中しており、墳丘に樹立していた埴輪群が、周溝が一定程度埋没した後転落したものと考えられる。土師

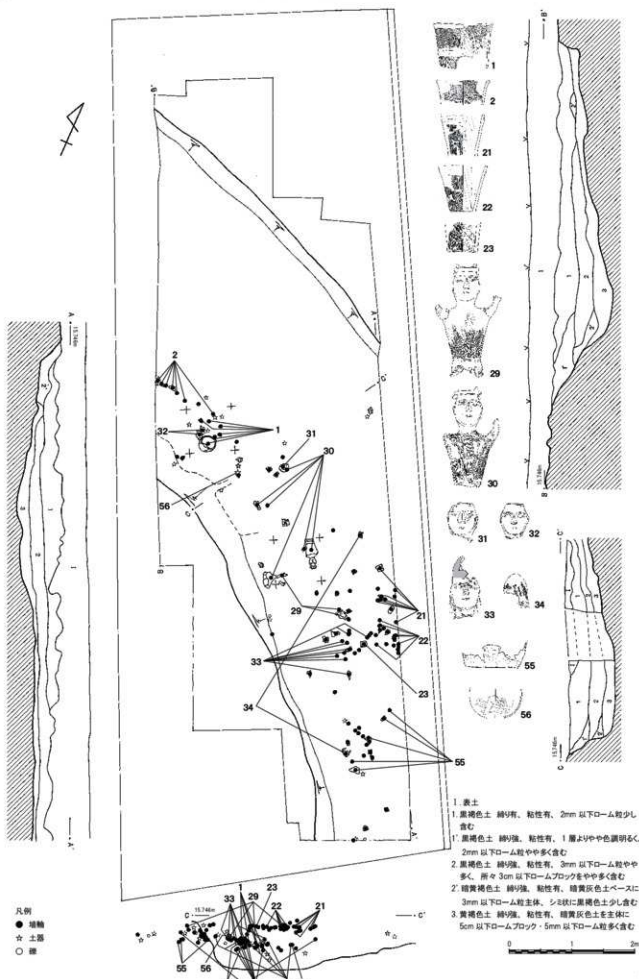
器壺形土器も同様の高さで出土した。

【出土遺物】古墳に伴う遺物は円筒埴輪、形象埴輪、土師器壺である。この他に古墳に伴わない遺物として、前期から後晩期の縄文土器片が周溝覆土中より出土している。

1～28は円筒埴輪である。全体のわかるものは出土していない。いずれも破片で、同一個体と考えられ



第6図 ハケ遺跡第16・19地点遺構配置図(1/100)



第7図 ハケ遺跡第16地点遺物出土状況 (1/60)

るが完形に復元できるものはなかった。

1～8は口縁部である。口縁部が緩やかに外反する点で共通する。1は口縁部から突帯まで残存する唯一の例である。口径25.6cm、口縁部から突帯までの間隔が約11cmであることを踏まえると、おそらく2条3段の円筒埴輪であったと想定できる。また、1と2には口縁部内面に線刻が認められる。1は「×」が、2は左上から右下に1条の線が施される。9～20は体部である。突帯はすべて「M」字形を呈し、高さも非常に低い。1・9～12は透孔部分が残存する。1では外面上部から時計回りに穿孔したことがわかる。21～24は底部である。底径は11～13cmのもので、口径に比べて小さい。21・22は底部から第一突帯まで残存し、その高さは15～17cmである。また、底部から第一突帯にかけて広がるもの(21、22、24)と垂直に立ち上がるもの(23)の二形式が認められた。25～28は内面に線刻を有するものである。25、26はどちらも斜め方向の線刻が確認でき、1と同様に「×」の線刻だった可能性が考えられる。

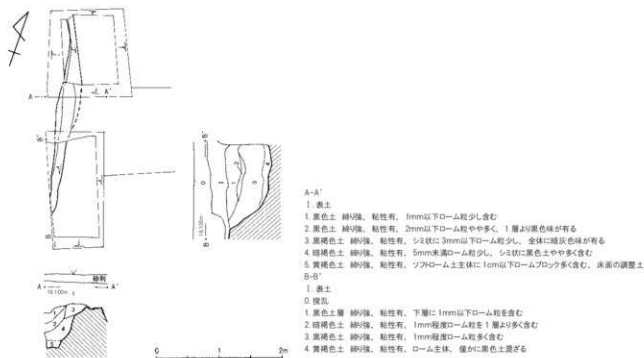
円筒埴輪は色調、調整等の特徴から大きく二種類に分類することができる。一つは赤褐色を呈し、比較的粗いハケ状工具を使用しているもの(12、27)である。もう一つは橙色を呈し、16～19本/2cmの細かい目の工具を使用しているもの(1～15、17～26、28)である。今回出土した埴輪の中では、後者

の橙色系のものが大半を占め、また大型品は見受けられず、2条3段の円筒埴輪が主体であったと考えられる。

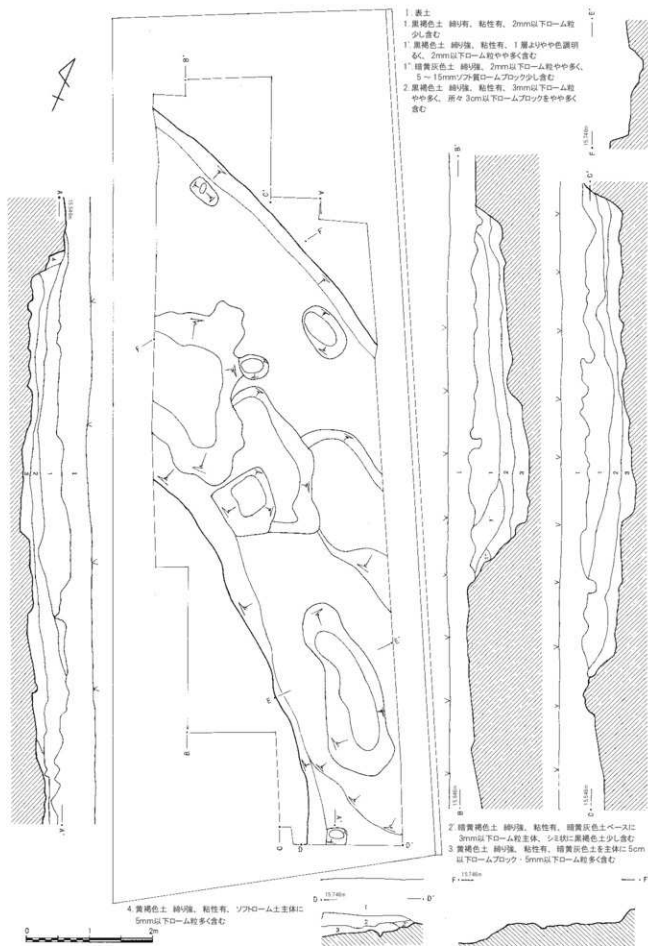
29～55は形象埴輪である。その内、29～49まではすべて人物埴輪である。顔部の破片から少なくとも9個体以上の人物埴輪が並べられていたと推定できる。29～32は女子埴輪、33・34は男子埴輪である。

29・30は頭部から腰部までの半身が残存する。31～33は頭部～顔部、34は頭部のみの残存である。顔の表現の仕方はいずれの個体も共通している。眉と鼻は粘土貼付で表現し、鼻孔は表現しない。目、口、耳は外面から穿孔している。33以外は耳孔を穿孔した後、粘土紐を環状に貼り付けている。顔部に関して、ハケでの整形の後、非常に丁寧にナデを施す。耳飾りは粘土紐で耳環と耳玉を表現している。今回出土した人物埴輪の中では、耳環はすべてに共通しているが、耳玉は女子埴輪のみに表現されている。腕は中実で、棒状の粘土を芯部とし、そこに粘土を貼り付けるという製作技法である。女子埴輪の頭部は板状の粘土で表現した髷を乗せる。髷は中央が括れた長方形の平面形で、括れ部分に粘土紐で髷の結び目である髷(もとどり)を表現する。髷の両端は短く直立する。31・32の頭部は欠損しているが、剥落痕から29・30と同様であったと想定できる。

29・30はどちらも衣服の具体的な表現はなく、腰



第8図 ハケ遺跡第19地点1号墳周溝(1/60)



第9図 ハケ遺跡第16地点1号墳周溝掘方(1/60)

部に帯のみが表現される。またこの2体はともに両腕を前方上へ挙げる。2体ともに右腕から先と左指先が欠損しているため、持ち物等は不明である。

33・34は冠帽を被る人物である。33は欠損しているが両耳の前方に粘土紐の剥落痕が残存しており、下げ美豆良を結う男性を表しているものと考えられる。前述したように、基本的な顔の造作は男女ともに共通するが耳の表現に相違が見られ、33は穿孔のみで表現し、粘土紐の貼付は見受けられない。また、耳飾りも耳環のみで耳玉の表現はない。34は冠帽部分と左肩のみの残存だが、冠帽の形状から33と同様の冠帽を被った男子埴輪と考えられる。肩は粘土紐貼付、目は外面からの穿孔である。冠帽は円錐形を呈し、背面に上向きの矢印のような形で粘土紐を貼り付ける。33の冠帽部分は1/3程度しか残存していないが、形状と背面の粘土紐痕から34と同様であろう。なお33には白色塗彩の痕跡が見られる。

35～38は顔の破片である。35は目の下から唇の上部にかけて残っている。左下に粘土の剥落痕が見受けられ、鼻や口などとの距離を踏まえると下げ美豆良の痕跡と考えられる。36は額から鼻にかけて部分的に残存しているが、性別や職業は不明である。37は口から右頬にかけての破片である。頬に剥落痕が見受けられ、口との距離から35と同様に下げ美豆良の痕跡であると考えられる。38は左目から左耳にかけての破片である。耳孔の一部が残存しており、粘土紐貼付をせずに穿孔のみで耳を表現していることから、男子埴輪である可能性が高い。

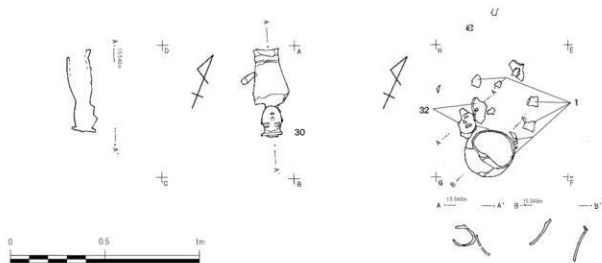
39～41は33・34と同様の男子埴輪の冠帽の破片である。彩色されたような痕跡は見られない。42は

耳環の破片、43は人物埴輪の頸部である。

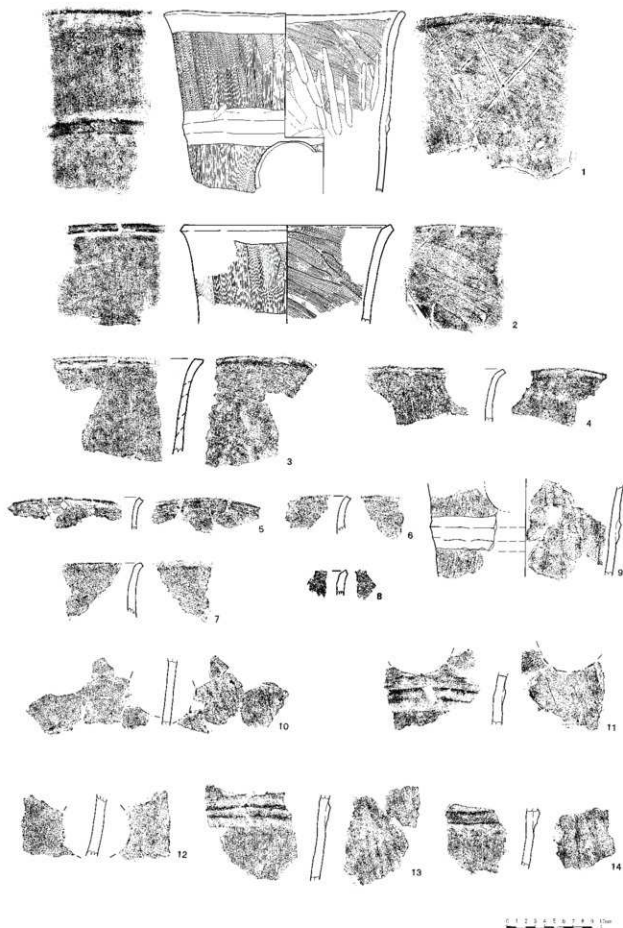
44～49は人物埴輪の体部破片である。44～46は胴体側面に近い部分で、いずれも透孔の一部が残存する。44・45は右脇の下にあたり、腕に向かってわずかに外湾する。47は人物埴輪の腰部である。腰帯を巻く人物で、幅の広い粘土紐を貼り付ける。48・49は手の破片である。48は左手に環を持った状態を表している。手とは別に環を作り手のひらに貼り付けている。また、指も一本ずつ丁寧に作っている。どちらもつくりは中実である。

50～55は器種不明の形象埴輪である。50はV字状の突起である。剥離痕から円筒状のものに付いていたと推測できる。51は径約3cmの円筒状の部品である。端部はややすばまり、調整はされていないが、側面は丁寧にナデ調整が施される。52は径約2cmの円筒状で、わずかに湾曲する。一部に粘土の貼付痕が見られる。どちらも人物埴輪の腕部の肩部への差し込み部分である可能性が考えられる。55は器種不明形象埴輪で底部と思われる。コの字状に残存しており、短辺は内側に括れる。器厚は薄手で、最も薄い部分で1.0cm程度である。圓形埴輪のようではあるが、いずれの面も直立せず、短辺2面は外側に、長辺は内側に傾斜している。部分的にハケ目が見られ、ハケを施した後丁寧にナデ調整を行っている。

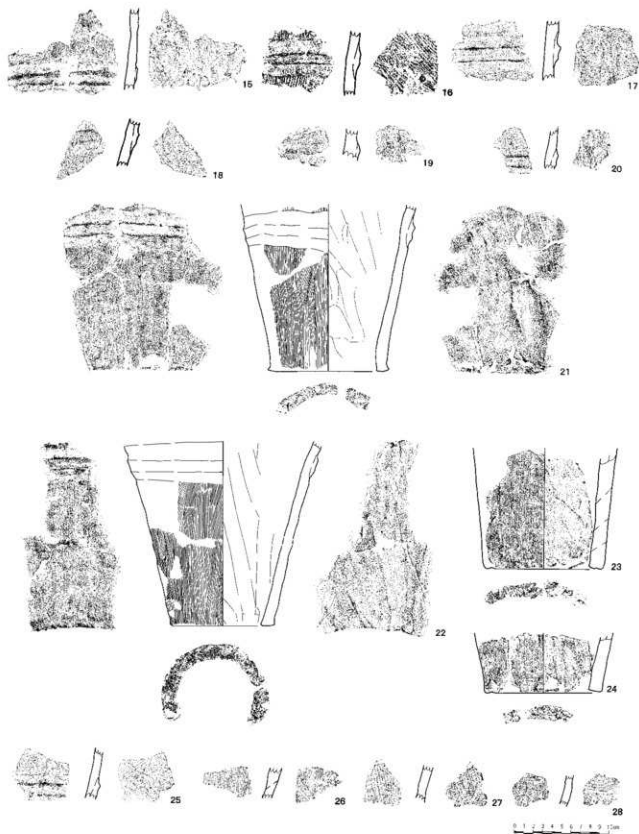
56は土師器壺形土器の胴部である。底部に近く、胴部中程から口縁部にかけてと底部が欠損している。外面の一部に赤彩が認められ、底部により近い部分には黒斑もみられる。底部に関しては、破片も出土していないが、積極的に底部穿孔を行ったような痕跡は認められない。



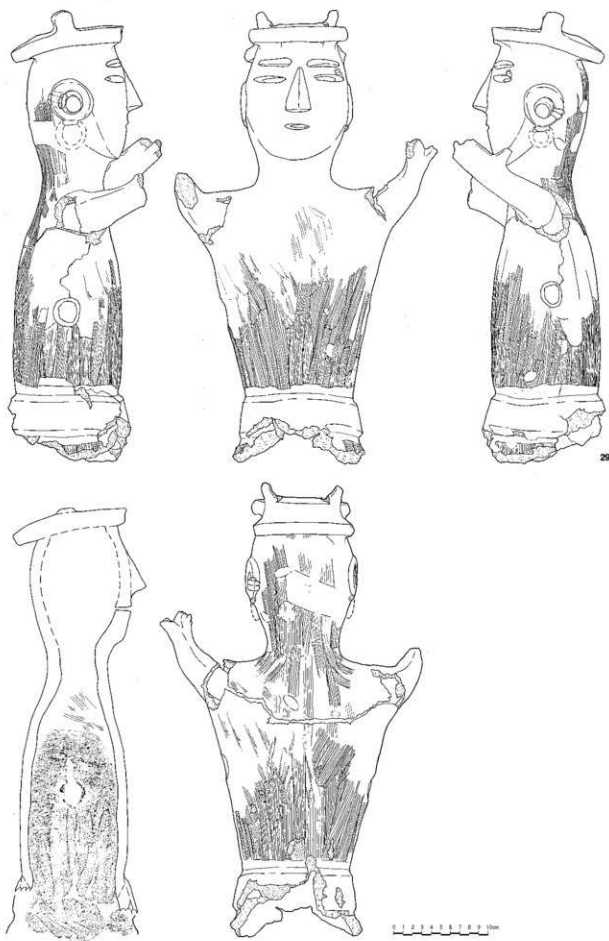
第10図 ハケ遺跡第16地点埴輪出土状況(1/20)



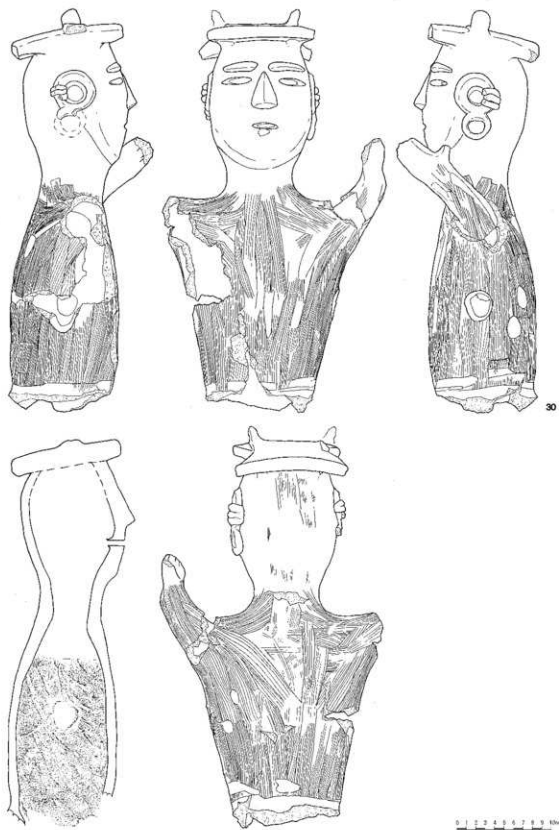
第11図 ハケ遺跡第16地点出土土円筒埴輪① (1/4)



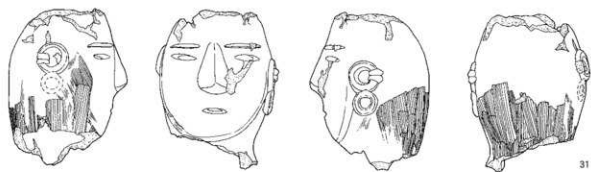
第12図 ハケ遺跡第16地点出土土円筒埴輪② (1/4)



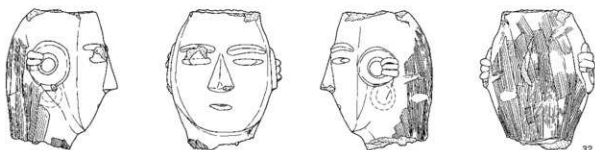
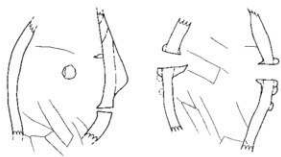
第13図 ハケ遺跡第16地点出土形象埴輪①(1/4)



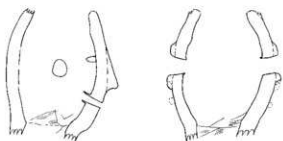
第14図 ハケ遺跡第16地点出土土形象埴輪② (1/4)



31

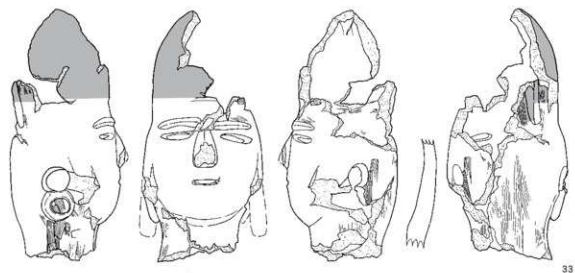


32



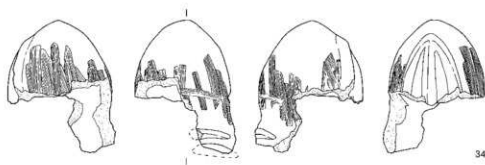
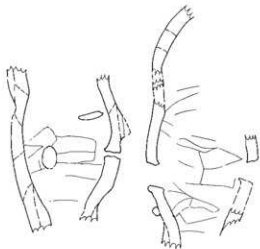
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第15図 ハケ遺跡第16地点出土形象埴輪③ (1/4)

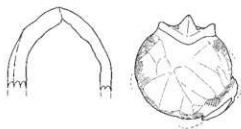


33

白色塗彩

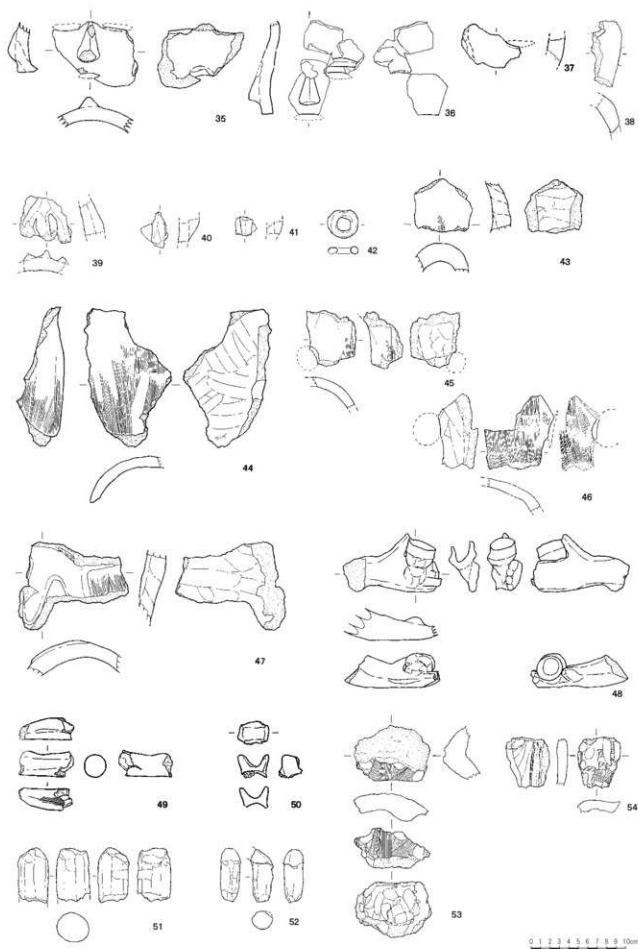


34

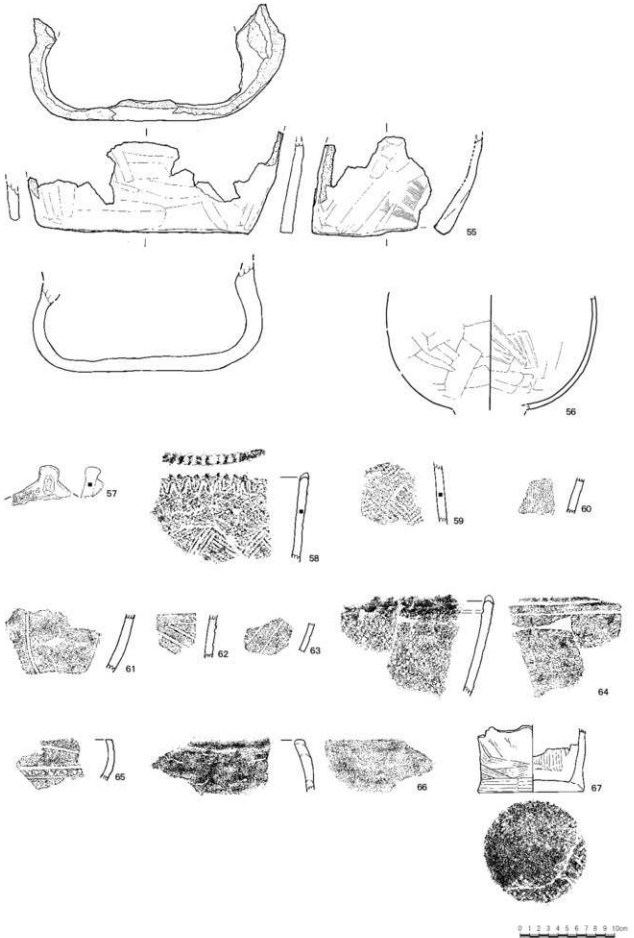


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第16図 ハケ遺跡第16地点出土形象埴輪④ (1/4)



第17図 ハケ遺跡第16地点出土形象埴輪⑤ (1/4)



第 18 図 ハケ遺跡第 16 地点出土遺物 (1/4)

第5表 ハケ遺跡第16地点出土古墳時代遺物観察表(単位cm)

図号	番号	種類/名称	口径・長さ・幅	底径・厚さ	装 法/胎 土	保存率	備 考	
第11回	1	円筒/口縁-体部	125.6	119.1	—	内:ナメハケ+ナズ, 外:タテハケ+ナズ/白色粒子, 黄母	30%	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。内面に彩色線画, 突帯線画(半円形, 透孔・横溝), 2.31×16.9, ハケ目: 19本/2.0cm, 口縁部内面に縦刻(×), 凸線
	2	円筒/口縁部	122.6	110.5	—	内:ナメハケ, 外:タテハケ+ナズ/白色粒子, 黄母	口縁 80%	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 5/6 暗赤褐色, 砂雜を多く含む。ハケ目: 18本/2.0cm, 口縁部内面に縦刻(矢状に欠け), 凸線
	3	円筒/口縁部	—	111.0	—	内:ナメハケ+ナズ, 外:タテハケ+ナズ/白色粒子, 石炭, 黄母	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 5/6 暗赤褐色, 砂雜を多く含む。ハケ目: 18本/2.0cm, 凸線
	4	円筒/口縁部	—	15.6	—	内:32コハケ+ナズ, 外:タテハケ+ナズ/白色粒子, 石炭, 黄母	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 5/6 暗赤褐色, 砂雜を多く含む。ハケ目: 19本/2.0cm, 凸線
	5	円筒/口縁部	—	13.1	—	内:32コハケ+ナズ, 外:タテハケ+ナズ/白色粒子, 黄母	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 5/6 暗赤褐色, 砂雜を多く含む。凸線
	6	円筒/口縁部	—	15.8	—	内:ナメハケ+ナズ, 外:タテハケ+ナズ/白色粒子, 黄母	破片	構成: 良好, 色調: 25YR 5/6 暗赤褐色, 砂雜を多く含む。ハケ目: 17本/2.0cm, 凸線
	7	円筒/口縁部	—	13.9	—	内:32コハケ+ナズ, 外:タテハケ+ナズ/白色粒子, 石炭	破片	構成: 良好, 色調: 25YR 5/6 暗赤褐色, 砂雜を多く含む。ハケ目: 17本/2.0cm, 内面に彩色凸線
	8	円筒/口縁部	—	12.5	—	内:ナメハケ+ナズ, 外:タテハケ+ナズ/白色粒子	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。ハケ目: 18本/2.0cm, 凸線
	9	円筒/体部	—	110.0	—	内:ナズ, 外:タテハケ+ナズ・突帯線付/白色粒子, 石炭, チャート	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。突帯線画(半円形, ハケ目: 17本/2.0cm, 横溝付, 2.84×9.9, 一部透孔付), 凸線
	10	円筒/体部	—	17.9	—	内:ナズ, 外:タテハケ+ナズ・突帯線付/白色粒子, 黄母	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。ハケ目: 17本/2.0cm, 一部透孔付, 凸線
	11	円筒/体部	—	9.5	—	内:ナズ, 外:タテハケ+ナズ・突帯線付/白色粒子, 石炭, 黄母	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。突帯線画(半円形, 一部透孔付), 凸線
	12	円筒/体部	—	16.7	—	内:ナズ, 外:タテハケ+突帯線付/白色粒子, 黄母, チャート	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 5/6 暗赤褐色, 砂雜を多く含む。一部透孔付, 透孔径: 14.6mm, 凸線
	13	円筒/体部	—	19.2	—	内:ナズ, 外:タテハケ+ナズ・突帯線付/白色粒子, 石炭, 黄母	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。突帯線画(半円形, ハケ目: 17本/2.0cm, 凸線)
	14	円筒/体部	—	16.5	—	内:ナズ, 外:タテハケ+ナズ・突帯線付/白色粒子, 石炭, チャート	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。突帯線画(半円形, ハケ目: 16本/2.0cm, 凸線)
第12回	15	円筒/体部	—	18.6	—	内:ナズ, 外:タテハケ+ナズ・突帯線付/白色粒子, 赤色粒子, 石炭, チャート	破片	構成: 不良, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。突帯線画(半円形, ハケ目: 18本/2.0cm, 凸線)
	16	円筒/体部	—	16.9	—	内:ナメハケ, 外:タテハケ+ナズ・突帯線付/白色粒子, 石炭, 黄母	破片	構成: 良好, 色調: 25YR 5/6 暗赤褐色, 砂雜を多く含む。突帯線画(半円形, ハケ目: 8本/2.0cm, 凸線)
	17	円筒/体部	—	16.3	—	内:ナズ, 外:タテハケ+ナズ・突帯線付/白色粒子, 黄母	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。突帯線画(半円形, 凸線)
	18	円筒/体部	—	15.2	—	内:ナズ, 外:タテハケ+ナズ・突帯線付/白色粒子, 黄母	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。突帯線画(半円形, ハケ目: 17本/2.0cm, 凸線)
	19	円筒/体部	—	13.5	—	内:ナズ, 外:タテハケ+ナズ・突帯線付/白色粒子	破片	構成: 不良, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。原料が異なる, 凸線
	20	円筒/体部	—	14.4	—	内:ナズ, 外:タテハケ+ナズ・突帯線付/白色粒子	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。突帯線付, ハケ目: 18本/2.0cm, 凸線
	21	円筒/底面	—	119.5	111.0	内:タテハケ+ナズ・横溝付, 外:タテハケ+突帯線付/白色粒子, 石炭, 黄母, チャート	底面 1/2	構成: 良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。突帯線付, ハケ目: 18本/2.0cm, 凸線
	22	円筒/底面	—	117.7	112.8	内:ナズ, 外:タテハケ+ナズ・突帯線付/白色粒子, 黄母, チャート	底面 1/3	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。突帯線付, ハケ目: 19本/2.0cm, 凸線
	23	円筒/底面	—	112.8	113.0	内:ナズ, 外:タテハケ/白色粒子, 石炭, 黄母, チャート	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。ハケ目: 19本/2.0cm, 凸線
	24	円筒/底面	—	16.3	13.8	内:ナズ, 外:タテハケ/白色粒子, 石炭, 黄母, チャート	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。ハケ目: 19本/2.0cm, 凸線
	25	円筒/体部	—	15.4	—	内:ナメハケ+ナズ+ナズ, 外:タテハケ+ナズ・突帯線付/白色粒子, 赤色粒子, 黒色粒子	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。ハケ目: 19本/2.0cm, 内面に縦刻有り, 凸線
	26	円筒/体部	—	13.3	—	内:ナズ, 外:タテハケ/白色粒子, 石炭, 黄母	破片	構成: 良好, 色調: 25YR 5/6 暗赤褐色, 砂雜を多く含む。ハケ目: 17本/2.0cm, 内面に縦刻(半円形), 凸線
	27	円筒/体部	—	13.7	—	内:ナメハケ, 外:タテハケ/白色粒子, 黄母	破片	構成: 良好, 色調: 25YR 5/6 暗赤褐色, ハケ目: 8本/2.0cm, 内面に縦刻有り, 凸線
	28	円筒/体部	—	13.5	—	内:ナメハケ, 外:タテハケ+ナズ/白色粒子, 黒色粒子	破片	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 砂雜を多く含む。ハケ目: 19本/2.0cm, 割孔(縦刻有り), 凸線
第13回	29	形象/人物	—	147.6	—	人物線刻部: 髪・眉・髭・髻が削りつくり, 顔部-脇付後丁字にナズ, 目・口・耳は外面から穿孔。耳環(耳玉(三連))一組土結付, 体部(ハケ調整後調整等焼結し, 丁字にナズ/白色粒子, 黄母, 石炭	顔部-体部	構成: 良好, 色調: 25YR 5/6 暗赤褐色, 女子線輪, 髪髻よりナズ, 赤子, 左手無欠付, 凸線
	30	形象/人物	—	143.6	—	人物線刻部: 髪・眉・髭・髻が削りつくり, 顔部-脇付後丁字にナズ, 目・口・耳は外面から穿孔。耳環(耳玉(三連))一組土結付, 体部(ハケ調整後調整等焼結し, 丁字にナズ/白色粒子, 黄母, 石炭	顔部-体部	構成: 良好, 色調: 25YR 5/6 暗赤褐色, 女子線輪, 髪髻よりナズ, 石炭, 左手無欠付, 砂雜を多く含む。凸線
第15回	31	形象/人物	—	114.9	—	人物線刻部: 髪・眉・髭・髻が削りつくり, 顔部-脇付後丁字にナズ調整, 目・口・耳は外面から穿孔。耳環(耳玉(二連))有; 白色粒子, 黄母, 石炭	顔部	構成: 良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 女子線輪, 髪髻よりナズ, 砂雜を多く含む。他の顔部停止作業が異なる
	32	形象/人物	—	116.7	—	人物線刻部: 髪・眉・髭・髻が削りつくり, 顔部-脇付後丁字にナズ調整, 目・口・耳は外面から穿孔。刺差している(耳環(耳玉(三連))有)/白色粒子, 黄母, 石炭	顔部	構成: 中黄良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 女子線輪, 髪髻及び顔部からナズ, 砂雜を多く含む。凸線
第16回	33	形象/人物	—	126.7	—	人物線刻部: 髪・髻・髻が削りつくり, 顔部-脇付後丁字にナズ調整, 目・口・耳は外面から穿孔。耳環(耳玉(三連))有; 白色粒子, 黄母, 石炭, チャート	顔部	構成: 良好, 色調: 25YR 5/6 暗赤褐色, 女子線輪, 髪髻よりナズ及び顔部からナズ, 砂雜を多く含む。凸線
	34	形象/人物	—	114.2	—	人物線刻部: 髪・髻・髻が削りつくり, 顔部-脇付後丁字にナズ調整, 顔は土結付, 顔は外面から穿孔/白色粒子, 黄母, 石炭, チャート	顔部 1/2	構成: 良好, 色調: 25YR 6/6 暗, 女子線輪, 髪髻及び顔部からナズ, 砂雜を多く含む。凸線

図版	番号	種別/器種	口径・長さ	高さ・幅	底径・厚さ	注 記/動 主	保存率	備 考
第 17 図	35	形像/人物	(6.9)	(9.1)	—	人物輪軸部破片、目の下から口の上的のみ残存。鼻部は付後下葉にナラテ磨削。鼻孔の表面は白、目と口の外面から白色粒子、黒色。表面は黒色。	破片	焼成：良好、色調：5YR 6/6 程。骨、牙粉、砂粒を多く含む。
	36	形像/人物	(10.8)	(8.0)	—	人物輪軸部。正面と裏のみ残存。鼻・鼻部は付後下葉にハケ調整。目・口の外面から白色粒子、黒色。表面は黒色。	破片	焼成：やや良好、色調：2.5YR 4/4 に近い赤褐色。砂粒を多く含む。
	37	形像/人物	(4.2)	(6.3)	—	人物輪軸の一部。口・鼻のみの残存。鼻部は付後下葉にハケ調整。目・口の外面から白色粒子、黒色。	破片	焼成：良好、色調：2.5YR 4/4 に近い赤褐色。砂粒を多く含む。
	38	形像/人物	(7.0)	(5.2)	—	人物輪軸の一部。右目・左耳のみの残存。目・耳は外面からの白色粒子、黒色。	破片	焼成：やや良好、色調：2.5YR 4/4 に近い赤褐色。骨粉を多く含む。
	39	形像/人物	(5.1)	(3.8)	—	人物輪軸部破片。男子輪軸後部。後頭部を粘土土で貼付/白色粒子、石灰。	破片	焼成：やや良好、色調：5YR 5/4 に近い赤褐色。31、34と同様の骨子を含む。
	40	形像/人物	(3.9)	(2.8)	—	人物輪軸部破片。男子輪軸後部。後頭部を粘土土で貼付/白色粒子。	破片	焼成：良好、色調：5YR 5/4 に近い赤褐色。31、34と同様の骨子を含む。
	41	形像/人物	(2.0)	(1.7)	—	人物輪軸部破片。男子輪軸後部。後頭部を粘土土で貼付/白色粒子、チャート。	破片	7 焼成：良好、色調：5YR 5/4 に近い赤褐色。砂粒を多く含む。31、34と同様の骨子を含む。
	42	形像/人物	(3.0)	(3.4)	—	人物輪軸部破片。粘土土を層状にして貼付/白色粒子。	破片	焼成：良好、色調：5YR 5/4 に近い赤褐色。砂粒を多く含む。
	43	形像/人物	(6.0)	(6.2)	—	人物輪軸部破片。外面はタテハチを丁寧にナラテを施す/白色粒子、黒色粒子、歯粉。	破片	焼成：良好、色調：5YR 5/4 に近い赤褐色。砂粒を多く含む。
	44	形像/人物	(14.8)	(9.3)	—	人物輪軸右眼下部。鼻を前方に出す。外面に衣服等の表面は見取れない/白色粒子、黒色粒子、歯粉、石灰。	破片	焼成：良好、色調：5YR 5/4 に近い赤褐色。骨子一部残存。砂粒を多く含む。
	45	形像/人物	(5.9)	(5.3)	—	人物輪軸右眼下部。瞳孔の一部が残存する。内面に輪軸からの粘りが残る/白色粒子、歯粉、チャート。	破片	焼成：良好、色調：5YR 5/4 に近い赤褐色。骨子一部残存。砂粒を多く含む。
	46	形像/人物	(8.1)	(7.5)	—	人物輪軸右眼下部。瞳孔一部残存/白色粒子、チャート。	破片	焼成：良好、色調：5YR 5/4 に近い赤褐色。骨子一部残存。砂粒を多く含む。
	47	形像/人物	(9.4)	(10.1)	—	人物輪軸部。鼻はハケ調整約 1.0 cm の粘土土で貼付。鼻骨粉、磨削調整約 1.20 cm / 白色粒子、黒色粒子、歯粉。	破片	焼成：やや良好、色調：5YR 5/6 明赤褐色。砂粒を多く含む。(φ4~5mm のチャートを含む)
	48	形像/人物	(6.2)	(10.4)	—	鼻を持つ女子。中央で手首から残存。顔面以外の顔は欠損。顔面以外の 4 本の指は粘土土で貼付。外周をなでて手首の半を露出。手首は成形時を貼り付けている/白色粒子、歯粉、チャート。	破片	焼成：良好、色調：5YR 5/6 明赤褐色。左手のみ残存。砂粒を少量含む。
49	形像/人物	(5.7)	(2.5)	—	人物輪軸右手首部分。手首から先欠損。径 2.0 cm のチャートを含む/白色粒子、歯粉、チャート。	破片	焼成：良好、色調：5YR 5/6 明赤褐色。人物のお手首。砂粒を少量含む。	
50	形像/不明	(2.5)	(3.2)	—	顔面不明な輪軸。顔面から内面側のものに貼り付けられていたと考えられる/白色粒子、歯粉。	破片	焼成：良好、色調：2.5YR 5/6 明赤褐色。	
51	形像/不明	(3.7)	3.5	3.2	顔面不明な輪軸。中央の内面。顔面側は見取れない/白色粒子、チャート。	破片	焼成：良好、色調：2.5YR 5/4 に近い赤褐色。	
52	形像/不明	(5.6)	(2.4)	2.8	顔面不明な輪軸。中央の内面。顔面側。片側輪軸がソケット状になっている/白色粒子、黒色粒子、歯粉。	破片	焼成：やや良好、色調：5YR 7/6 褐色。砂粒を多く含む。	
53	形像/不明	(5.8)	(8.0)	—	顔面不明な輪軸。顔面側からアーク状のパーツに板状土で貼付/白色粒子、黒色粒子、歯粉、石灰、チャート。	破片	焼成：良好、色調：5YR 6/6 褐色。	
54	形像/不明	(4.6)	(5.3)	—	顔面不明な輪軸。一枚の板状土を整形力/白色粒子、黒色粒子、石灰、チャート。	破片	焼成：良好、色調：5YR 6/6 褐色。磨削 0.6~1.1	
第 18 図	55	形像/不明	(12.5)	(27.0)	(11.0)	顔面不明な輪軸。残存する 3 箇所とも直立せず傾斜し、また顔面側が 3 箇所とも異なる/白色粒子、黒色粒子、歯粉。	破片	焼成：良好、色調：5YR 5/4 に近い赤褐色。砂粒を多く含む。磨削 1.8~1.8 cm
	56	土器類/蓋	—	(12.2)	(8.0)	外面：ヘラズリ・ナデ。内面：ヘラズリ	断面	外面に僅かに赤色が残る。断面に磨

第 6 表 ハケ遺跡第 16 地点出土縄文時代遺物観察表 (単位 cm)

図版	番号	出土遺構	種別/器種	部位	口径・長さ	高さ・幅	底径・厚さ	施文/備考	時期/型式
第 18 図	57	遺構外	縄文土器/深鉢	口縁部	—	—	—	波状口縁/地文組紐 L/R。コンパス文。突起部に瘤状貼付け/胎土：セシイを含む	縄文時代前期/岡山 II 式
	58	遺構外	縄文土器/深鉢	口縁部	—	—	—	地文 LR・RL 羽状文様。半鹿竹管状工具による波状文。瘤状文。口唇部に押圧伴う突起/内面赤彩/胎土：セシイを含む	縄文時代前期/岡山 II 式
	59	遺構外	縄文土器/深鉢	口縁付近	—	—	—	地文 LR・RL 縄文を菱形に施文。コンパス文/胎土：セシイを含む	縄文時代前期/岡山 II 式
	60	遺構外	縄文土器/深鉢	胴部	—	—	—	縦位の瘤状文工具文/胎土：粗粒砂を含む	縄文時代中期/曾利系
	61	遺構外	縄文土器/深鉢	胴部	—	—	—	棒状工具による沈線文/胎土：中～粗粒砂含む	縄文時代後期/堀之内 2
	62	遺構外	縄文土器/深鉢	胴部	—	—	—	棒状工具による沈線文/胎土：中粒砂含む/63 と同一個体	縄文時代後期/堀之内 2
	63	遺構外	縄文土器/深鉢	胴部	—	—	—	棒状工具による沈線文/胎土：中粒砂含む/62 と同一個体	縄文時代後期/堀之内 2
	64	遺構外	縄文土器/深鉢	口縁部	—	—	—	地文横位 LR 縄文。口唇部に刻みを伴う突起。口縁部内面に沈線/胎土：粗粒砂、小れキを含む	縄文時代後期/加曾利 B
	65	遺構外	縄文土器/深鉢	口縁部	—	—	—	口縁部に横位 LR 縄文。弧状・平行沈線文。沈線間は磨りけし。列点文/器面磨き了/胎土：白色粒子を含む	縄文時代後期/加曾利 B2
	66	遺構外	縄文土器/浅鉢	口縁部	—	—	—	外面は輪軸み跡を明確に残す。内面はナデにより調整/胎土：角閃石を含む	縄文時代晩期/安行 3c~d
	67	遺構外	縄文土器/深鉢	底部	—	7.4	10.8	底面に網代跡/器面磨き調整/胎土：中～粗粒砂含む	縄文時代後期/加曾利 B

第4章 ハケ遺跡第19地点

I 調査に至る経過と概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2015年3月9日付で「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内に位置するため、原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を行った。

本地点は北西側において、ふじみ野市内で初めて人物埴輪が出土した第16地点と接している。また調査区南側には御嶽神社と、かつて祠が置かれていたであろう痕跡の残る小丘があり、以前より古墳である可能性が指摘されていた場所である。

試掘調査は4月2日～5月11日まで、また御嶽神社下を10月13日に行った。幅約1.5mのトレンチを計23本設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行ったところ、縄文時代の集石土坑1基、古墳時代の円墳4基、古代以降の溝1条等を確認した。地表面から遺構確認までの深さは40～80cmである。御嶽神社と2号墳部分の削平と道路築造部分において遺跡への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は2015年6月2日～9月19日まで行い、縄文時代の集石土坑2基、古墳時代の円墳4基、土坑5基、ビット多数、溝4条を検出、縄文土器、土師器、埴輪等が出土した。なお旧石器時代の確認調査は行っていない。

本調査は開発の影響を受ける部分のみの調査を行ったため、便宜上2号墳をA区、3号墳東側をB区、3号墳西側と4号墳をC区、北側の堀跡をD区、2号墳の北東側1号集石土坑をE区とした。また、第16地点で発見された1号墳の周溝の続きを本調査で検出したが、前章で報告済みのため本章では割愛する。

II 遺構と遺物

(1) 古墳

今回の調査では新たに古墳3基を検出した。各古墳については以下のとおりである。なお、本調査は開発の影響を受ける部分のみ行ったため、3号墳の一部は保存措置となった。

① 2号墳

【位置】調査区南側に位置する。南側で御嶽神社と接

する。

【形状・規模】墳径18m、周溝外径25.2mの円墳である。なお、残存していると考えられた墳丘に関しては、土層の観察から2号墳築造当時の墳丘ではなく、後世になって盛土がなされたものと考えられる。

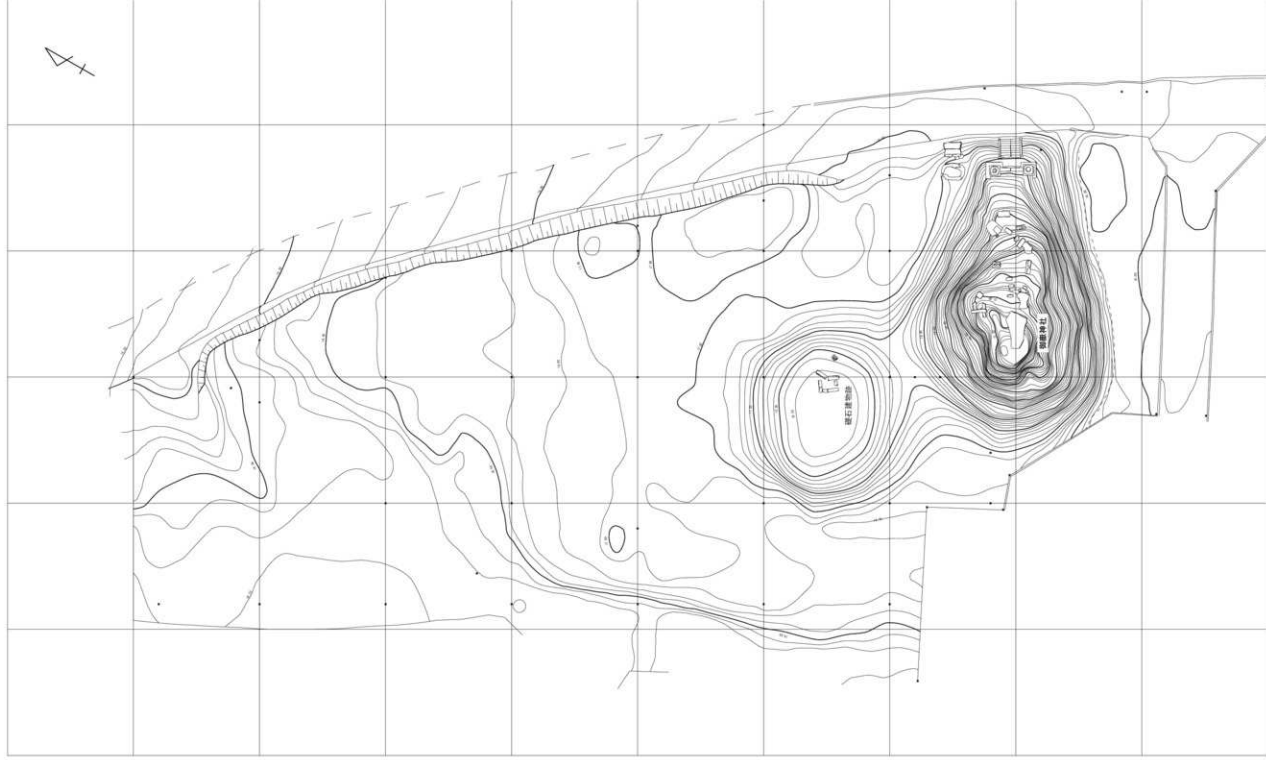
【主体部】埋葬主体部については、墳丘の改変が激しく特定するに至らなかった。ただし墳丘を断ち割った際に、墳丘中央で部分的ではあるが白色粘土が集中する層が見受けられたため、この周辺に主体部が存在していたものと想定される。

【周溝】規模は上幅3.3～4.0m、下幅1.8～2.5m、深さ0.8～1.1mである。全周はせず、北西部にブリッジを持つ。ブリッジを挟んだ東側は底面に向かってなだらかに傾斜するが、対する西側は傾斜がきつく、ほとんど垂直に立ち上がる。墳丘東側は、墳丘面がなだらかに立ち上がるのに対し、外側の立ち上がりが急峻である。ブリッジより西側は両面の立ち上がりに大きな差は見受けられない。底面最下層にはロームを多量に含む黄褐色土が比較的平らに堆積しており、「整地面」を形成する。

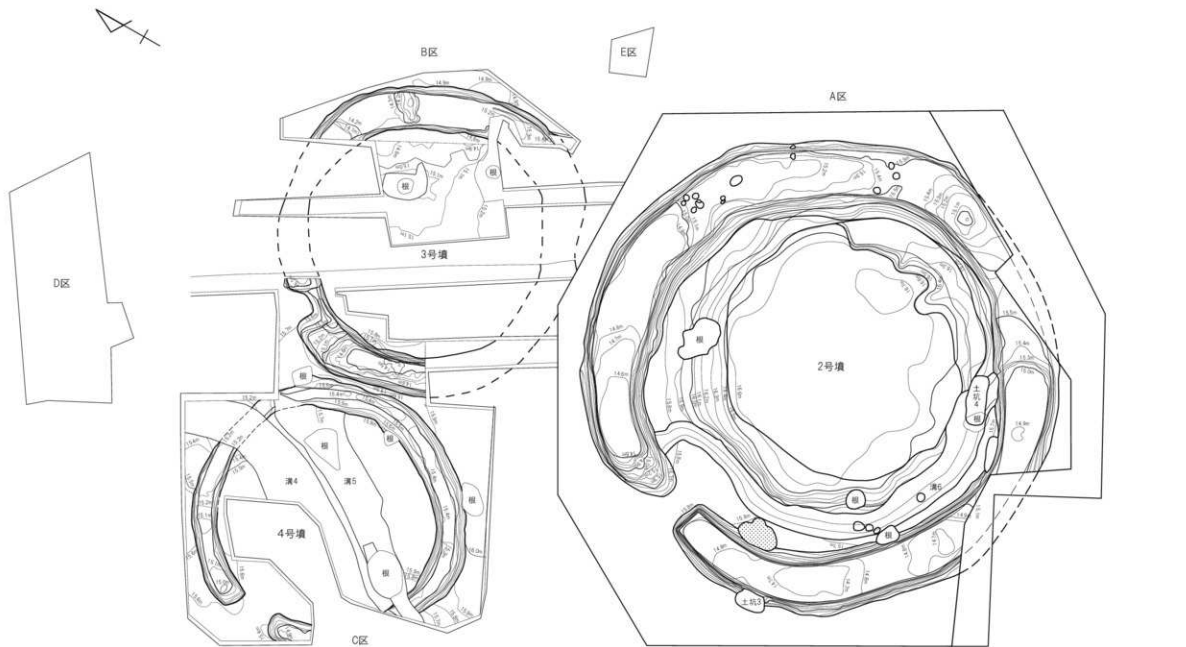
【遺物出土状況】出土遺物は土師器、円筒埴輪、須恵器、縄文土器、石器である。土師器環は周溝底部より出土した。1、2は周溝南西底部に正位置で、3は南東部分の底部から約10cmの高さより伏せた状態で発見された。円筒埴輪の多くは破片で、周溝覆土中または墳丘表土中から出土している。原位置を保つものではなく、また墳丘から周溝へ転落したようなものも確認できなかった。全体的に出土量が少なく、小片が多いことから、2号墳において埴輪の樹立はなかった可能性も考えられる。また、縄文土器片、石器もかなりの数が出土しており、その多くは墳丘表土中からである。墳丘築造の際、周辺の縄文時代遺構を破壊したものと想定できよう。

【出土遺物】(第27・28図1～35)

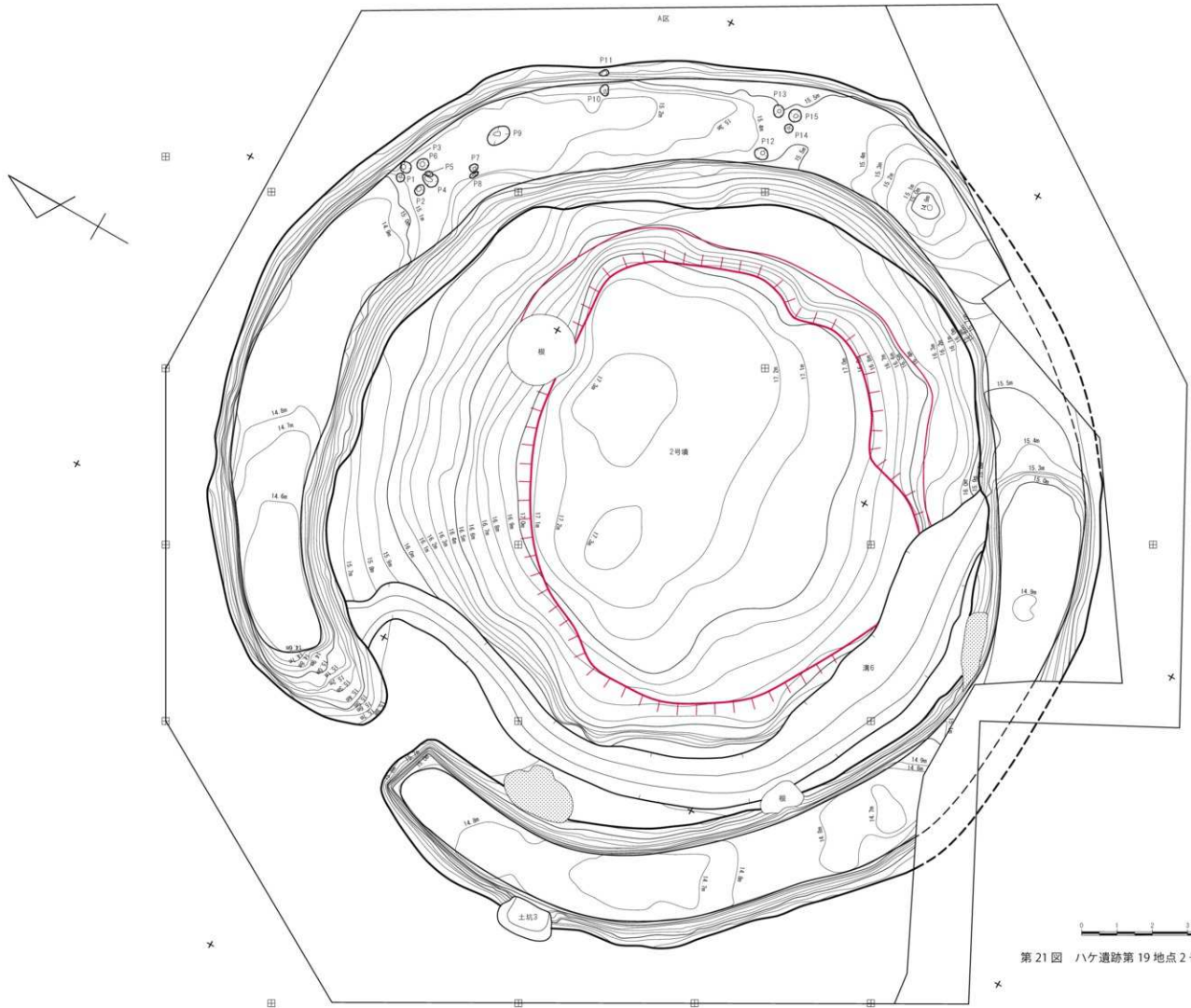
1～3は土師器環である。いずれも比企型環で、内面と外面口縁部に赤彩が施される。2・3は外面底部に広い範囲で黒斑が認められる。1は外面全体に赤彩を施した後、さらにヘラズリで調整を行っている。3個体とも口径はほとんど同じで11.6～11.7cm、器高は1が4.1cmとやや低く、2・3は4.8cmである。3点とも5世紀末～6世紀初頭に属すると考えら



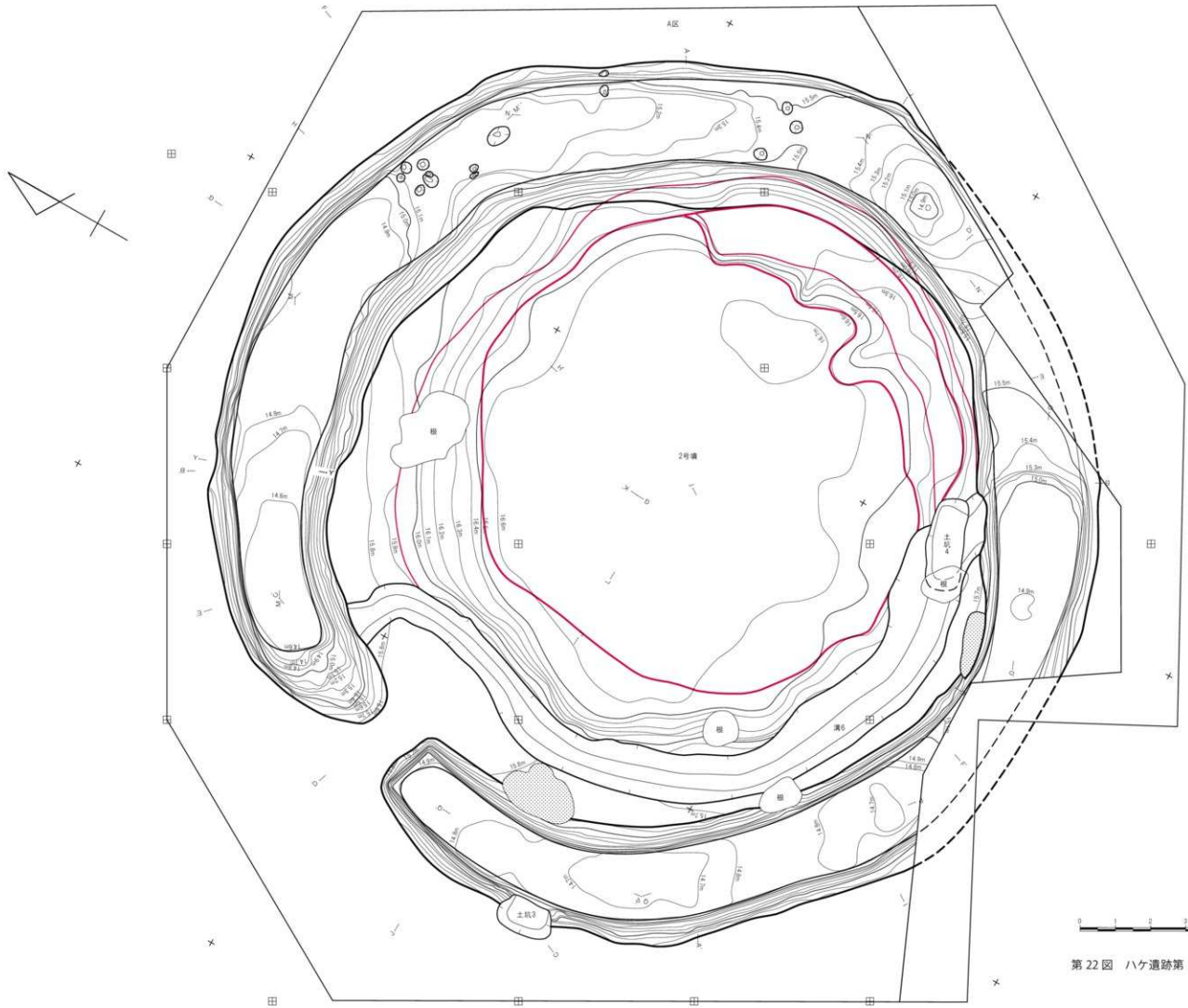
第19图 八岔通隧第19地点原地形填丘测量图(1:300)



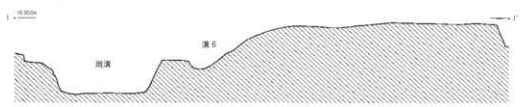
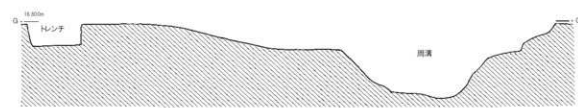
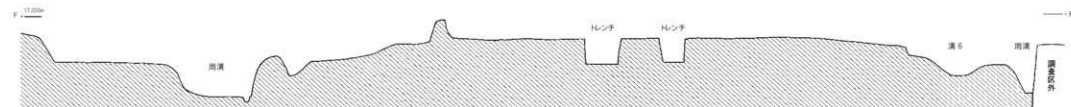
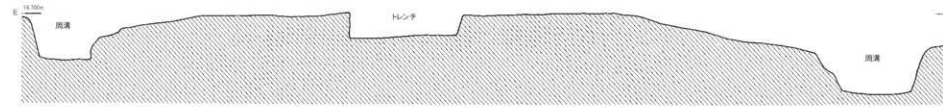
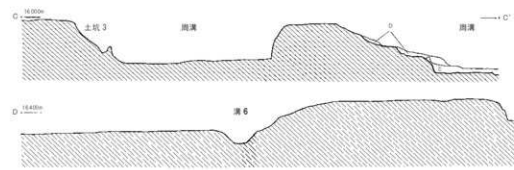
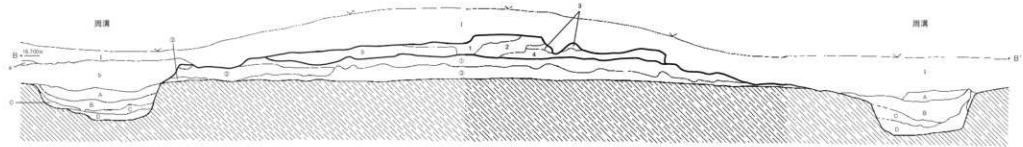
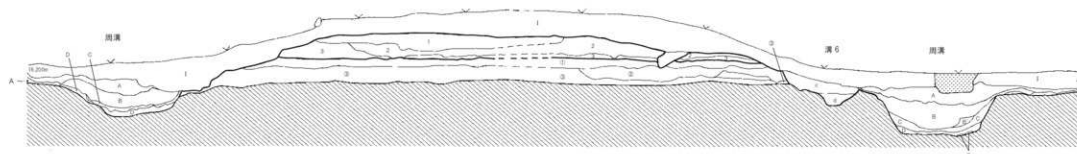
第 20 図 ハケ遺跡第 19 地点遺構配置図 (1/200)



第21図 ハケ遺跡第19地点2号墳填丘測量図(1/100)



第22図 ハゲ遺跡第19地点2号墳掘方(1/100)

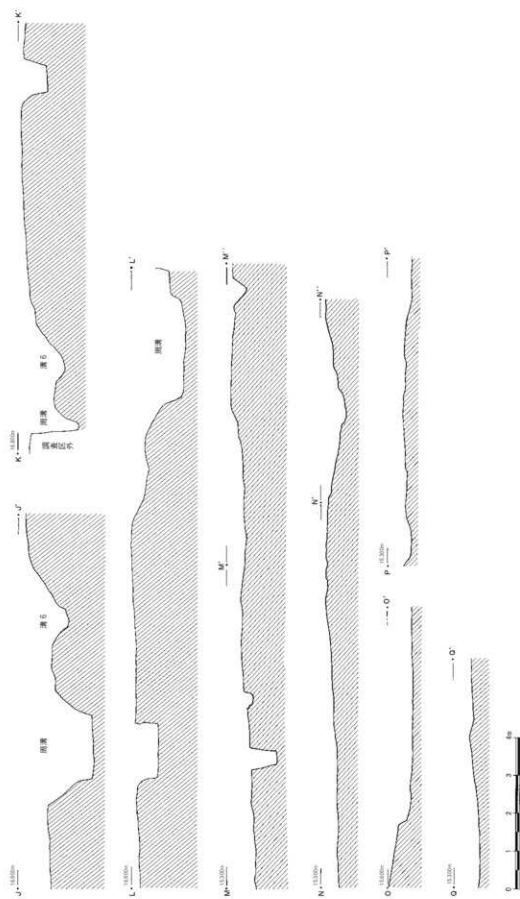


- A-A'・B-B'
- 1: 表土 (暗褐色土)
 - a: 層積土 (黄褐色土)
 - b: 弥生時代末式土 (暗褐色土、ロームブロックを多く含む)
 - c: 暗褐色土、20mm以下ローム粒・赤色粒少し、1mm以下黒色粒種かに含む
 - d: 黄褐色土、1mm以下ローム粒少し、1mm以下黒色粒種かに含む
- 【埋込層土】
- 1: 暗褐色土、締り強、20cm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒非常に多い、1mm程度赤色粒少量含む
 - 2: 鈍い黄褐色、締りやや強、10cm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒多い、10cm以下黒土ブロック少量含む
 - 3: 黄褐色土、締り強、1mm以下ローム粒・1mm以下赤色粒少量、20cm程度ロームブロック種かに含む
 - 4: 黄褐色土、締り強、1mm以下ローム粒・赤色粒少量、20cm程度ロームブロック種かに含む、3層より粘みが高い
- 【埋込層上】
- A: 黄褐色土、締り強、粘性有、5mm程度ロームブロック・1～3mmローム粒やや多く含む
 - B: 黄褐色土、締りやや弱、粘性有、20mm以下ローム粒少量含む
 - E: 暗褐色土、締り強、粘性有、1mm以下ローム粒多く含む
 - C: 暗褐色土、締り強、粘性有、1～50mmロームブロック・1mm以下ローム粒多く含む
 - D: 鈍い黄褐色土、締り強、粘性有、30cm以下ロームブロック・2mm以下黒色粒を多く、1mm大赤色粒を少量含む
 - F: 黄褐色土、締り強、粘性有、5mm以下ローム粒を多く含む

P18・P19
1: 暗褐色土、締り強、粘性有、10cm以下ロームブロック・2mm以下ローム粒とても多く、1mm以下黒色粒少し含む



第23図 ハケ遺跡第19地点2号墳土層図①(1/100)

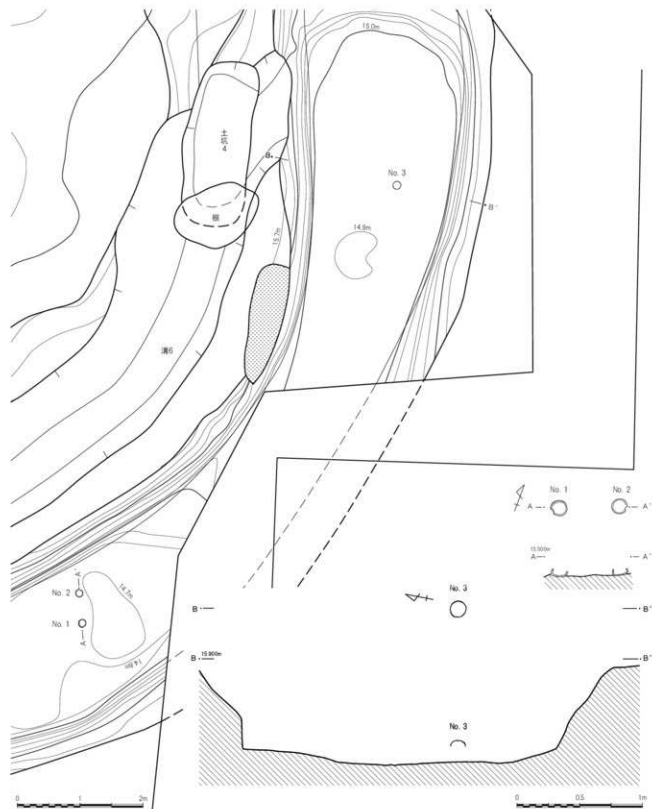


第 24 図 ハケ遺跡第 19 地点 2 号墳土層図② (1/100)

れる。

4～28は円筒埴輪破片、29は形象埴輪破片である。4～7が口縁部、8～23が体部、24～28が底部である。いずれも破片で、全体を復元できるものはなかった。またほとんどが小片のため、突帯間の長さがわかるものもない。

本地点で出土した埴輪片はA類とB類の二つに大別される。A類は色調が赤色～赤褐色(10R5/6～2.5YR4/6)を呈し、胎土に白色粒子を多量に含む一群である。他と比べて作りが厚手であることも特徴である。外面調整はタテハケ、内面はナナメハケを施す。B類は色調が橙色(5YR6/6または7.5YR6/6)を



第25図 ハケ遺跡第19地点2号埴輪物出土状況(1/60・1/30)

呈する一群である。こちらはA類に比べて薄手の作りで、小礫をやや多く含む傾向にある。外面調整はタテハケ、内面は丁寧にナデを施す。2号墳においてはA類が全体の60%を占める。突帯は概ね低いM字形を呈す。11・21は透孔部である。どちらも一部分のみの残存であるため形状等は不明であるが、外面から時計回りで穿孔後、指ナデを施す。12には指頭痕が良く残る。24・25は底部で復元が可能だったものである。24は底部復元径12.5cmで上部へ強く外反する。25は底部復元径13.3cmで24ほどではないが外へと広がる。

29は器種不明の形象埴輪片である。外面は剥落が激しいが、一部にハケによる調整が施される。また粘土組の剥落痕が確認できる。内面はナデを施す。

30～34は埴丘覆土中より出土した土師器と須恵器である。30は二重口緑壺の口縁部～頸部にかけてである。頸部は全周するが、口縁部は1/6程度しか残存していない。口縁部復元径は20.0cm、頸部径8.4cmである。内外面ともに赤彩が施される。口縁が大きく外へ広がり、頸部の伸長は見られない。1937(昭和12)年に山内清男によって調査された旧福岡横内遺跡出土の二重口緑壺と形態的に類似する。この二重口緑壺の出土地点は、2号墳より約350m南東の古墳時代集落跡から出土したものとされる。さらに南には古墳時代前期を中心とした権現山古墳群へと続いており、この付近から何らかの理由で2号墳表土中に混入したものと考えられる。31は土師器壺の底部に近い胴部である。外面に赤彩が認められ、また部分的に

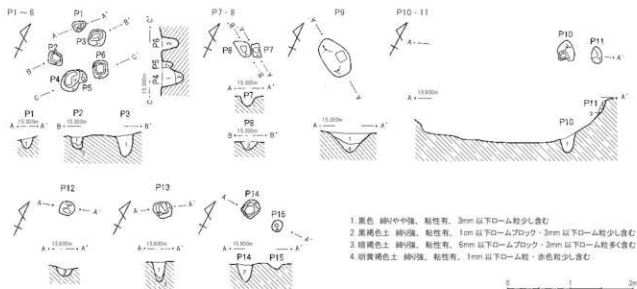
煤が付着する。胴部下半に最大径があるタイプと考えられ、おおよそ6世紀前半に位置付けられる。表土中より出土したため2号墳に帰属するかは不明だが、周溝出土の土師器杯と同時期である。32～35は須恵器である。32は甕、33・34は坏蓋、35は甕である。いずれも破片で、埴丘表土中の出土であるため、2号墳に帰属するものではない。

② 2号墳周溝内ピット

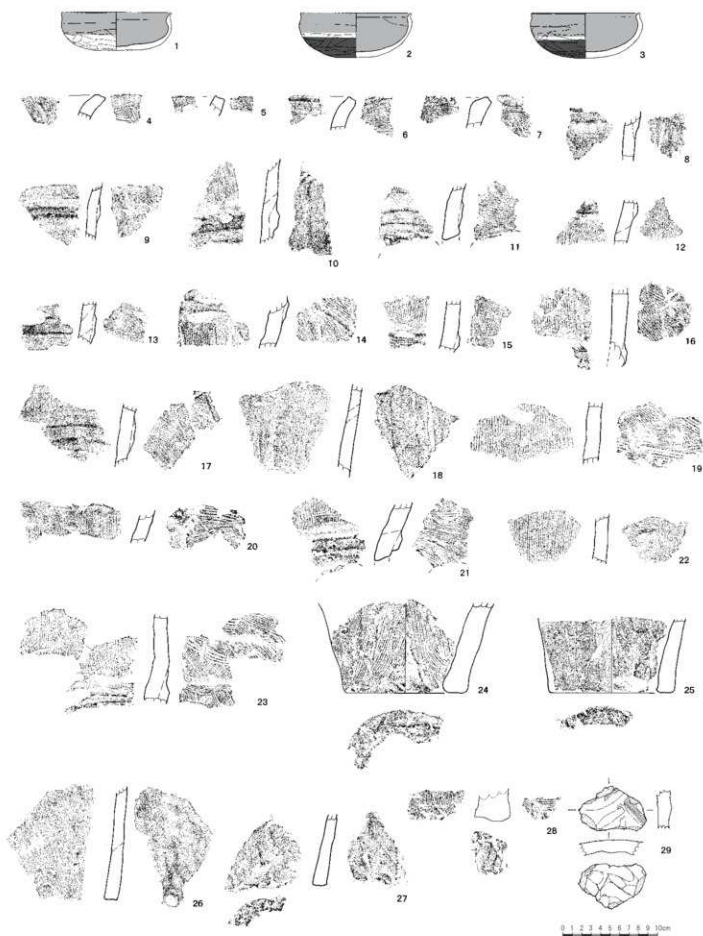
2号墳の周溝底部から15基のピットが検出された。いずれも周溝北東から東側にかけて位置する。規模等の詳細は第7表参照。いずれも径が小さく浅いものである。その中でも3、4、10号ピットは比較的深い。現状で残屋のような建物は想定できない。

第7表 ハケ遺跡第19地点2号墳周溝内ピット一覧表(単位cm)

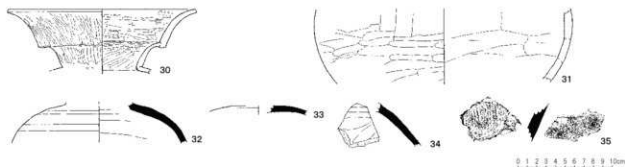
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	三角形	19×16	12×9	23.7
2	方形	21×19	11×10	23.8
3	方形	25×24	15×5	46.4
4	不明	35×(28)	27×10	43.5
5	不明	17×(12)	5×4	21.2
6	方形	28×24	13×13	34.2
7	方形	22×14	10×7	14.3
8	楕円形	35×18	2×2	27.6
9	楕円形	65×40	15×13	34.5
10	不整形	28×26	8×4	38.4
11	楕円形	26×18	11×11	24.9
12	方形	23×20	12×6	21.4
13	円形	29×26	15×7	32.8
14	方形	28×24	15×13	30.2
15	円形	17×16	5×4	9.3



第26図 ハケ遺跡第19地点2号墳ピット (1/60)



第27図 ハケ遺跡第19地点2号墳出土遺物① (1/4)



第28図 ハケ遺跡第19地点2号墳出土遺物②(1/4)

第8表 ハケ遺跡第19地点2号墳出土古墳時代遺物観察表(単位cm・g)

図版	番号	種別/部位	口径・長さ	縦高・幅	底径・厚さ	形状/出土	残存率	推定年代	備考
	1	土師器/片	11.6	4.1	-	ナデ、ヘラウズリ。内外面に赤絵/白色絵子。黒色絵子	破片	6世紀初	
	2	土師器/片	11.7	4.8	-	ナデ、ヘラウズリ。内外面に赤絵。腹部に黒絵/白色絵子	破片	6世紀初	
	3	土師器/片	11.2	4.8	-	ナデ、ヘラウズリ。内外面に赤絵。腹部に黒絵/白色絵子。黒色絵子	破片	6世紀初	
	4	内底/口縁部	-	12.7	-	内:黒コハク・ナデ。外:タテハク・ナデ/白色絵子。黒色絵子	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:5YR 4/6 赤褐色。白色絵子の墨人が目立つ。A類
	5	内底/口縁部	-	12.0	-	内:ハク黄ナデ。外:ハク黄ナデ/白色絵子。赤色絵子	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 4/4 に近い赤褐色。白色絵子の墨人が目立つ。A類
	6	内底/口縁部	-	13.5	-	内:ナメハク。外:タテハク黄ナデ/白色絵子。黒色絵子	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 4/6 赤褐色。白色絵子の墨人が目立つ。A類
	7	内底/口縁部	-	12.4	-	内:黒コハク・ナデ。外:タテハク・ナデ/白色絵子。黒色絵子	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 4/6 赤褐色。白色絵子の墨人が目立つ。A類
	8	内底/腹部	-	15.4	-	内:ナデ。外:タテハク・突雲絵付/白色絵子。黒色絵子。黒石	破片	6世紀代	焼成:やや良好。赤絵:5YR 5/6 暗赤褐色。砂鉄多量を含む。突雲絵付が鮮明。赤絵に濃い黄緑。目録
	9	内底/腹部	-	16.2	-	内:ナデ。外:タテハク・ナデ・突雲絵付/白色絵子。黒色絵子。黒石	破片	6世紀代	焼成:やや良好。赤絵:5YR 6/6 暗赤褐色。砂鉄多量を含む。突雲絵付が鮮明。ハク目20重/2cm。目録
	10	内底/腹部	-	18.8	-	内:ナデ。外:タテハク・ナデ・突雲絵付/白色絵子。黒色絵子	破片	6世紀代	焼成:やや良好。赤絵:5YR 5/6 暗赤褐色。砂鉄多量を含む。突雲絵付が鮮明。ハク目20重/2cm。目録
	11	内底/腹部	-	16.1	-	内:ナデ。外:タテハク・ナデ・突雲絵付/白色絵子。黒色絵子	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 4/6 赤褐色。白色絵子の墨人が目立つ。突雲絵付が鮮明。A類
	12	内底/腹部	-	14.7	-	内:ハク黄ナデ。外:タテハク・ナデ・突雲絵付/白色絵子。黒色絵子。黒母	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 4/6 赤褐色。白色絵子の墨人が目立つ。突雲絵付が鮮明。ハク目12重/2cm。目録
	13	内底/腹部	-	14.4	-	内:ナメハク。外:ナデ・突雲絵付/白色絵子。黒色絵子	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 4/6 赤褐色。白色絵子の墨人が目立つ。突雲絵付が鮮明。A類
	14	内底/腹部	-	13.7	-	内:ナメハク黄・黒母サエ。外:タテハク・ナデ・突雲絵付/白色絵子。黒色絵子	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 4/4 に近い赤褐色。白色絵子の墨人が目立つ。突雲絵付が鮮明。目録
	15	内底/腹部	-	13.6	-	内:ハク黄ナデ。外:タテハク・ナデ・突雲絵付/白色絵子。赤色絵子	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 4/6 赤褐色。白色絵子の墨人が目立つ。突雲絵付が鮮明。A類
第27図	16	内底/腹部	-	18.4	-	内:ナメハク。外:タテハク・ナデ・突雲絵付/白色絵子。黒色絵子	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 4/6 赤褐色。砂鉄多量を含む。突雲絵付が鮮明。赤絵に濃い黄緑。目録
	17	内底/腹部	-	18.8	-	内:ナメハク。外:タテハク・ナデ・突雲絵付/白色絵子。黒色絵子。黒母	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 4/6 赤褐色。砂鉄多量を含む。突雲絵付が鮮明。赤絵に濃い黄緑。目録
	18	内底/腹部	-	110.1	-	内:ナデ。外:タテハク/白色絵子。赤色絵子。黒石。黒母	破片	6世紀代	焼成:やや良好。赤絵:5YR 6/6 暗赤褐色。砂鉄多量を含む。ハク目11重/2cm。目録
	19	内底/腹部	-	16.7	-	内:ナメハク。外:タテハク/白色絵子。黒色絵子	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 4/6 赤褐色。白色絵子の墨人が目立つ。ハク目9重/2cm。目録
	20	内底/腹部	-	13.4	-	内:黒コハク。外:タテハク・ナデ/白色絵子。黒母	破片	6世紀代	焼成:不発。赤絵:2.5YR 5/6 暗赤褐色(内底:5YR 6/6 暗赤褐色)。ハク目11重/2cm。目録
	21	内底/腹部	-	16.6	-	内:ナメハク。外:タテハク・ナデ・突雲絵付/白色絵子。黒色絵子	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 4/6 赤褐色。白色絵子の墨人が目立つ。突雲絵付が鮮明。ハク目12重/2cm。目録
	22	内底/腹部	-	15.3	-	内:ナメハク・ナデ・黒母。外:タテハク/白色絵子	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 4/6 赤褐色。白色絵子の墨人が目立つ。ハク目9重/2cm。目録
	23	内底/腹部	-	19.6	-	内:ナメハク。外:タテハク・ナデ・突雲絵付/白色絵子。黒色絵子	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 5/6 暗赤褐色。赤絵に濃い黄緑。ハク目10重/2cm。目録
	24	内底/腹部	-	18.5	132.5	内:ナメハク黄ナデ。外:タテハク/白色絵子。黒色絵子。黒母	破片1/2	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 4/6 赤褐色。白色絵子の墨人が目立つ。ハク目10重/2cm。目録
	25	内底/腹部	-	17.9	113.1	内:ナデ。外:タテハク/白色絵子。黒色絵子。黒石。黒石	破片1点	6世紀代	焼成:良好。赤絵:5YR 4/6 赤褐色。白色絵子の墨人が目立つ。ハク目10重/2cm。目録
	26	内底/腹部	-	112.1	-	内:ナデ。外:タテハク/白色絵子。黒色絵子。黒石。黒石	破片	6世紀代	焼成:やや良好。赤絵:5YR 6/6 暗赤褐色。砂鉄多量を含む。ハク目10重/2cm。目録
	27	内底/腹部	-	17.5	-	内:ナデ。外:タテハク/白色絵子。黒色絵子。黒石。黒母	破片	6世紀代	焼成:やや良好。赤絵:5YR 6/6 暗赤褐色。砂鉄多量を含む。ハク目10重/2cm。目録
	28	内底/腹部	-	13.2	-	内:ハク。外:タテハク/白色絵子。赤色絵子。黒母	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 4/6 赤褐色。白色絵子の墨人が目立つ。ハク目10重/2cm。目録
	29	形状不明	(4.1)	(7.2)	-	内:ナデ。外:ハク・ナデ/白色絵子。赤色絵子。黒母	破片	6世紀代	焼成:良好。赤絵:2.5YR 7/6 暗赤褐色。砂鉄多量を含む。白色絵子の墨人が目立つ。断面厚さ1.8cm。A類
第28図	30	土師器/二重口縁部	120.0	16.9	-	ハクナデ。ヘラウズリ。内外面に赤絵/白色絵子。黒色絵子模造含む	口縁部	4世紀初~9世紀	
	31	土師器/壺	-	19.5	-	内外面ナデ。外面に赤絵。部分的に埋付けた白色絵子。小輪。黒母含む	胴部破片	新羅末~7(24)	
	32	須恵器/壺	-	14.3	-	白絵ヘラウズリ。外面に自然釉	破片	天刀川部破片	
	33	須恵器/片蓋	-	11.0	-	白絵ヘラウズリ	破片	部分的にツマミの痕跡が残る	
	34	須恵器/片蓋	-	14.4	-	白絵ヘラウズリ	破片	胴部破片	
	35	須恵器/壺	-	14.2	-	平打タタキ。ナデ/白色絵子。ネットを含む	破片	-	

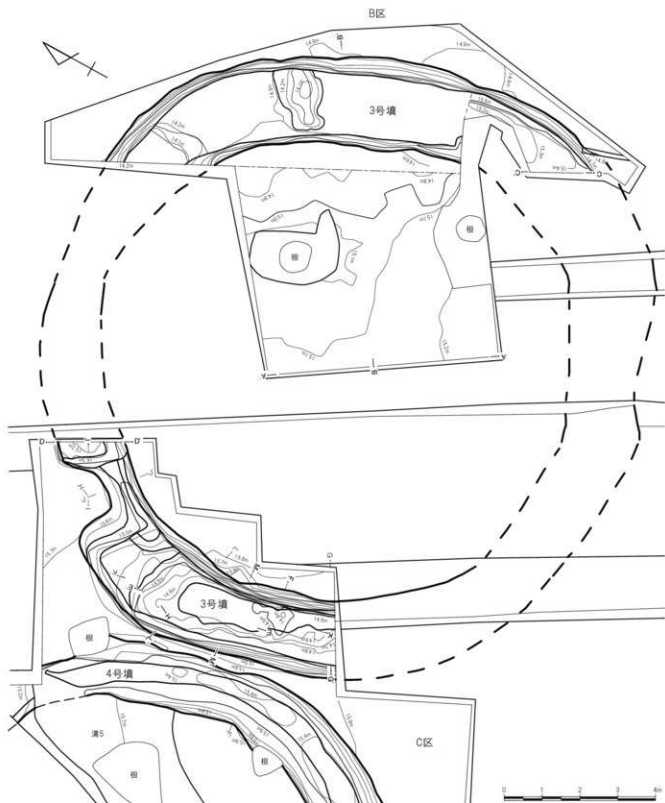
③ 3号墳

【位置】調査区中央東側に位置する。南西に2号墳、西に4号墳が存在する。4号墳周溝はわずかに40cm程度しか離れていない。

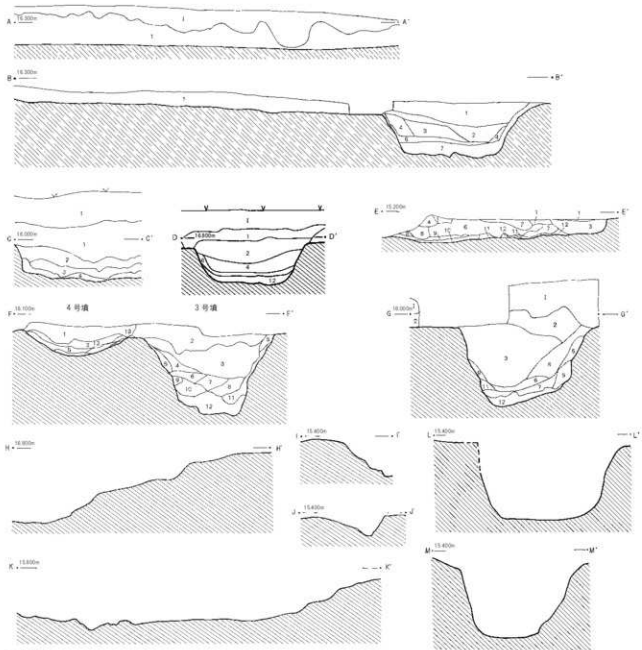
【形状・規模】墳丘復元径12.3m、周溝外径16.2m、北西にブリッジを持つ円墳である。

【主体部】墳丘はすでに削平されていたため、主体部は確認できなかった。

【周溝】規模は上幅2.0～2.2m、下幅1.0～1.6m、深さ1.0～1.2mである。北西部にブリッジを有するが、墳丘側に幅約1m、深さ0.3mの落ち込みが存在する。そのためブリッジが墳丘側で途切れる。遺構確



第29図 ハケ遺跡第19地点3号墳墳丘測量図(1/100)



A-A'・B-B'

1. 表土

1. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、1mm以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm程度ローム粒やや多く含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、1～3mmローム粒多く含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒少し～やや多く含む
6. 暗黄灰色土 締り強、粘性有、5mm未満ローム粒多く含む
7. 黄褐色土 締り強、粘性有、2～4cmロームブロック主体、黒褐色土マーブル状に含む、5mm以下ローム粒少し含む

C-C'

1. 表土

1. 暗褐色土 締りやや強、粘性有、1mm程度ローム粒多く、1mm以下赤色粒子少し含む
2. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、3mm大ロームブロック多く、1mm程度ローム粒多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、5cm以下ロームブロック多く含む
4. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒色土層、固方の土

E-E'

1. 黒褐色土 程度乱

2. 暗褐色土 締り強、粘性有、15mm大ロームブロック少し、1mm大ローム粒非常に多く、1mm大黒色土粒少し含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5～15mmロームブロック・1mm大ローム粒多く含む
4. 暗褐色土 1～2mmローム粒多く、3mm程度僅かに含む
5. 暗褐色土 締り強、粘性有、1～2mm黄褐色土粒子少し、赤褐色土粒僅かに含む
6. 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒僅かに含む
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒少し、暗褐色土マーブル状に含む

8. 黄褐色土 黒褐色土をマーブル状に含む

9. 明黄褐色土 締りやや強、粘性有、1～2cmロームブロック多く、黒色土層かに含む
10. 暗褐色土 締り強、粘性有、15～30mmロームブロック・1mm大ローム粒多く含む
11. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム主体、1mm以下ローム粒多く、黒褐色土層かに含む
12. 褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土マーブル状に含む、1mm大ローム粒少し含む

D-D'・F-F'・G-G'

1. 表土

1. 黒褐色土 1mm以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締りやや強、粘性有、1mm以下ローム粒少し(1層おほい多い)、3mm大ローム粒多く含む
3. 黒褐色土 1～2mmローム粒多く、下層に集中する
4. 暗褐色土 1～2mmローム粒多く、3mm程度僅かに含む
5. 暗褐色土 1cm大ロームブロック多く、1mm大ローム粒少しマーブル状に含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、15mm大ロームブロック少し、1mm大ローム粒非常に多く、1mm大黒色土粒少し含む
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒少し含む
8. 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒多く、黒褐色土層かに含む
9. 黄褐色土 黒褐色土をマーブル状に含む
10. 鈍い黄褐色土 締りやや弱、粘性有、程度乱
11. 暗褐色土 締り強、粘性有、15～30mmロームブロック・1mm大ローム粒多く含む
12. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム主体、1mm以下ローム粒多く、黒褐色土層かに含む
13. 褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土マーブル状に含む、1mm大ローム粒少し含む

第30図 ハケ遺跡第19地点3号墳土層(1/60)

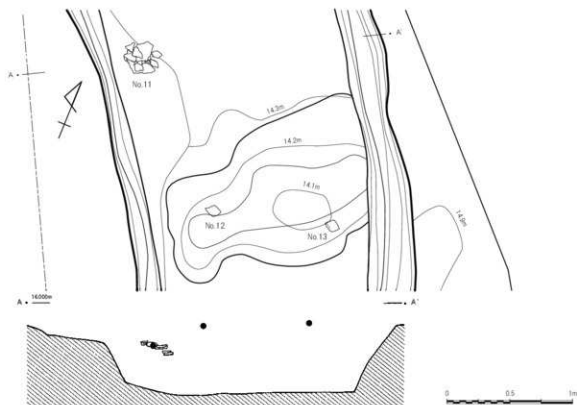
認面でも土層断面でも覆土の切り合い関係は確認できなかった。築造当初から落ち込みが存在していたか、築造後早い段階でブリッジの一部が掘削されたものと考えられる。底部最下層にロームを多量に含む黄褐色土層が比較的平らに堆積し、「整地面」を形成する。

【遺物出土状況】古墳に伴う遺物としては土師器環と甕である。土師器環はすべて墳丘西側周溝内より出土した。周溝底部より50 cm程度上層に集中しており、すべて正位であった。周溝が一定程度埋没した後、廃棄もしくは墳丘より転落したものと考えられる。土師器甕は墳丘東側周溝内、周溝底部より約40 cm上層から出土した。環と同様に周溝が一定程度埋没した後、墳丘より転落または廃棄された可能性が高い。

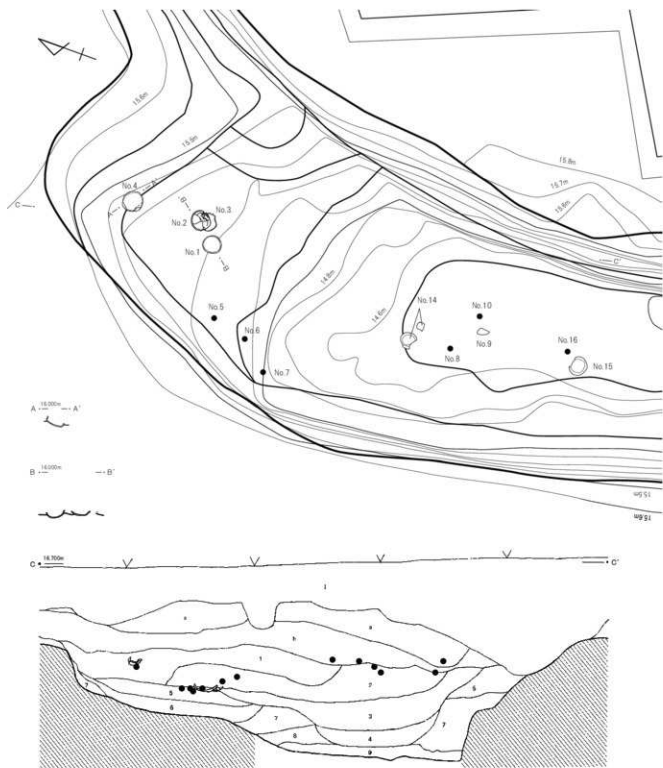
【出土遺物】(第33図1～9)

1～6は土師器環で、すべての環が比企型環である。3以外の5点は口径14.2～14.4 cmである。高さも2以外は5.0 cm前後で比較的均整がとれる。2は若干浅い作りである。3は他の5点と比べて一回り小さく、胎土も1OR 5/6と赤味が強い。口縁部内側に僅かに沈線が確認できる。いずれも6世紀後半～末葉

に帰属する。7は土師器甕の破片である。同一個体と思われる破片は複数出土しているが、頸部～肩部1/3程度しか接合しなかった。ヘラケズリ後に丁寧にナデを施すが、頸部下から肩部の張り出し部分にかけて縦方向のヘラケズリが残る。8は土師器甕の底部である。底径は7.0 cm、胴部復元最大径は(28.5) cmである。内外面ともに器面の磨滅が目立つ。内面には輪積みの痕跡が見られる。9は円筒埴輪の体部破片である。外面上方にヨコナデが残っており、突帯下部の一部と思われる。ハケ目や胎土から1号墳出土の円筒埴輪と近似している。3号墳出土の埴輪片が非常に少ないことを踏まえると、もともと3号墳に埴輪は樹立されておらず、1号墳に樹立していたものの流れ込みと考えられる。



第31図 ハケ遺跡第19地点3号墳遺物出土状況① (1/30)



1 遺土

a 暗黄灰色土 締り強、粘性有、5~15mmロームブロック少し含む

b 暗黄灰色土 締り強、粘性有、シラ朽もしほ層層状に黒色土を多く含む、5~20mmロームブロック少し含む

1 黒色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む

2 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒多く含む、赤色味が有る

3 黒褐色土 締り強、粘性有、5~10mmロームブロック・5mm未満ローム粒やや多く含む

4 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色味が強く、5mm未満少し含む

5 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色味が強く、2mm以下ローム粒多く含む、色調明るめ

6 黒褐色土 締り強、粘性有、5層より黒色味が強い土を主体に5~15mmロームブロック少し含む

7 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土主体に黒褐色ローム粒を多く含む、5~50mmロームブロックを特徴的に多く含む

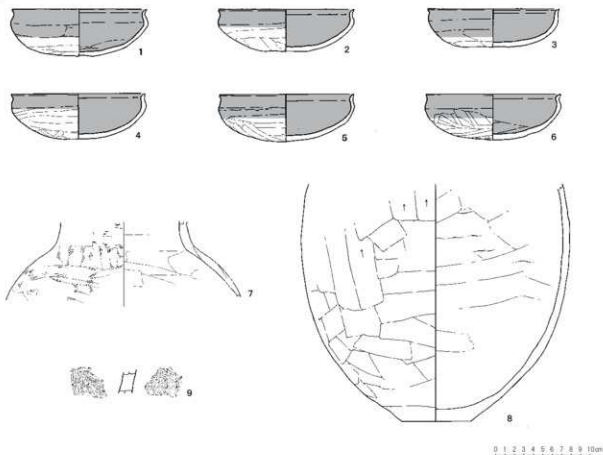
8 黒褐色土 締り強、粘性有、2~5cmロームブロック・5mm未満ローム粒少し含む

9 黒褐色土 締り強、粘性有、硬く締り、15mm以下ロームブロック・5mm未満ローム粒やや多く含む

0 0.5 1m

第 32 図 ハケ遺跡第 19 地点 3 号墳遺物出土状況② (1/30)

3号墳



第33図 ハケ遺跡第19地点3号墳出土遺物(1/4)

第9表 ハケ遺跡第19地点3号墳出土古墳時代遺物観察表(単位:cm)

番号	番号	出土遺構	種別/器種	口径・長さ	器高・幅	底径・厚さ	技法・胎土・備考	残存率	推定年代
第33図	1	3号墳	土師器/環	14.3	5.0	—	ナデ、ヘラケズリ、内外面に赤彩・白色粒子、黒色粒子、小礫をわずかに含む	完形	6世紀後半～末
	2	3号墳	土師器/環	14.4	4.5	—	ナデ、ヘラケズリ、内外面に赤彩・白色粒子、黒色粒子、小礫をごくわずかに含む	完形	6世紀後半～末
	3	3号墳	土師器/環	13.9	4.0	—	ヘラケズリ後ナデ、内外面に赤彩・白色粒子、黒色粒子	完形	6世紀後半～末
	4	3号墳	土師器/環	14.3	4.9	—	ナデ、ヘラケズリ、内外面に赤彩・白色粒子、黒色粒子	完形	6世紀後半～末
	5	3号墳	土師器/環	14.4	5.0	—	ナデ、ヘラケズリ、内外面に赤彩・白色粒子、黒色粒子	完形	6世紀後半～末
	6	3号墳	土師器/環	14.2	4.9	—	ナデ、ヘラケズリ、内外面に赤彩・白色粒子、黒色粒子、小礫をわずかに含む、底部に黒皮あり	完形	6世紀後半～末
	7	3号墳	土師器/皿	—	(9.0)	—	ナデ・白色粒子、黒色粒子、小礫を多く含む・面部落(14.2)	頸部～胴部 破片	6世紀代
	8	3号墳	土師器類	—	(25.2)	7.0	ヘラケズリ、ナデ・白色粒子、黒色粒子、チャート・還元銅粒(28.5)	底部～体部	6世紀代

④ 4号墳

【位置】調査区中央西側に位置する。南東に2号墳、東に3号墳が存在する。

【形状・規模】墳丘径11.3m、周溝外径14.5mの円墳である。今回発見された古墳の中で最も規模が小さい。

【主体部】墳丘はすでに削平されていたため、主体部は確認できなかった。

【周溝】周溝上幅1.3～1.8m、下幅0.5～0.9m、深さ0.45～0.7mと2、3号墳に比べて幅が狭く、浅い。全周せず、北西部にブリッジを有する。他の古墳同様、最下層にロームを多量に含む黄褐色土がフラットに堆

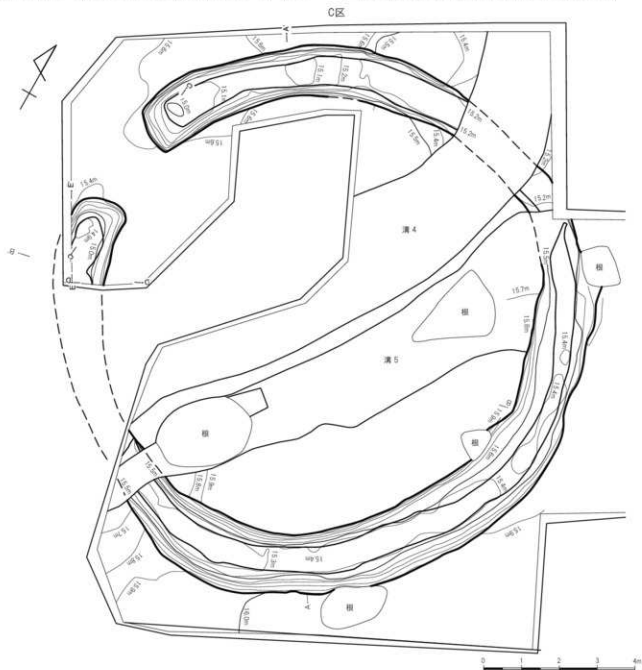
積し、「整地面」を形成する。

【遺物出土状況】周溝覆土中から埴輪片が数点出土した。いずれも小片であり、本古墳に伴うものではないと考えられる。

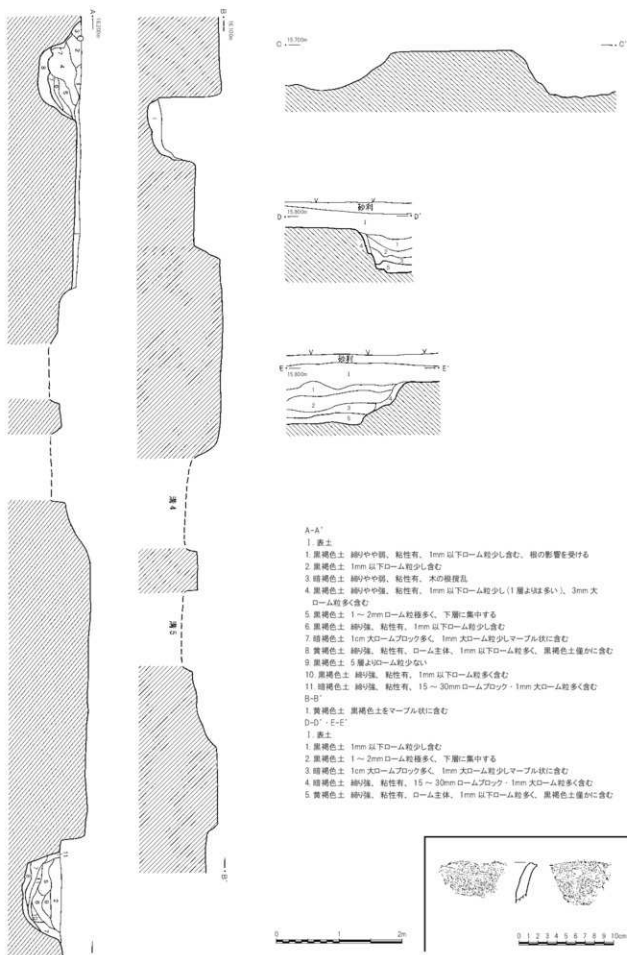
【出土遺物】(第35図)

4号墳から出土した遺物は、埴輪片が数点出土したのみである。今回はその内1点を掲載する。

円筒埴輪口縁部の破片である。内外面にハケ調整後、口縁部にナデを施す。口縁端部が部分的にM字状を呈する。白色粒子と径2～4mmの砂礫を多く含む特徴を持つ。胎土や色調を踏まえると3号墳と同様、1号墳に樹立していた埴輪の流れ込みであろう。



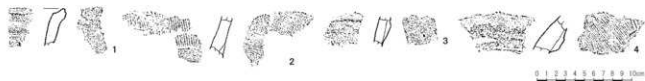
第34図 ハケ遺跡第19地点4号墳丘測量図(1/100)



第35図 ハケ遺跡第19地点4号墳(1/60)、出土遺物(1/4)

⑤遺構外出土円筒埴輪（第36図1～4）

1～4は表土中より出土した円筒埴輪片である。1は口縁部で、端部が逆「く」の字に強く外反する。2～4は体部破片である。2は突帯上部で外面に線刻が施される。欠損部分が多いので全体像の把握は難しいが、弧状の線刻の後にそれを貫くように直線を線刻しているように見受けらる。今回の調査で外面に線刻を施す埴輪はこの1点のみであった。赤色を呈し、胎土に白色粒子を多量に含むことから、2号墳周溝出土のA類に分類される埴輪である。3は突帯部分の破片である。磨滅が著しいが、内面に部分的に赤彩が確認できるため、赤色塗彩されていた可能性がある。4も突帯部分の破片で、こちらも磨滅が著しい。突帯自体の幅が他の埴輪と比べて広く、厚みもあるため朝顔形円筒埴輪の花弁部の可能性も考えられる。



第36図 ハケ遺跡第19地点遺構外出土埴輪（1/4）

(2) 縄文時代

本調査では縄文時代の遺構として調査区東側のE区より集石土坑1基、及び2号墳の墳丘下より集石土坑1基、土坑2基、ピット26基を検出した。

①集石土坑

各集石土坑の詳細は第10表参照。

【集石土坑1】調査区中央東端に位置する。礫の残り具合から、上層は大部分が削平されたものと考えられる。覆土中より縄文土器片3点が出土した(第40図1~3)。前期前半の羽状縄文と中期後半の加曾利E式土器が混在する。時期としては、中期後半以降であるといえよう。

【集石土坑2】調査区南側、2号墳下に位置する。遺

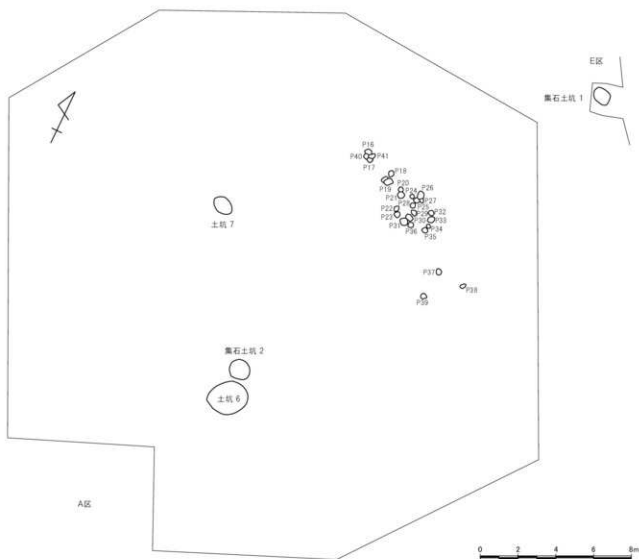
構の南側には土坑6が近接する。集石土坑1と比べて礫の残りが良い。出土遺物は縄文土器片2点である(第40図4・5)。こちらも集石土坑1と同様、前期前半と中期に属する遺物が混在するため、中期以降に属するものと考えられる。

②土坑

各土坑の詳細は第12表参照。

【土坑6】調査区南側に位置する。北側で集石土坑2と接する。出土遺物は前期前半の羽状縄文系の土器片が1点のみである(第40図8)。所属時期は前期前半以降であろう。

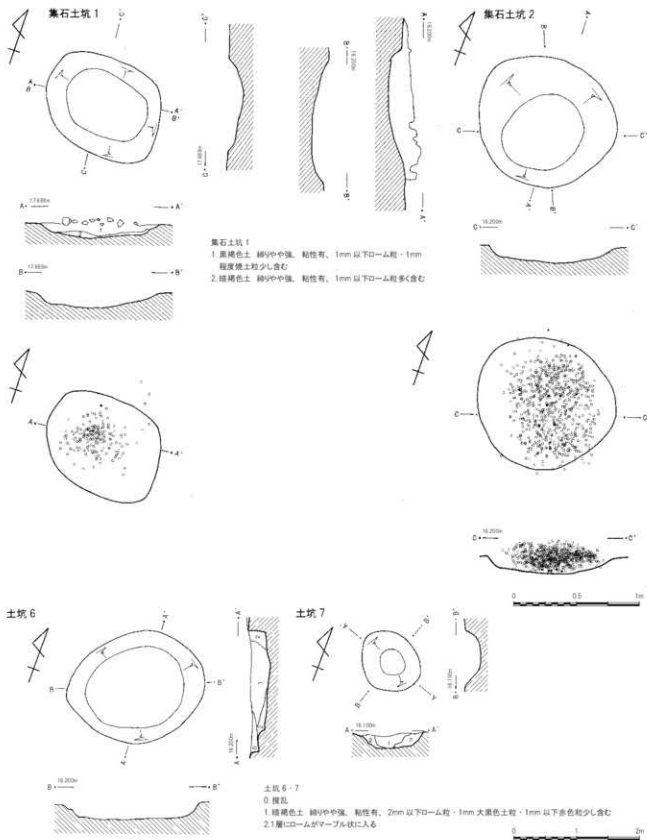
【土坑7】調査区中央よりやや南側に位置する。出土遺物はない。



第37図 ハケ遺跡第19地点縄文時代遺構配置図(1/200)

第10表 ハケ遺跡第19地点集石土坑・出土礫観察表 (単位cm・個数・g(%))

No	平面形態	楕円直径	底径	深さ	備考	総点数	総重量	平均重量	礫個数	割合	組成数	多角組成数	3-5・個数	3-5・割合
1	楕円方形	38 × 76	48 × 48	11.9		130	9,453.92	72.72	121 (91.54%)	9 (6.92%)	92 (70.77%)	38 (29.23%)	62 (47.70%)	48 (52.30%)
2	円形	220 × 208	33 × 112	14.5		501	31,540.43	62.95	119 (23.75%)	382 (76.25%)	350 (69.86%)	151 (30.14%)	350 (69.86%)	151 (30.14%)



第38図 ハケ遺跡第19地点縄文時代集石土坑 (1/30)、土坑 (1/60)

③ピット

ピットは26基がほぼ調査区中央に集中する。規模等詳細は第11表参照。いずれも出土遺物はない。

④出土遺物

【縄文土器】ハケ遺跡第19地点からは、775点の縄文土器が出土している。いずれも小片であり、復元可能なものは無い。大部分が遺構外出土であるが、早期後半～晩期まで、各時期の土器が出土しており、縄文時代を通じて生活の場であったと見られる。内177点を図示し、各破片の詳細は第13表の観察表に記した。

今回の調査で出土した土器は、量から見ると早期後半～前期前半にその主体を求めることができる。いずれの破片も多寡はあるが胎土にセシを混入しており、その中には貝殻条痕文系、前期初頭下吉井式（胎土に白色針状物質、角閃石を含むものを一括した）、同花積下層式、前葉～中葉の関山式、黒浜式が含まれている。これらは出土土器全体の約半数を占めており、その内では単節あるいは無節の羽状縄文系が目立つ。小片のため詳細な時期は判断できないが、下吉井式が少なくないこと、貝殻条痕文系及び花積下層式はこれに併行する可能性があることから、特に前期初頭を主要な時期と捉えたい。

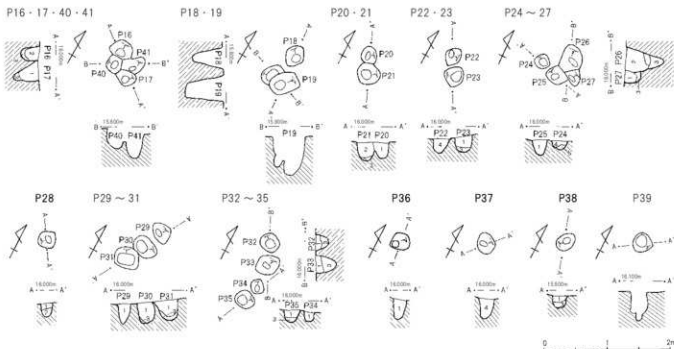
【石器・石製品】今回の調査では、縄文時代に属する

第11表 ハケ遺跡第19地点縄文時代ピット一覧表 (単位cm)

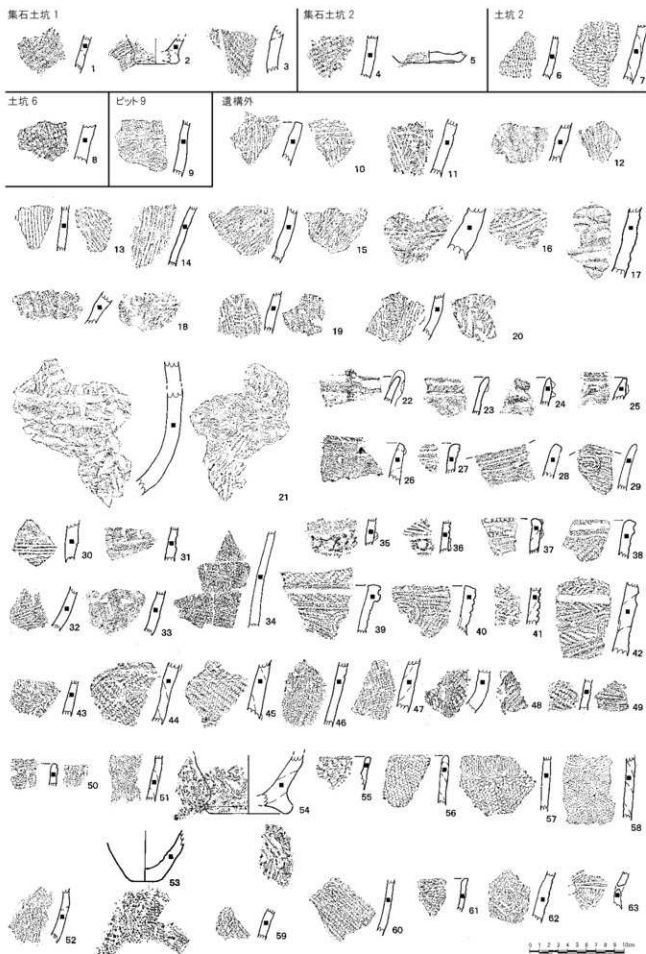
No	平面形態	確認径	底径	深さ
16	不明	38 × (27)	15 × 13	33.4
17	不明	(28) × 26	12 × 11	46.3
18	方形	30 × 28	13 × 11	49.3
19	だるま形	48 × 44	17 × 13	65.1
20	円形	26 × 26	13 × 6	35.3
21	円形	36 × 35	17 × 15	37.3
22	方形	25 × 25	12 × 7	32.9
23	方形	30 × 29	17 × 14	34.5
24	方形	21 × 21	13 × 10	14.5
25	不明	28 × (25)	14 × 7	35.8
26	不明	(42) × 33	18 × 8	61.9
27	不明	(23) × (23)	13 × 4	29.8
28	方形	26 × 25	10 × 8	42.1
29	楕円形	36 × 27	12 × 6	35.4
30	隅丸方形	40 × 28	19 × 14	45.4
31	方形	38 × 33	27 × 17	38.5
32	方形	29 × 26	14 × 14	22.8
33	方形	34 × 32	12 × 6	38
34	方形	22 × 18	10 × 6	18.7
35	方形	30 × 27	15 × 13	22.1
36	方形	29 × 27	11 × 10	56.8
37	円形	34 × 28	13 × 8	56.7
38	楕円形	30 × 24	15 × 8	21.7
39	円形	32 × 28	18 × 17	34.4
40	不明	(26) × (24)	12 × 10	31.3
41	不明	(31) × (30)	13 × 6	37.7

第12表 ハケ遺跡第19地点縄文時代土坑一覧表 (単位cm)

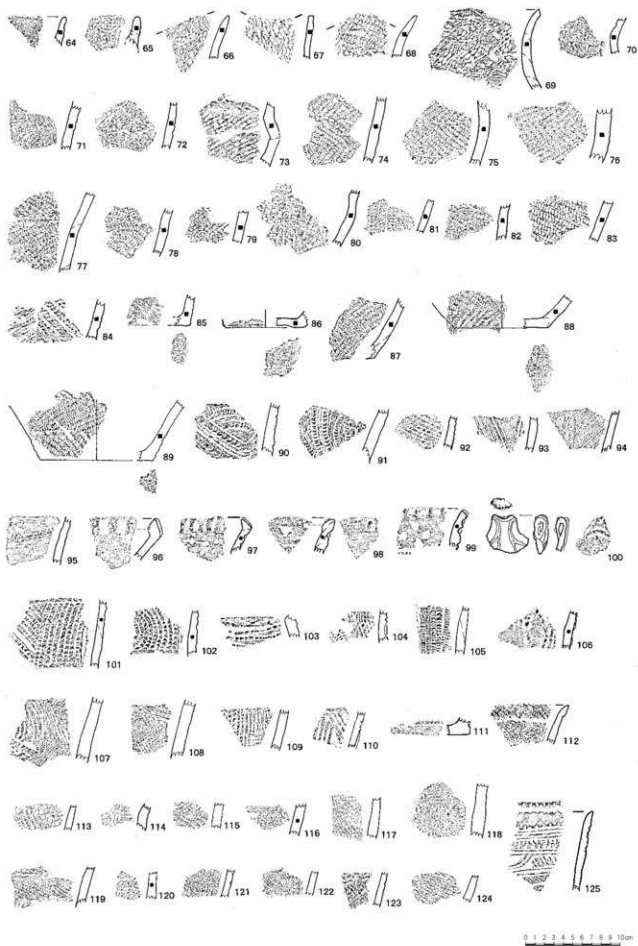
No	平面形態	確認径	底径	深さ
6	楕円形	220 × 181	154 × 126	36.4
7	円形	106 × 91	44 × 40	27.1



第39図 ハケ遺跡第19地点縄文時代ピット (1/60)



第 40 図 ハケ遺跡第 19 地点出土縄文土器① (1/4)

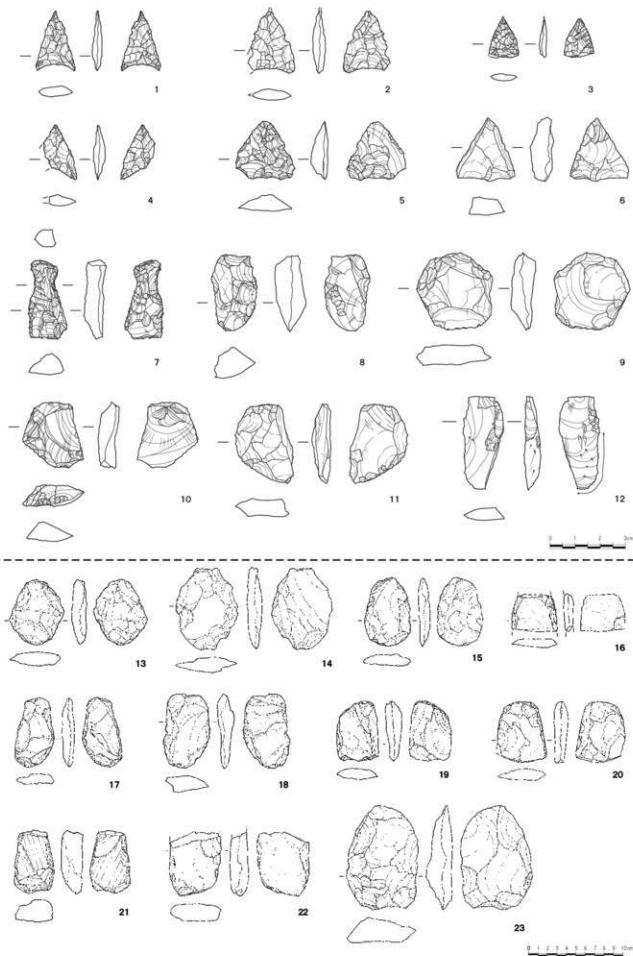


第41図 ハケ遺跡第19地点出土絹文土器②(1/4)

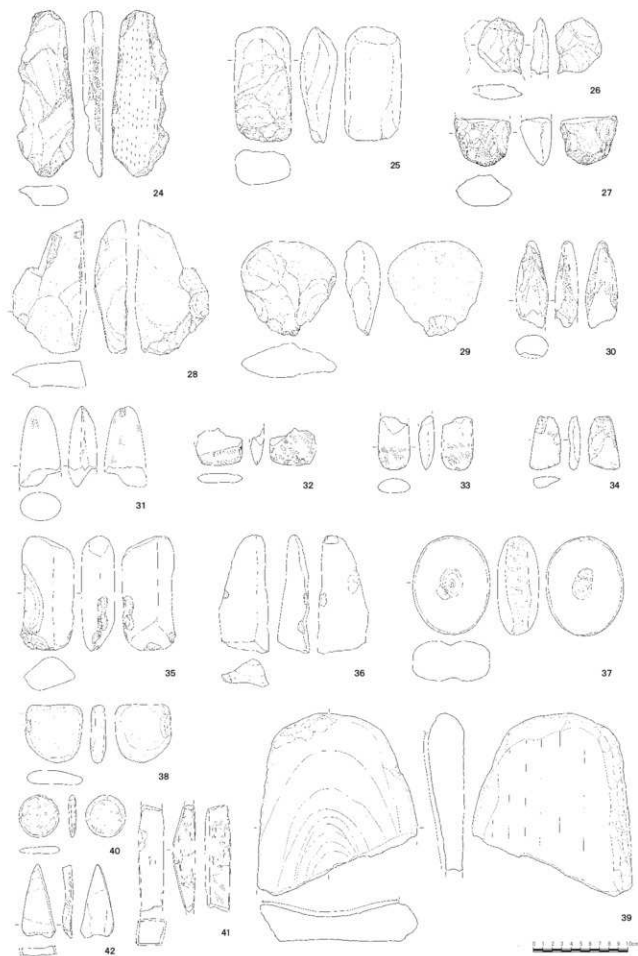


第 42 図 ハケ遺跡第 19 地点出土縄文土器③ (1/4)

区域	No	部土地	図面/記号	原文/備考	土	時期/形式
第14区	92	遺構外	深緑/厨部	格子目状の平行沈埋	細～中粒砂少量	前期遺構/基礎
	93	遺構外	深緑/厨部	斜位に平行沈埋	中～粗粒砂少量・結晶片岩	前期遺構/基礎
	94	遺構外	深緑/厨部	斜位に平行沈埋	細～中粒砂少量	前期遺構/基礎
	95	遺構外	深緑/厨部	平行沈埋	中～粗粒砂少量	前期遺構/基礎
	96	遺構外	深緑/口縁部	内層する口縁部に斜付文	中～粗粒砂少量・透明砂	前期末/十三首葺
	97	遺構外	深緑/口縁部	内層する口縁部に斜付文、三角彫刻	中～粗粒砂中量・金雲母層	前期末/十三首葺
	98	遺構外	深緑/口縁部	口縁部に斜付文、三角彫刻	粗粒砂少量・金雲母・石膏粒	前期末/十三首葺
	99	遺構外	深緑/口縁部	口縁部に斜付文、同一三角彫刻の跡、平位に連続沈埋による区画	中～粗粒砂中量・金雲母少量	前期末/十三首葺
	100	遺構外	深緑/口縁部	波頭部・厨部三つの区画による遺構	中～粗粒砂少量・透明砂	前期末/十三首葺行方
	101	遺構外	深緑/厨部	壁面状の結晶沈埋・一部を削り取った	中～粗粒砂少量・金雲母少量	前期末/十三首葺
	102	遺構外	深緑/厨部	同心円状の結晶沈埋	中～粗粒砂少量・金雲母	前期末/十三首葺
	103	遺構外	深緑/厨部	楕円に3条の竹管押し引き	中～粗粒砂少量	前期末/十三首葺
	104	遺構外	深緑/厨部	楕円・斜位の平行沈埋とそれに連行するへら切り、三角彫刻	中～粗粒砂少量	前期末/十三首葺
	105	遺構外	深緑/厨部	楕円の結晶沈埋	粗粒砂少量	前期末/十三首葺
	106	遺構外	深緑/厨部	変形断面に平行沈埋	粗粒砂少量・金雲母・石膏粒	前期末/十三首葺
	107	遺構外	深緑/厨部	同心円・楕円状の平行沈埋	細～中粒砂少量・砂質	前期末/十三首葺
	108	遺構外	深緑/厨部	楕円・楕円状の平行沈埋	細～中粒砂少量・砂質	前期末/十三首葺
109	遺構外	深緑/厨部	格子目状の平行沈埋	細～中粒砂少量・砂質	前期末/十三首葺	
110	遺構外	深緑/厨部	楕円状に平行連続状の平行沈埋、三角彫刻	粗粒砂中量・透明砂	前期末/十三首葺	
111	遺構外	深緑/正面部	楕円に竹管押し引き	細～中粒砂少量	前期遺構～末	
112	遺構外	深緑/口縁部	斜り直した白土にIR、地紋IR、LR	中粒砂少量	前期遺構～末	
113	遺構外	深緑/厨部	IR・LR結晶	粗～亜粗粒砂少量・結晶片岩	前期遺構～末	
114	遺構外	深緑/厨部	IR・LR	粗～亜粗粒砂少量・石膏・結晶片岩	前期遺構～末	
115	遺構外	深緑/厨部	IR・LR	中～粗粒砂中量・石膏粒	前期遺構～末	
116	遺構外	深緑/厨部	IR・LR	中～粗粒砂少量・金雲母	前期遺構～末	
117	遺構外	深緑/厨部	IR・LR	中～粗粒砂中量・石膏粒・結晶片岩	前期遺構～末	
118	遺構外	深緑/厨部	IR、未確認部	粗～亜粗粒砂少量・石膏粒・白色粒	前期遺構～末	
119	遺構外	深緑/厨部	IR、未確認部	粗～亜粗粒砂少量・石膏粒・透明砂	前期遺構～末	
120	遺構外	深緑/厨部	IR、未確認部	粗～亜粗粒砂少量・黄白結晶・結晶片岩	前期遺構～末	
121	遺構外	深緑/厨部	IR、未確認部	粗粒砂中量	前期遺構～末	
122	遺構外	深緑/厨部	IR、未確認部	中粒砂少量	前期遺構～末	
123	遺構外	深緑/厨部	IR・LR、未確認部	粗粒砂少量	前期遺構～末	
124	遺構外	深緑/厨部	IR	細～中粒砂少量	前期遺構～末	
125	遺構外	深緑/口縁部	口唇部に斜め、楕円の平行沈埋による区画、区画内に斜交、円形沈埋	中粒砂微量、白色粒	中期初葺/五箇ヶ台	
126	遺構外	深緑/口縁部	地紋IR、楕円・斜位の竹管押し引き	中～粗粒砂少量・黄白結晶	中期初葺/五箇ヶ台	
127	遺構外	深緑/口縁部	楕円・楕円の結晶沈埋	粗粒砂少量・黄白結晶	中期初葺/五箇ヶ台	
128	遺構外	深緑/口縁部	楕円に竹管押し引き+斜め、口縁内に沈埋1条	中～粗粒砂少量	中期初葺/五箇ヶ台	
129	遺構外	深緑/口縁部	斜位・楕円の結晶沈埋/内側に楕円痕跡残る	中～粗粒砂少量	中期初葺/五箇ヶ台	
130	遺構外	深緑/厨部	同一三角彫刻、楕円・斜位の平行沈埋、三角彫刻	粗～亜粗粒砂少量・黄白結晶・結晶片岩	中期初葺/五箇ヶ台	
131	遺構外	深緑/厨部	同一三角彫刻、楕円・斜位の平行沈埋、斜交/30と同一	中～粗粒砂少量・黄白結晶・結晶片岩	中期初葺/五箇ヶ台	
132	遺構外	深緑/厨部	壁面状・楕円の平行沈埋、地紋LR	中～粗粒砂少量・黄白結晶・結晶片岩	中期初葺/五箇ヶ台	
133	遺構外	深緑/厨部	楕円に平行沈埋、三角彫刻	中～粗粒砂中量・結晶片岩	中期初葺/五箇ヶ台	
134	遺構外	深緑/厨部	楕円・楕円の沈埋(7×21cm以内)	中～粗粒砂中量	中期初葺/五箇ヶ台	
135	遺構外	深緑/厨部	楕円・半円状・楕円・斜位の沈埋、地紋LR	中粒砂少量	中期初葺/五箇ヶ台	
136	遺構外	深緑/厨部	楕円のIR・LR結晶、未確認部	中～粗粒砂中量・結晶片岩	中期初葺/五箇ヶ台	
137	遺構外	深緑/口縁部	平行沈埋	粗～亜粗粒砂少量・金雲母	中期初葺/五箇ヶ台	
138	遺構外	深緑/口縁部	波状・陣IR、LR	粗～亜粗粒砂少量・金雲母結晶・石膏粒	中期初葺/五箇ヶ台	
139	遺構外	深緑/口縁部	変形断面に平行沈埋	粗～亜粗粒砂中量・白色粒・石膏粒	中期初葺/五箇ヶ台	
140	遺構外	深緑/正面部	変形断面	粗～亜粗粒砂中量・金雲母少量・石膏粒	中期初葺/五箇ヶ台	
141	遺構外	深緑/厨部	変形断面	中～粗粒砂中量・金雲母少量・石膏粒	中期初葺/五箇ヶ台	
142	遺構外	深緑/正面部	変形断面	中～粗粒砂少量・金雲母少量・石膏粒	中期初葺/五箇ヶ台	
143	遺構外	深緑/厨部	IR・LR、楕円沈埋の輪痕のみ	中～粗粒砂少量・金雲母・石膏粒	中期初葺/五箇ヶ台	
144	遺構外	深緑/厨部	IR	中～粗粒砂少量・石膏粒・白色粒	中期初葺/五箇ヶ台	
145	遺構外	深緑/厨部	楕円と重なる平埋、地紋に断面採寸取文	中～粗粒砂中量・小塚まれ	中期中葺/加賀利E	
146	遺構外	深緑/厨部	柱状部	粗粒砂中量	中期中葺/加賀利E	
147	遺構外	深緑/厨部	断面痕	粗粒砂中量	中期中葺/加賀利E	
148	遺構外	深緑/口縁部	楕円・楕円が3文並びになる	粗粒砂少量、白色粒	中期中葺/加賀利E	
149	遺構外	深緑/口縁部	障壁と沈埋による区画にIRを充填	中粒砂中量	中期中葺/加賀利E	
150	遺構外	深緑/口縁部	沈埋による区画にIRを充填	中～粗粒砂中量	中期中葺/加賀利E	
151	遺構外	深緑/口縁部	沈埋による区画にIRを充填	中粒砂少量	中期中葺/加賀利E	
152	遺構外	深緑/口縁部	変形断面(白粉層より埋戻し)	細～中粒砂少量・亜粗粒砂少量	中期中葺/加賀利E	
153	遺構外	深緑/口縁部	断面L・厨部	粗粒砂少量	中期中葺/加賀利E	
154	遺構外	深緑/厨部	障壁と沈埋による区画、地紋楕円IR	中～粗粒砂少量	中期後葺/加賀利E I～II	
155	遺構外	深緑/厨部	沈埋による区画、地紋LR	中粒砂少量	中期後葺/加賀利E II	
156	遺構外	深緑/厨部	地紋斜位IR・Lに3条の溝状沈埋	中～粗粒砂砂少量	中期後葺/加賀利E II	
157	遺構外	深緑/厨部	地紋斜位IR、沈埋と削り消し懸垂文による区画	細～中粒砂少量・赤色粒	中期後葺/加賀利E II	
158	遺構外	深緑/厨部	地紋斜位IR、沈埋と削り消し懸垂文による区画	中～粗粒砂少量	中期後葺/加賀利E II	
159	遺構外	深緑/厨部	地紋斜位IR、沈埋と削り消し懸垂文による区画	中～粗粒砂少量	中期後葺/加賀利E II	
160	遺構外	深緑/厨部	楕円の沈埋、IR・L内3方半壁	中粒砂微量	中期後葺/加賀利E	
161	遺構外	深緑/厨部	IR	粗～亜粗粒砂中量	中期後葺/加賀利E	
162	遺構外	深緑/厨部	楕円沈埋による区画、断面採寸取文	中～粗粒砂少量	中期後葺/加賀利E	
163	遺構外	深緑/厨部	断面採寸取文	中～亜粗粒砂中量	中期後葺/加賀利E	
164	遺構外	深緑/正面部	外壁・変形断面	粗～亜粗粒砂少量・小塚まれ	中期後葺/加賀利E II～IV	
165	遺構外	深緑/口縁部	三角彫刻の変形部	粗粒砂少量・小塚まれ	後期初葺/壁之内	
166	遺構外	深緑/口縁部	口唇部沈埋	粗～亜粗粒砂少量	後期初葺/壁之内	
167	遺構外	深緑/口縁部	内層する口縁部・口唇部、同心円状の斜め/楕円土層、光沢あり	粗粒砂少量・中～粗粒砂少量	後期初葺/壁之内	
168	遺構外	深緑/口縁部	口唇部に斜交、口唇部に斜位、楕円の沈埋	粗粒砂少量	後期初葺/加賀利E	
169	遺構外	深緑/口縁部	地紋LR、沈埋による区画部に斜め/変形断面	中～中粒砂少量	後期初葺/加賀利E	
170	遺構外	深緑/厨部	地紋LR、楕円、クランク状の沈埋	中粒砂少量・小塚まれ	後期中葺/加賀利E	
171	遺構外	深緑/口縁部	沈埋による区画部に楕円のIRを充填、半円状の斜付文	中粒砂少量	後期中葺/安行1	
172	遺構外	深緑/厨部	3文並びに楕円を有する沈埋	中～粗粒砂少量	後期中葺/安行3	
173	遺構外	深緑/厨部	変形断面	中～粗粒砂少量	後期中葺/安行3	
174	遺構外	深緑/口縁部	変形断面	中粒砂中量	後期中葺/安行3	
175	遺構外	深緑/正面部	輪痕のみを明確に残す	中～粗粒砂少量	後期中葺以降	
176	遺構外	深緑/正面部	変形断面	中粒砂中量	後期中葺以降	
177	遺構外	深緑/正面部	変形断面	中～粗粒砂少量	後期中葺以降	



第43図 ハケ遺跡第19地点出土石器① (2/3・1/4)



第44図 ハゲ遺跡第19地点出土石器② (1/4)

と考えられる石器・石製品が40点出土している。各石器の属する詳細な時期は不明であるが、先端部を細く作り出した石鏃やスタンプ形石器等が見られることから、土器同様早期から各時期混在していると考えられる。各石器・石製品の詳細は第14表に記した。

また調査区からは黒曜石剥片が76点、重量にして149.94g(製品を除く)出土した。20gを超えるものは1点のみで、4g以下が90%を占めている。さらにその内1g以下のものが約70%を占め、最小0.03gまで満遍なく存在する。細片の多い様相から、ここでは主に黒曜石製石器の最終調整や修繕程度の作業が行われていたと考えられる。一方、チャート剥片は29点、重量にして202.95g(製品を除く)出土している。20g以上は1点だが、黒曜石と比較すると10g以上、5g以上がそれぞれ全体の25%を占めており、石材に

よる作業種別の違いを反映しているものと見られる。

(鎌田)

(3) 古代以降

本調査区では古墳時代より後出する遺構として土坑5基、ピット9基、堀1本、溝4条を検出した。また2号墳の墳丘上に鎮座していたと考えられる祠跡についても、礎石建物跡として報告する。

① 土坑

各土坑の詳細については第15表参照。

【土坑1】調査区北側、堀跡の南側に位置する。非常に浅い掘り込みで出土遺物もないことから軸の特定は難しいが、土層観察から少なくとも中近世以降に属すると考えられる。

第14表 ハケ遺跡第19地点出土石器・石製品観察表 (単位cm・g)

図版	No	出土地点	種別	長さ	幅	厚さ	重量	石材/推定生産地	推定年代	残存/備考
第43図	1	遺構外	石鏃	2.4	1.6	0.4	0.93	チャート	縄文時代	完形
	2	遺構外	石鏃	(2.5)	(1.9)	(0.45)	(1.69)	チャート	縄文時代	先端・左側部欠損
	3	遺構外	石鏃	1.55	(1.2)	3.0	(0.45)	黒曜石	縄文時代	右側部欠損
	4	遺構外	石鏃	2.2	(1.4)	0.45	(0.9)	珪質頁岩	縄文時代	左側部欠損
	5	遺構外	石鏃未成品	2.3	2.35	0.7	2.54	黒曜石	縄文時代	完形
	6	遺構外	石鏃未成品	2.55	2.3	0.9	4.38	チャート	縄文時代	完形
	7	遺構外	石鏃	3.15	1.55	0.8	3.63	黒曜石	縄文時代	完形
	8	遺構外	スクレイパー	3.05	1.8	1.2	5.81	黒曜石	縄文時代	完形
	9	遺構外	スクレイパー	3.05	3.05	0.8	9.76	チャート	縄文時代	完形
	10	遺構外	スクレイパー	2.1	2.45	0.8	4.36	黒曜石	縄文時代	完形
	11	遺構外	スクレイパー	3.2	2.3	0.7	5.66	チャート	縄文時代	完形
	12	遺構外	スクレイパー	3.7	1.7	0.6	3.69	黒曜石	縄文時代	完形
	13	遺構外	小型打製石斧	6.9	5.7	1.35	61.46	珪質頁岩	縄文時代	完形
	14	遺構外	小型打製石斧	8.15	6.6	1.5	85.50	凝灰岩	縄文時代	完形
	15	遺構外	小型打製石斧	7.3	4.8	1.2	54.33	ホルンフェルス	縄文時代	完形
	16	遺構外	小型打製石斧	(4.0)	(4.4)	1.1	(30.63)	ホルンフェルス	縄文時代	一部残存
	17	遺構外	小型打製石斧	7.3	4.1	1.2	49.26	ホルンフェルス	縄文時代	完形
	18	遺構外	小型打製石斧	7.9	5.0	1.7	68.25	頁岩	縄文時代	完形
	19	遺構外	小型打製石斧	6.35	4.5	1.4	52.95	緑色岩	縄文時代	完形
	20	遺構外	小型打製石斧	6.45	5.3	1.3	59.06	ホルンフェルス	縄文時代	完形
21	遺構外	小型打製石斧	6.7	4.3	2.3	87.00	結晶片岩	縄文時代	完形	
22	遺構外	小型打製石斧	(6.8)	5.5	2.0	(104.58)	多孔質安山岩	縄文時代	基部残存	
23	遺構外	打製石斧	11.0	7.2	2.6	222.15	ホルンフェルス	縄文時代	完形	
第44図	24	遺構外	打製石斧	17.6	6.0	2.15	282.85	緑泥片岩	縄文時代	完形(2点重合)
	25	遺構外	打製石斧	12.1	6.0	3.6	404.21	ホルンフェルス	縄文時代	完形
	26	遺構外	打製石斧	(6.0)	(4.9)	(1.85)	(57.04)	ホルンフェルス	縄文時代	一部残存
	27	遺構外	打製石斧	(5.2)	(6.0)	(3.3)	(114.98)	細粒砂岩	縄文時代	刃部残存
	28	遺構外	礫器	14.2	7.8	3.35	414.56	ホルンフェルス	縄文時代	完形
	29	遺構外	礫器カ	10.0	10.0	3.6	350.47	極細粒砂岩	不明	完形
	30	遺構外	磨製石斧	(9.25)	(3.4)	(2.3)	(88.78)	角閃岩	縄文時代	刃部欠損
	31	遺構外	磨製石斧	(8.5)	(4.5)	(3.1)	(155.99)	緑色岩	縄文時代	基部残存
	32	遺構外	磨製石斧	(3.9)	(4.9)	(1.4)	(28.38)	緑色凝灰岩	縄文時代	刃部残存
	33	遺構外	小型磨製石斧	(5.7)	3.4	(1.6)	(48.26)	細粒砂岩	縄文時代	刃部残存
	34	遺構外	小型磨製石斧	5.7	3.3	1.15	26.49	極細粒砂岩	縄文時代	完形
	35	遺構外	磨き石	12.1	5.7	3.5	308.95	細粒砂岩	縄文時代	完形
	36	遺構外	スタンプ形石器	(12.6)	(5.4)	2.8	(213.46)	砂岩	縄文時代	下部欠損
	37	遺構外	磨り石・凹石	10.3	8.2	4.3	506.71	安山岩	縄文時代	完形
	38	遺構外	磨り石	6.2	6.1	1.75	98.06	中粒砂岩	縄文時代	完形
	39	遺構外	石皿	(19.3)	(17.0)	(3.8)	(1823.78)	緑泥片岩	縄文時代	約1/2残存
	40	遺構外	円盤状石製品	4.45	4.2	0.8	18.00	流紋岩	縄文時代	完形
	41	遺構外	礎石	(11.2)	2.3	2.4	(99.66)	流紋岩/上州	不明	一部欠損
	42	遺構外	礎石カ	7.8	3.6	1.0	30.61	極細粒砂岩	不明	完形

【土坑2】調査区中央やや北寄り、3・4号墳の北側に位置する。試掘トレンチ14の北端で検出した。保護層が設けられる位置であることから、トレンチ内での検出となった。覆土中より縄文土器片2点（第40図6・7）が出土したが、遺構の時期を示すものではない。土層観察から古代以降に属するものと想定できるが、明確に時期を特定し得る判断材料はない。

【土坑3】調査区南西端に位置し、2号墳周溝と重複する。周溝の立ち上りを破壊して掘り込まれているため、2号墳築造より新しい。出土遺物はないが、土層観察と比較的直線を指向する平面形状から、近代以降の比較的新しい掘り込みであろう。

【土坑4】調査区南側に位置し、2号墳丘及び溝6と重複する。2号墳丘と溝6を破壊して掘削されていることから、土坑4は前述の二つの遺構より新しい。長方形という平面形状や垂直で直線的な立ち上がりから、近代以降に所属するものと考えられる。出土遺物

はない。

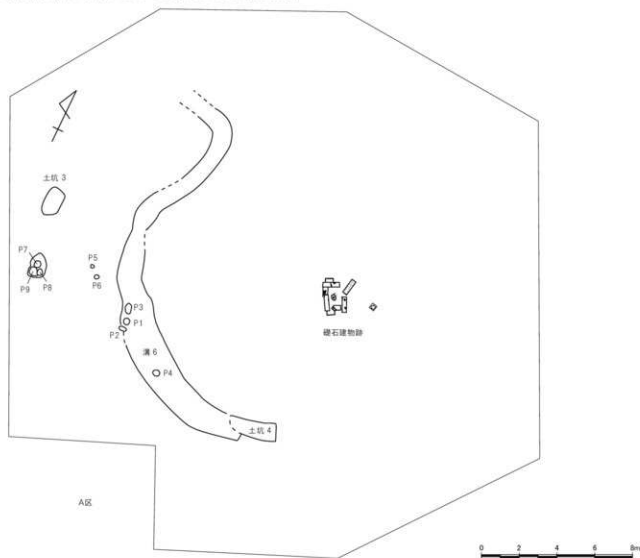
【土坑5】調査区北端、溝1の北側に位置し、溝1と重複する。切り合い関係から溝1より後出する。平面形態が土坑4と、覆土が土坑3と共通していることから、土坑5も近代以降に所属するものと考えられる。なお、出土遺物はない。

②ピット

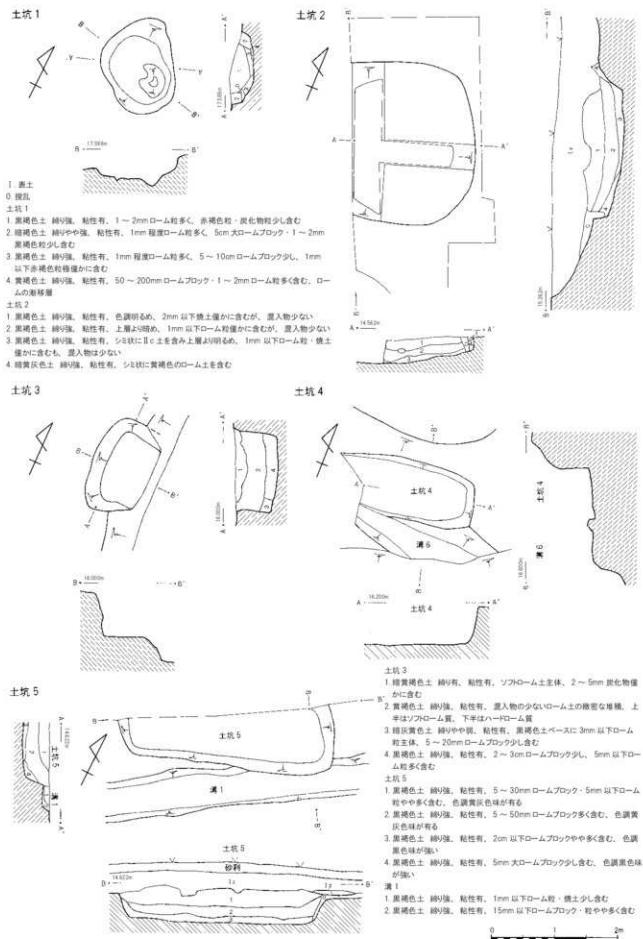
各ピットの詳細については第16表参照。

③堀跡

堀跡は調査区北側のD区に位置する。東西方向に走行し、東西両端とも調査区外へ続く。西側は約20m離れた第20地点の堀跡へ繋がる。断面は菜研掘で、遺構の規模は上幅253～341cm、下幅14～56cm、深さ135.7cmである。出土遺物はない。



第45図 ハケ遺跡第19地点古代以降遺構配置図(1/20)



第46図 ハケ遺跡第19地点土坑 (1/60)

④溝跡

各溝の規模等については第17表参照。なお、溝2は堀跡、溝3は4号墳周溝へと名称変更したため欠番とした。

【溝1】調査区北端、堀跡の北側に位置し、土坑5と重複する。切り合い関係から土坑5よりも古い。走行方向はN-54°-Eで、南西から北東方向に走行する。南東側は調査区外へ続くが、北東側は調査区北側中央付近で途切れる。断面形は非常に浅いU字状を呈する。出土遺物はないため時期は定かではないが、覆土の観察から中世以降であると考えられる。

【溝4】調査区中央やや西寄りに位置し、4号墳と重複する。主軸はN-36°-Eで南西から北東方向へ走行するが、調査区中央付近で北へと向きを変える。走行方向はN-6°-Eとほぼ南北に軸をとる。D区において堀跡と重複しており、南北両端とも調査区外へと続く。断面形状は北西側が段状に掘り込まれており、南東側は垂直に近い角度で立ち上がる。出土遺物はない。切り合い関係から4号墳及び堀跡よりは新しく、覆土の観察から中近世以降に帰属するものと考えられる。

【溝5】調査区中央に位置し、溝4の西側に近接する。

第15表 ハケ遺跡第19地点土坑一覧表 (単位cm)

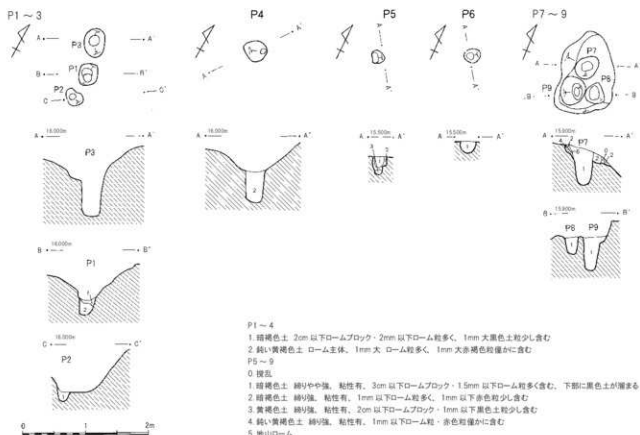
No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	楕円形	153×136	15×10	65.8	
2	不明	257×(194)	215×156	55.1	
3	不明	151×(97)	116×(75)	73.4	
4	不明	(190)×97	(169)×81	70.1	
5	不明	336×(106)	302×(85)	42.0	

第16表 ハケ遺跡第19地点古代以降ビット一覧表(単位cm)

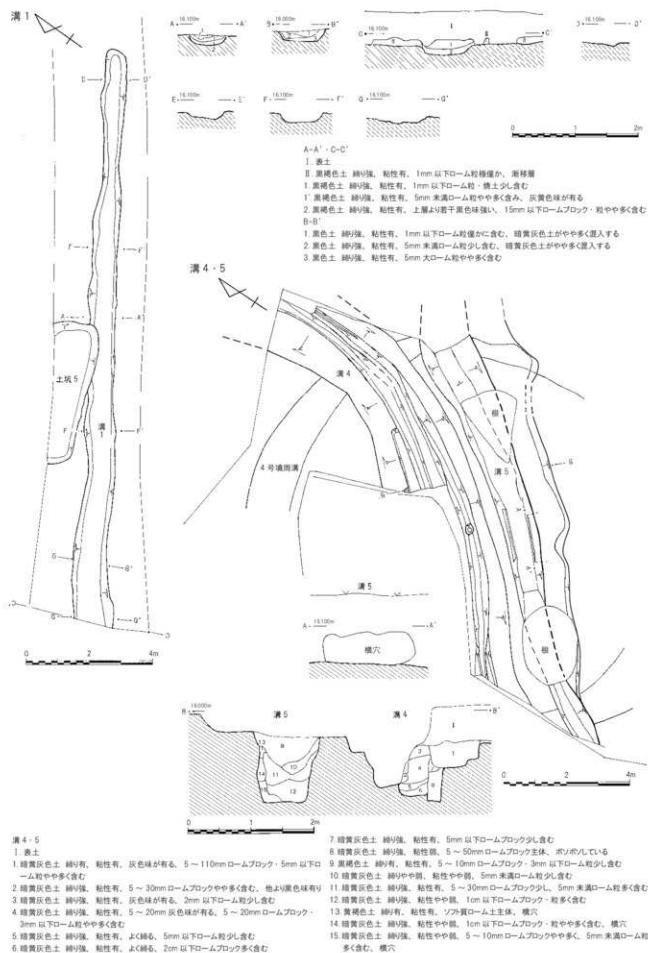
No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	方形	33×29	13×13	32.1	
2	楕円形	30×23	10×8	60.9	
3	楕円形	43×33	18×15	58.9	
4	方形	38×33	9×7	74.7	
5	方形	20×20	17×11	46.9	
6	円形	26×22	12×11	42.3	
7	円形	40×33	17×13	45.3	
8	方形	32×28	20×13	33.9	
9	円形	44×40	11×9	58.8	

第17表 ハケ遺跡第19地点溝一覧表 (単位cm)

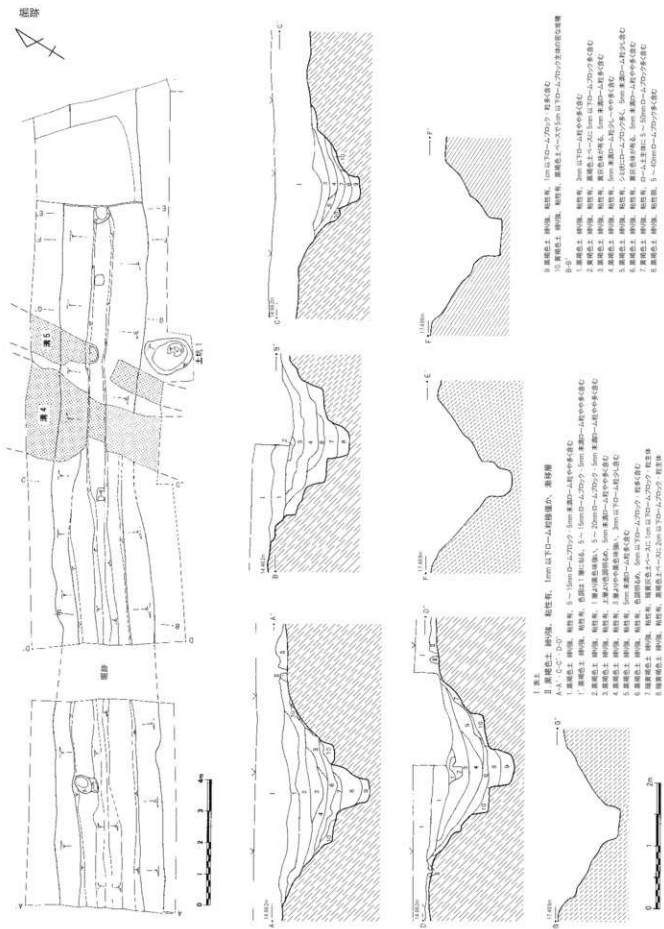
No	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
溝1		36~95	16~60	17.8	
溝2	欠番				堀跡へ
溝3	欠番				4号墳の周溝
溝4		194~282	12~28	127.8	
溝5		56~168	22~66	126.4	
溝6		80~210	25~90	43.7	



第47図 ハケ遺跡第19地点ビット (1/60)



第48図 ハケ遺跡第19地点溝(1/120)、土層(1/60)



第49图 八ヶ岳遺跡第19地点地層 (1/120)、土層 (1/60)

溝4と同様に4号墳と重複する。走行方向はN-40°-Eで、途中までは溝4とほぼ並行するが、溝4のように軸は変わらないようである。両端ともに調査区外へ延伸する。断面はU字形を呈する。出土遺物は無い。遺構の重複関係と覆土の観察から、溝5の帰属時期は中近世以降と考えられる。

【溝6】調査区南側、2号墳の西側墳丘裾に位置する。2号墳の西側に沿うように緩やかに蛇行する。南側で土坑4と重複する。両端共に遺構確認の段階で見落としてしまったため、全長を把握することができなかった。北側に関しては、周溝の外側で確認されていないことから、周溝内で途切れる可能性が高い。断面は浅いU字形を呈する。切り合い関係から2号墳より新しく、土坑4より古い。2号墳の埋没、改変が進んだ後に掘削されたものと考えられるので、少なくとも中近世以降に帰属するものと思われる。

⑤礎石建物跡

2号墳墳頂部やや東側に位置する。凝灰岩製の加工石をおそらく口の字に配置していた。石材の規模は短いもので長軸40cm前後、長いものだと長軸85～90cmほどである。いずれも幅25cm、厚さ10～13cmであった。石の下には部分的ではあるが割れた瓦が敷かれていた。石で囲まれた内側中央部分には31×23cmの大きさで炭化物と焼土の痕跡が確認された。土層の観察から、炭化物・焼土範囲については現代の遺構であると推測できる。凝灰岩製加工石と炭化物・焼土

範囲との直接的な関係は判然とし無い。

⑥御嶽神社

ハケ遺跡第19地点2号墳の南側に存在した御嶽神社は、神社の由緒書によると明治四(1872)年に塚の山(塚)を社地として選定したとする。その際に山の半分を削ってその土を上盛りに盛り上げ、社を建てて石を置き参道を築いたという。

調査の結果、御嶽神社のあった築山は古墳ではなく、土層の堆積状況から由緒書のとおり近代に築かれたものであることが明らかとなった。盛土中からは縄文土器片や埴輪片が出土しており、社地造成の際に土を採取した山は周辺に残っていた古墳であった可能性も考えられる。

近年まで下福岡地区と塚地区、富士見市東久保地区の有志で御嶽講がつくられ、神社の維持・管理が行われていたが、現在は解散している。なお、参道脇に置かれていた行者像等の石造物の一部は、調査後上福岡歴史民俗博物館にて保管している。

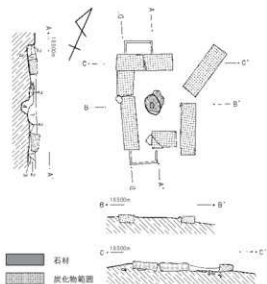
(参考文献)

1997『上福岡の社寺と指定文化財』市史調査報告書第13集 上福岡市教育委員会

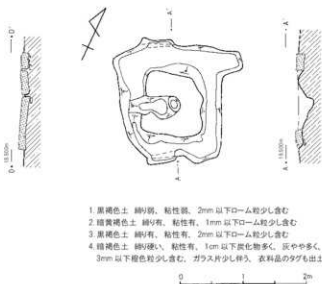
⑦古代以降出土遺物

今回の調査では古墳に伴わない遺物も出土している。すべて2号墳墳丘表土中出土である。詳細は第18表参照。1～3が古代、4は中世、5は近世、6～

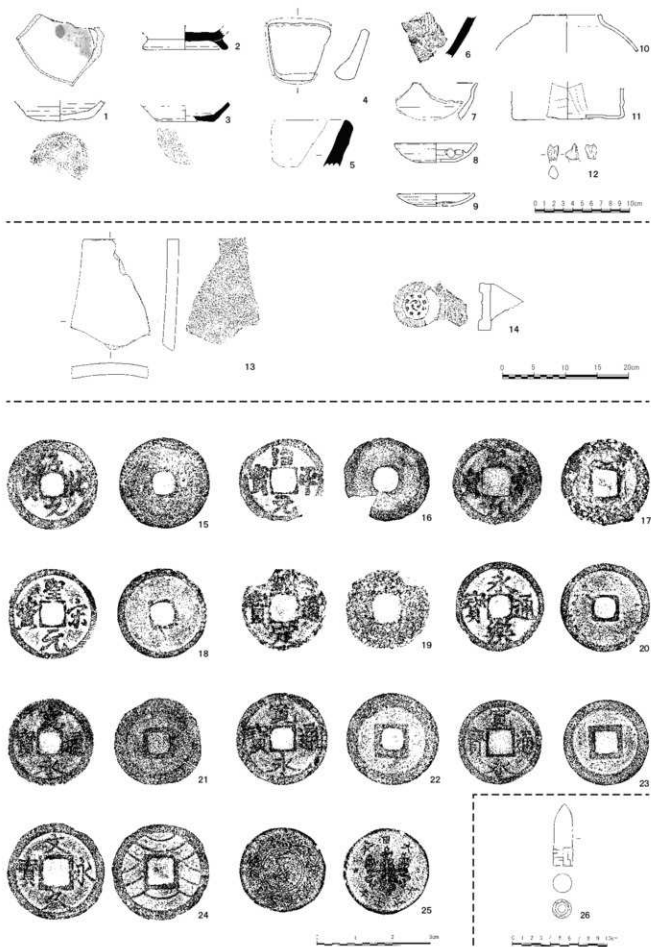
礎石建物跡



掘方



1. 黒褐色土 粘り強。粘性弱。2mm以下ローム粒少し含む
2. 暗黄褐色土 粘り有。粘性有。1mm以下ローム粒少し含む
3. 黒褐色土 粘り有。粘性有。2mm以下ローム粒少し含む
4. 暗褐色土 粘り強い。粘性有。1cm以下炭化物多く、灰や砂多く。3mm以下暗色粒少し含む。ガラス片少し散在。衣料品のタガも出土



第51図 八ヶ遺跡第19地点出土遺物(古代以降)(1/4・1/6・1/1)

11は近世以降に帰属する。12は陶磁器製の稲荷狐の頭部で、2号墳頂頂の礎石建物跡に関連するものである。13・14は礎石建物跡の敷石下に部分的に敷かれていた瓦のうち、より完形に近い平瓦1点と特徴的な隅瓦の1点を掲載した。15～25は銭貨で、23以外は2号墳墳丘表土より出土した。25は大正10年鑄造の一銭銅貨で、御嶽神社表採資料である。26は20mm銃弾で、近接する火工廠跡に関連する遺物である。

第18表 ハケ遺跡第19地点出土遺物（古代以降）観察表（単位cm・g）

図号	番号	出土遺構	種別/器種	口径・ 径・さ	器高・幅	底径・ 厚・さ	技法・文様・備考	推定産地	推定年代
第51図	1	遺構外(2号墳)	土器/カワラケ?	—	(2.2)	7.2	轆轤成形/回転糸切離し/酸化炭焼成・軟質/内面に基跡	—	—
	2	遺構外(2号墳)	須臾器/高台付杯	—	(2.2)	9.0	轆轤成形/回転糸切離し後薄辺へう削り/胎土に白色針状物質	南比企	HⅢ～Ⅳ
	3	遺構外(2号墳)	須臾器/杯	—	—	—	轆轤成形/回転糸切離/胎土砂質	東金子	HⅤ～Ⅵ
	4	遺構外(2号墳)	陶器/壺か壺	—	(4.7)	—	轆轤成形/割れ口磨耗・乾用磁石	瀬美か	13c前半～中頃
	5	遺構外(2号墳)	瓦質土器/壺力	—	(5.0)	—	轆轤成形	—	中世
	6	遺構外(2号墳)	陶器/壺力	—	(4.4)	—	轆轤成形/外面に格子状の押印文	常滑	中世
	7	遺構外(2号墳)	陶器/天目茶碗	—	(4.0)	—	轆轤成形/内外面に鉄軸/押圧による油溝	瀬戸・美濃	17c後半～18c前半
	8	遺構外(2号墳)	陶器/灯明受皿	8.8	2.0	4.4	轆轤成形/内外面に鉄軸	瀬戸・美濃	18c後半～
	9	遺構外(2号墳)	陶器/灯明受皿	8.2	1.4	3.8	轆轤成形/内外面に鉄軸・重ね積き跡	瀬戸・美濃	18c後半～
	10	遺構外(2号墳)	陶器/壺	7.4	(4.0)	—	ロク口成形/内面頸部以下に灰核、外面黒灰軸/胎土;灰色で黒色粒を含む	瀬戸・美濃?	近世以降
	11	遺構外(2号墳)	陶器/不明	—	(3.1)	(12.0)	型打ち成形/外面鉄軸を較取状・内面透明釉	—	近世以降
	12	遺構外(2号墳)	磁製品/稲荷狐	(1.7)	(1.4)	(1.0)	型押し/重量:(2.39)g	瀬戸・美濃	近代
	13	2号墳建物	瓦/平瓦	—	—	1.8	—	—	近世以降
	14	2号墳建物	瓦/隅瓦	—	—	—	三巴文・文様8割/瓦頭部径:7.5	—	近世以降
	15	遺構外(2号墳)	銅貨/淳化元宝	2.45	孔:0.62	0.14	北宋銭	—	初跡:990年
	16	遺構外(2号墳)	銅貨/治平元宝	2.3	孔:0.68	0.12	北宋銭	—	初跡:1064年
	17	遺構外(2号墳)	銅貨/聖宋元宝	2.4	孔:0.73	0.14	北宋銭	—	初跡:1101年
	18	遺構外(2号墳)	銅貨/聖宋元宝	2.4	孔:0.61	0.14	北宋銭	—	初跡:1101年
	19	遺構外(2号墳)	銅貨/紹定通宝	2.4	孔:0.7	0.12	南宋銭/裏面文字有「元」?	—	初跡:1228年
	20	遺構外(2号墳)	銅貨/永樂通宝	2.4	孔:0.6	0.13	明銭	—	初跡:1408年
	21	遺構外(2号墳)	銅貨/寛永通宝	2.3	孔:0.56	0.1	古寛永	—	初跡:1636年
	22	遺構外(2号墳)	銅貨/寛永通宝	2.5	孔:0.57	0.1	古寛永	—	初跡:1636年
	23	遺構外(2号墳)	銅貨/寛永通宝	2.3	孔:0.6	0.18	新寛永:3割	—	初跡:1697年
	24	遺構外(2号墳)	銅貨/文久永宝	2.6	孔:0.67	0.1	真書/裏面:11波	—	初跡:1863年
	25	表採(御嶽神社)	銅貨/一銭	2.3	—	0.1	「大日本」・「大正十年」	—	1921年
	26	遺構外(2号墳)	鉄製品/銃弾	6.6	2.2	2.0	20mm銃弾/重量:118.92g	—	1930年代～1940年代

第5章 ハケ遺跡第20地点

I 調査に至る経過と概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2015年9月15日付で「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南側に位置する。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を行った。

試掘調査は2015年10月14～16日まで行った。幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機による表土除去後、人力による調査を行ったところ、古代以降の堀跡、土坑、ピットを検出した。現地表面から遺構確認までの深さは30～40cmで遺跡への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を行った。

本調査は10月29・30日で行った。本調査にあたって、試掘調査で確認した堀跡は第19地点から直線的に続くもので、これまでの調査で遺物の出土がないため、開発建物の基礎部分についてトレンチ3～8の6本を設定して調査を行った。トレンチ8については堀の走行方向を確認するため、建物基礎には当たらないがトレンチを設定し、掘削は行わず遺構確認に留めた。写真撮影・全測図作成等記録保存を行った

えて埋戻し、本調査を終了した。なお遺構平面図、全体図の作成には平板測量を用いた。試掘調査及び本調査では旧石器時代の確認調査は行っていない。

II 遺構と遺物

試掘調査と本調査で検出した遺構は古代以降の土坑1基、ピット1基、堀跡である。遺物は土坑と堀跡覆土及び遺構外出土である。

①土坑

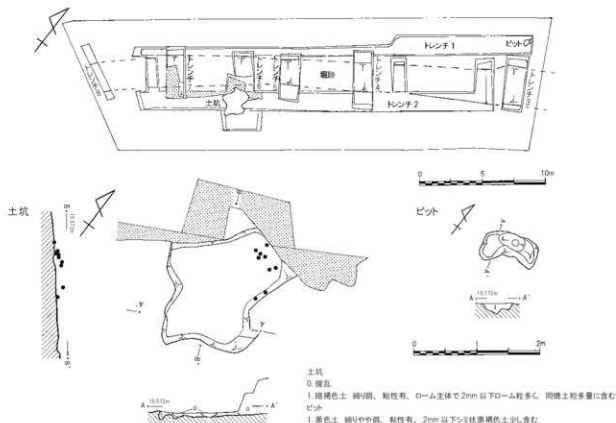
調査区中央やや南西寄りに位置する。平面形状は不整形形で、北側を掘削で壊されている。上幅(235)×200cm、下幅(225)×165cmで、深さ10cmと非常に浅い。遺物は北側上層に集中する。

②ピット

調査区北東隅に位置する。平面形状は不整形形で、上幅90×50cm、下幅75×40cm、深さ20cmである。出土遺物はない。

③堀跡

調査区中央を東西方向に走行する。断面は築研堀で、トレンチ6、7において南側が掘削によって壊さ



第52図 ハケ遺跡第20地点遺構配置図(1/300)、土坑遺物出土状況・ピット(1/60)

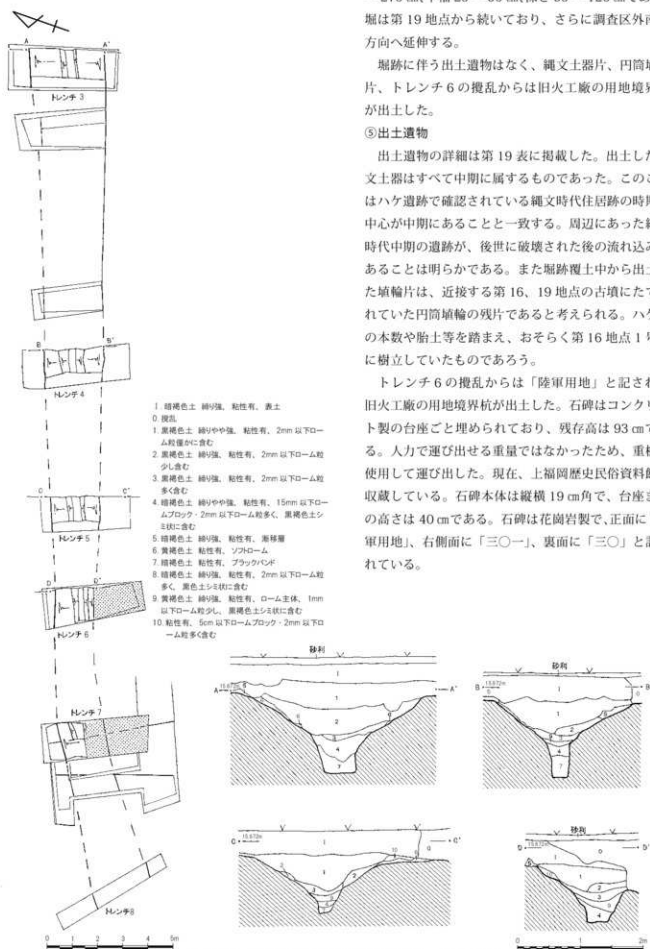
れている。各トレンチで確認した堀の規模は上幅 200 ~ 270 cm、下幅 20 ~ 50 cm、深さ 90 ~ 120 cm である。堀は第 19 地点から続いており、さらに調査区外南西方向へ延伸する。

堀跡に伴う出土遺物はなく、縄文土器片、円筒埴輪片、トレンチ 6 の攪乱からは旧火工廠の用地境界杭が出土した。

⑤ 出土遺物

出土遺物の詳細は第 19 表に掲載した。出土した縄文土器はすべて中期に属するものであった。このことはハケ遺跡で確認されている縄文時代住居跡の時期の中心が中期にあることと一致する。周辺にあった縄文時代中期の遺跡が、後世に破壊された後の流れ込みであることは明らかである。また堀跡覆土中から出土した埴輪片は、近接する第 16、19 地点の古墳にたてられていた円筒埴輪の残片であると考えられる。ハケ目の本数や胎土等を踏まえ、おそらく第 16 地点 1 号墳に樹立していたものであろう。

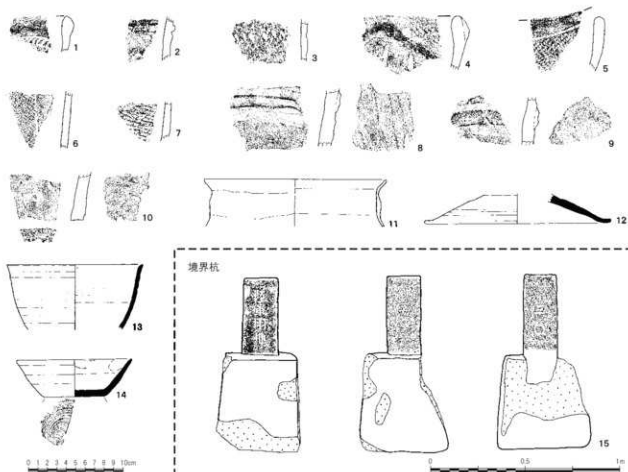
トレンチ 6 の攪乱からは「陸軍用地」と記された旧火工廠の用地境界杭が出土した。石碑はコンクリート製の台座ごと埋められており、残存高は 93 cm である。人力で運び出せる重量ではなかったため、重機を使用して運び出した。現在、上福岡歴史民俗資料館に収蔵している。石碑本体は縦横 19 cm 角で、台座までの高さは 40 cm である。石碑は花崗岩製で、正面に「陸軍用地」、右側面に「三〇一」、裏面に「三〇」と記されている。



第 53 図 ハケ遺跡第 20 地点堀跡 (1/150)、土層 (1/60)

第19表 ハケ遺跡第20地点出土遺物観察表 (単位cm)

図版	番号	出土遺構	種別/器種	口徑・高さ	器高・幅	底径	技法・文様・備考等	推定産地	推定年代
第54図	1	遺構外	縄文土器/深鉢	—	—	—	口縁部/弧状の沈線間に点形文	—	縄文時代中期/勝坂Ⅱ～Ⅲ
	2	遺構外	縄文土器/深鉢	—	—	—	胴上部/隆帯部に角押文/胎土に金雲母、石英粒を含む	—	縄文時代中期/阿玉台Ⅱ
	3	遺構外	縄文土器/深鉢	—	—	—	胴部/点形文	—	縄文時代中期/阿玉台Ⅰ～Ⅱ
	4	遺構外	縄文土器/深鉢	—	—	—	口縁部/隆帯による平門上の区画、区画内横位RL縄文、沈線による懸垂文2条	—	縄文時代中期/加曾利EⅣ
	5	遺構外	縄文土器/深鉢	—	—	—	流状口縁部/口縁に沿う細い沈線による区画、地紋横位LR・RL点状縄文	—	縄文時代中期/加曾利EⅣ
	6	遺構外	縄文土器/深鉢	—	—	—	胴部/縦位LR縄文、沈線による区画、沈線間終り消し	—	縄文時代中期/加曾利EⅢ～Ⅳ
	7	遺構外	縄文土器/深鉢	—	—	—	胴部/縦位無節1縄文	—	縄文時代中期/加曾利E
	8	遺構外	埴輪/円筒体部	—	(5.0)	—	調整：内面/ナデ、外面/タテハケ・ナデ、焼成：良好、色調：2.5YR 7/6 褐色、胎土：白色粒子・黒色粒子・砂礫、砂礫を多く含む	—	古墳時代後期
	9	遺構外	埴輪/円筒体部	—	(6.0)	—	調整：内面/ナデ、外面/タテハケ・ナデ、焼成：良好、色調：5YR 6/8 褐色、胎土：白色粒子・黒色粒子・砂礫、砂礫を多く含む、ハケ目：18本/2cm	—	古墳時代後期
	10	遺構外	埴輪/円筒底部	—	(5.1)	—	調整：内面/ナデ、外面/タテハケ、焼成：良好、色調：2.5YR 5/6 暗赤褐色、胎土：白色粒子・赤色粒子、ハケ目16本/2cm	—	古墳時代後期
	11	土坑	土師器/甕	19.4	(5.0)	—	輪縮み/内外面ナデ/厚さ：0.3～0.5cm	—	9c
	12	土坑	須恵器/蓋	19.7	(3.2)	—	輪縮成形/胎土：やや砂質、白色粒子含む	東金子窯	9c中～後半
	13	土坑	須恵器/椀	14.5	(6.9)	—	輪縮成形/胎土：砂質、小シネ、白色粒子含む	東金子窯	9c後半
	14	遺構外	須恵器/杯	12.3	3.9	6.4	輪縮成形、底部赤切磨し/胎土：精緻、硬質微細化地炎焼/口縁部内面に黒付着	東金子窯	Ⅷ期/9c中～後半



第54図 ハケ遺跡第20地点出土遺物(1/4・1/20)

第6章 まとめ

今回のハケ遺跡第16・19・20地点の調査では、古墳4基をはじめとして、縄文時代集石土坑、古代堀、溝、土坑、ピット等多数の遺構が検出された。その中でも人物埴輪を伴う古墳の発見は市内初であった。最後に3地点を通して総括を行いたい。

なお、今回の調査で確認された4基の古墳の帰属時期や築造順序の考察に関して、土師器や埴輪等の時期を特定する出土遺物はあるものの、各古墳に共通する出土遺物がないため、それぞれの前後関係が判然としない。そのため、今回は1号墳出土の埴輪と2、3号墳出土の埴輪の帰属年代から、各古墳の築造年代と築造順序を推定するとともに、

1. 出土遺物について

(1) 円筒埴輪について

今回の調査では1号墳と2号墳で円筒埴輪が出土しているが、どちらも周溝内からの出土であるため、樹立当時の状況を窺うことはできなかった。また2号墳は墳丘規模と比較しても1号墳より圧倒的に出土量が少ない。埴輪の樹立自体がなかった可能性も考えられる。またいずれも全体がわかるものは出土していないが、突帯の突出度からおおよその製作時期は限定できる。円筒埴輪の突帯は一般的に時代が新しくなるほど扁平傾向にあることが指摘されている。今回出土した円筒埴輪の中で突帯が残存しているものを対象に突帯扁平率を算出したところ、1号墳で平均0.38、2号墳で平均0.347であった。いずれも比較的扁平であることを示しており、両古墳とも少なくとも6世紀に入ってから製作されたものであると言える。

第4章II遺構と遺物の中でも触れたが、今回出土した円筒埴輪片は大きく2種類に分けられる。即ち赤～赤褐色の色調を呈し、胎土に白色粒子を多量に含む一群（A類）と色調が橙色を呈し、比較的薄手のつくりで小礫をやや多く含む一群（B類）の2つであり、A類はその特徴から生出土埴輪窯跡でつくられたものである。1号墳はA類をほとんど含まないが、2号墳はむしろA類が多く出土する。1号墳に樹立された埴輪には、生出土産の埴輪を選択していないことを意味しており、2号墳もしくはその周辺に存在したと想定される古墳では、生出土産の埴輪を選択し、樹立していたということになる。このことは、それぞれの古墳

の築造時期の差を示していると考えられる。生出土埴輪窯跡は埼玉古墳群に樹立する埴輪を供給するために成立したもので、6世紀前半の二子山古墳・瓦塚古墳への供給を契機に規模が拡大する。中小規模の古墳へ供給されるようになるのはこれ以降であるので（城倉2011）、少なくとも2号墳から出土した埴輪に関しては6世紀前半以降と考えることができる。当然のことながら、何度も指摘しているようにこれは2号墳の築造時期とイコールではない。また、1号墳の周溝からA類の埴輪がまったくと言っていい程出土していないのは、1号墳が生出土埴輪窯跡の規模拡大以前の築造である可能性が考えられよう。

(2) 形象埴輪について

1号墳周溝から出土した形象埴輪は掲載したもので27点、不掲載遺物も合わせると70点を超える。そのうちの大部分が人物埴輪の破片である。今回出土した分だけでも、少なくとも9体以上（男子4、女子4、不明1）の人物埴輪が樹立していたことがわかる。今回出土した人物埴輪の特徴として、以下の点が挙げられる。

- 耳の表現として円形の粘土を貼り付け、中央を列り貫いて耳としている。
- 耳飾りは、耳の下部に粘土紐を円形に貼り付けて耳環を表現する。女子埴輪はさらに耳の後ろ側に粘土紐を3本貼り付ける。
- 目が切れ長で、口は比較的小さく穿孔されている。
- 鼻孔を表現しない。
- 腕のつくりが中実である。
- 色調・胎土も、円筒埴輪の分類におけるB類に近似する。
- 肉眼で確認できるほどの量の白色針状物質（海綿骨針）は含まない。

ハケ遺跡出土の人物埴輪と形態的によく似た埴輪は、行田市瓦塚古墳、東松山市岩鼻遺跡5号古墳跡、同市杉の木遺跡毛塚28号墳、さいたま市稲荷塚古墳1号溝で確認できる。特に女子埴輪にみられる特徴的な耳飾りの表現方法は上記出土の埴輪に共通する。これらは城倉正祥氏の研究によって「ブレ桜山」と呼称

される特徴的な一群である(城倉2008, 2011)。「プレ桜山」とは、東松山市に所在する桜山埴輪窯跡の前段階に位置づけられる資料群を意味する。桜山埴輪窯跡群の開業は6世紀前半以降であるため、その前段階である「プレ桜山」の一群は6世紀初頭～前半に位置づけられる。城倉氏が指摘する「プレ桜山」の埴輪の特徴として、①扉表現のある家、②波状線刻を有する3条4段の円筒、③人物埴輪の木芯中空技法、④弓を貼り付けた板を持った人物、⑤足にトゲの表現がある等を挙げているが、今回出土した埴輪の中で①、②、④、⑤は出土していないため比較検討ができない。③に関しては、前述の出土埴輪の特徴でも列記したが、1号墳出土人物埴輪で腕が確認できた5点のうち、そのいずれも木芯中空技法ではなく、棒状の粘土を使用した中実のつくりであった。「プレ桜山」の特徴である人物腕部の木芯中空技法という点で、ハケ遺跡の人物埴輪は当てはまらない。しかし形態的特徴に関しては他のいわゆる「プレ桜山」に分類される埴輪と近似している。形態的特徴を鑑みれば、1号墳の人物埴輪も「プレ桜山」であることは疑う余地はない。

今回1号墳から出土した埴輪だけでは、形態的特徴と技術的特徴の差を議論するには資料が圧倒的に少ない。今後の調査で1号墳の規模等が明確になれば、この差異についても明らかになるものと思われる。

(3) 土師器環について

今回の調査で2・3号墳から出土した土師器環は2号墳から3点、3号墳から6点出土した。すべて口縁がS字状に屈曲し外反するいわゆる「比企型環」に分類されるものである。「比企型環」については、水口由紀子氏(水口1989)や尾形剛敏氏(尾形1999, 2000)に編年等詳細に記されている。今回は両者の編年を参考にして、2・3号墳出土環について考察する。2号墳出土の環は以下のような特徴が挙げられる。

- 径が12.0 cmに満たない。
- 半球形の体部と短く外反する口縁を有する。
- ヘラケズリ後に丁寧にナデを施して調整を行う。

以上の特徴は「比企型環」初期期に共通するものである。実年代を与えるとすれば、5世紀末～6世紀初頭となろう。また、「比企型環」の特徴の一つに内外面に施される赤彩が挙げられる。2号墳出土環のうち2

点は底部の大部分に黒斑がみられる。特に第27図2は黒斑の後に赤彩を施している。焼成後に彩色を施していると考えられる。

次に3号墳出土の環6点であるが、径と器高から以下の2つに分類できる。

- I. 径が14.2～14.4 cm、器高が4.5～5.0 cmで、体部に稜を持ち、外面の赤彩範囲が狭まる。
- II. 径が14.0 cmに満たず、器高も4.0 cmとIと比べて一回り小さい。Iほど体部に稜は見られないが、口縁部内面にわずかに沈線が施される。

以上に挙げた特徴の中で稜を持つ体部と口縁部内面に見られる沈線は、どちらも定型化比企型環に該当するものである。尾形氏は比企型環の定型化の条件として①口唇部内面に沈線がまわる、②丸みをもつ体部から稜をもつ体部に変化する、③赤彩の範囲は内面及び口縁部外面に定着する、④外面底部にヘラ削り痕を顕著に残す土器が主体となる、⑤口径は13 cm前後を基本とする、という5点を挙げている(尾形1999)。今回3号墳から出土した環は①～④の条件をI・IIのどちらかが満たしているが、⑤に関してはいずれにも当てはまらない。これは定型化へ向けての過渡期に位置する環であったことを示していると考えられる。比企型環の定型化は7世紀初頭であるので、3号墳出土の環はいずれもその直前、6世紀後半～末に帰属するものと推測できる。

2. 古墳群の築造順序と年代観

以上のように各古墳の出土遺物の年代について考察したが、まとめると以下ようになる。

- 1号墳出土の円筒埴輪は6世紀代につくられたものである。
- 1号墳出土の人物埴輪は形態的特徴から「プレ桜山」と称される一群で、6世紀前半に帰属するものである。
- 2号墳出土の土師器環は、5世紀末～6世紀初頭に位置づけられる。
- 3号墳出土の土師器環は、6世紀後半～末に位置づけられる。

以上のことから現段階で考え得るハケ遺跡古墳群の築造順序は、

2号墳(6世紀初頭)→1号墳(6世紀前半)→3・4号墳(6世紀後半)
 ということになろう。当然のことながら、1号墳と2・3号墳は年代比定に使用している遺物が異なるため、あくまでも可能性の域を出ない。特に1号墳に関しては、今後の調査で埴輪以外の遺物が出土する可能性が考えられる。今後の調査に期待する。

3. 古墳時代のハケ遺跡とその周辺

今回の調査でハケ遺跡では初めて埴輪を伴う古墳を確認したが、周辺では第19地点の約400m南に4世紀前半の権現山古墳群が存在する。特に権現山2号墳は折り返し口縁壘を有するこの地域で最古の前方後方墳である。市内の新河岸川左岸の古墳築造の端緒であるといえる。その後、古墳の築造域は第19地点の約300m南、権現山古墳群の約100m北側に位置する権現山北古墳群に展開する。権現山北古墳群は1号墳出土の須恵器壘と埴輪片から5世紀代にその中心があったものと想定される。そして今回の6世紀代に展開したハケ古墳群へつながるのである。権現山古墳群からハケ遺跡へと古墳時代を通じて連続と新河岸川右岸に北へと墓域を拡大してきたことが、今回の調査で明らかとなったといえる。

また今回の調査では明確に答えを出すことができなかった疑問点について示しておく。それは、2号墳の埴輪樹立の有無である。その出土量から樹立がなかった可能性が高いことについては再三述べてきたところではあるが、何故埴輪が立てられなかったのかという理由に関しては言及できなかった。2号墳より遡る権現山北古墳群で埴輪が出土している以上、古墳に埴輪を立て並べるといった行為自体は認識としてあったはずである。あえてかどうかは定かではないが、埴輪を樹立しないことの意義については今後の課題としたい。

4. 第20地点出土「陸軍用地」境界杭について

最後に第20地点の擾乱中から出土した境界杭について、事実から想定し得る所在地について考える。

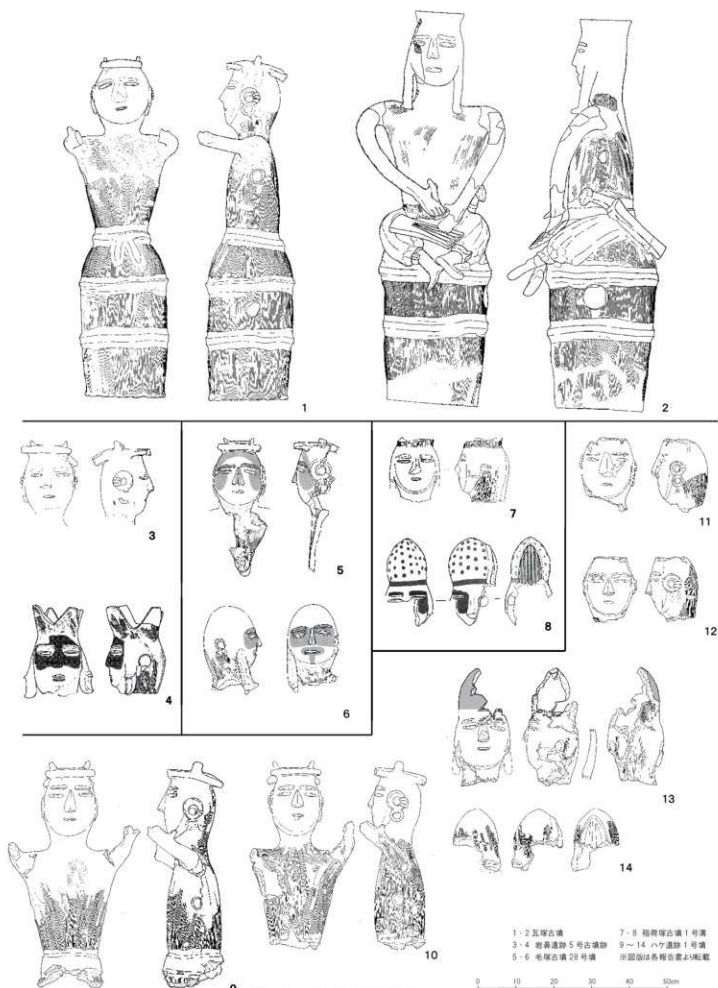
今回発見された境界杭は19cm角のもので、正面に「陸軍用地」、その右側面に「三〇一」、裏側に「三〇」と刻まれているものである。もともとは造兵廠の境界に設置されていたものであるが、戦後の開発等でその多くは撤去されてしまったため、原位置で残っているものは少ない。現在、19cm角のもので所在のわかっ

ているものは20基あるが、そのうち原位置のわかるものは2基のみである。『市史調査報告書第15集 旧陸軍造兵廠福岡工場(川越製造所)』によれば、境界杭に記された数字のうち、「一七」～「三一」は滝の東門近くにあったとする。対して今回の調査地点であるハケ地区には「三」と「五」という境界杭が建てられていたようである。ハケ地区に設置された境界杭が一桁であった可能性が考えられる。今回出土した境界杭は「三〇」「三〇一」であるから、ハケ地区に設置されたものではなく、もともとは東門近くにあったものであると推測できる。それが戦後、何らかの理由で第20地点に廃棄されたと考えられる。

〈参考文献〉

- ・江原昌俊 1993 『岩倉遺跡(第2次)』 東松山市教育委員会
- ・江原昌俊 2004 『東松山市坂山埴輪窯と製品の供給先』 『埴輪研究会誌』 第8号 埴輪研究会
- ・大谷啓 2006 『杉の本遺跡』 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- ・尾形剛敏 1999 『いわゆる「比企型埴」の編年基準の要点-小地域を対象とした編年の確立に向けて-』 『あらかわ』 第2号 あらかわ考古談話会
- ・尾形剛敏 2008 『古墳時代後期の上師器研究の再認識 - (仮称)「入間系上師器」の実態と生産地推定を例として-』 『埼玉考古』 第43号 埼玉考古学会
- ・上福岡市教育委員会 1998 『市史調査報告書第15集 旧陸軍造兵廠 福岡工場(川越製造所)』
- ・上福岡市教育委員会・上福岡市史編纂委員会 1999 『上福岡市史 資料編第1巻 自然史・考古』
- ・川越市立博物館 1996 『第9回企画展 古墳時代の川越』
- ・佐藤康二 2014 『史跡埼玉古墳群 奥の山古墳 発掘調査・保存整備事業報告書』 埼玉県立さきさき歴史博物館
- ・齋藤紀己子 1991 『大宮の古墳-御ヶ谷古墳群-植木古墳群の検討を中心に-』 『大宮市立博物館研究紀要』 第3号 大宮市立博物館
- ・城倉正洋 2009 『埴輪生産と地域社会』 学生社
- ・城倉正洋 2010 『生産地分析からみた北武蔵の埴輪生産』 『考古学研究』 第57巻第2号 考古学研究会
- ・城倉正洋 2011 『北武蔵の埴輪生産と埼玉古墳群』 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
- ・杉崎茂樹 1986 『埼玉古墳群発掘調査報告書 第四集 瓦塚古墳』 埼玉県教育委員会

- ・立木新一郎ほか 1987 『稲荷塚古墳四溝確認調査報告』大宮市教育委員会
- ・高崎光司 1992 『新屋敷道跡-B区-』財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団
- ・伝田郁夫・江原昌俊・城倉正祥 2010 「比企の埴輪」『埴輪研究会誌』第14号 埴輪研究会
- ・伝田郁夫・江原昌俊・城倉正祥 2011 「統比企の埴輪」『埴輪研究会誌』第15号 埴輪研究会
- ・経間孝志・大谷徹 1998 『新屋敷道跡D区』財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団
- ・藤野一之 2012 『大河原道跡2』坂戸市教育委員会
- ・水口由紀子 1989 「いわゆる“比企型埴”の再検討」『東京考古』第7号 東京考古談話会
- ・山崎武 1981 『生田塚道跡』鴻巣市道跡調査会
- ・山崎武・菅原能彦 2005 『生田塚道跡-35・39・45・46地点-』鴻巣市道跡調査会
- ・横川好富ほか 1982 『桜山堂跡群』財団法人埼玉埋蔵文化財調査事業団
- ・若松良一 1990 「造り出し出土の供獻土器について」『調査研究報告』第3号 埼玉県立さきたま資料館
- ・若松良一・日高慎 1992 「形象埴輪の配置と復原される葬送儀礼(上)-埼玉瓦塚古墳を中心に-」『調査研究報告』第5号 埼玉県立さきたま資料館
- ・若松良一・日高慎 1993 「形象埴輪の配置と復原される葬送儀礼(中)-埼玉瓦塚古墳を中心に-」『調査研究報告』第5号 埼玉県立さきたま資料館
- ・若松良一・日高慎 1994 「形象埴輪の配置と復原される葬送儀礼(下)-埼玉瓦塚古墳を中心に-」『調査研究報告』第7号 埼玉県立さきたま資料館
- ・若松良一ほか 1992 『二子山古墳・瓦塚古墳』埼玉県教育委員会



第55図 プレ桜山人物埴輪 (1/10)

1-2 瓦塚古墳 7-8 稲荷塚古墳 1号溝
 3-4 岩鼻遺跡 5号古墳跡 9-14 ハク遺跡 1号溝
 5-6 毛塚古墳 2B号溝 ※図説は各種台書より転載

附 編

ハケ遺跡第19地点のテフラ分析

パリオ・サーヴェイ株式会社

はじめに

ふじみ野市に所在するハケ遺跡第19地点は、新河岸川右岸に分布する段丘上に位置する。段丘は、武蔵野台地北部を構成しており、地形面は武蔵野面群の中でも中位に相当する、約8万年前に形成されたM2面に区分されている(久保,1988;貝塚ほか編,2000)。

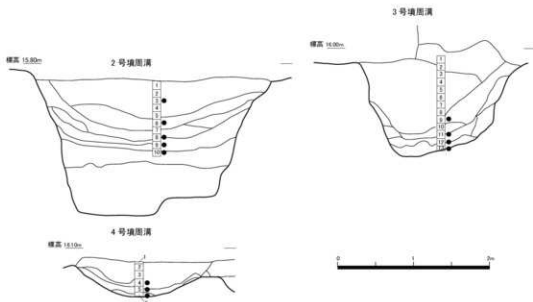
第19地点の発掘調査では、円墳が新たに3基検出され、いずれも6世紀後半ごろの年代が考えられている。本報告では、これら検出された円墳の周溝内の埋積土層および墳丘を構成する土層を対象として、含有されるテフラ(火山灰)の産状を分析することにより確認し、古墳の年代に係る資料を作成する。

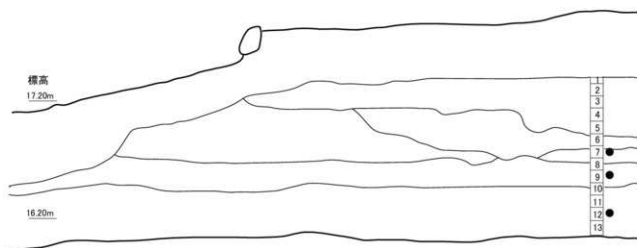
1. 試料

試料は、2号、3号、4号の各古墳の周溝埋積土および2号墳の墳丘構成土から採取された合計15点の土壌である。試料の外観は、いずれも黒褐～暗褐色を呈する火山灰土いわゆる黒ボク土である。

2号、3号、4号の各古墳の周溝埋積土層断面と試料の採取層位を図1に示す。いずれの古墳周溝においても、埋積土層の中部から下部の土層の試料を選択した。選択した試料の試料番号と採取層位は図1に示す。

2号墳では、墳丘構成土層からも試料が採取されている。本分析では墳丘構成土下部の試料から3点を選択し、分析に供した。選択した試料の試料番号と採取層位は図2に示す。





2. 分析方法

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の 3 タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

3. 結果

結果を表 1 に示す。

スコリアは、2 号墳周溝試料番号 3 と 3 号墳周溝試料番号 9 に少量含まれ、2 号墳周溝試料番号 6 と 8、3 号墳周溝試料番号 11、4 号墳周溝試料番号 4、2 号墳周溝試料番号 9 の各試料には極めて微量含まれる。スコリアの特徴は、各試料とも概ね類似する。

最大径は 1～1.5mm 程度、黒色で発泡や不良のスコリアや褐色で発泡や不良のスコリアが多く含まれる。

火山ガラスは、分析した全試料に微量または極めて微量含まれる。ほとんどの試料では、無色透明のバブル型と無色透明の軽石型が混在するが、試料によってはどちらか一方しか含まれない。軽石は、いずれの試料からも検出することはできなかった。

表 1. テフラ分析結果

地点名	試料番号	スコリア			火山ガラス		軽石
		量	色調・発泡度	最大粒径	量	色調・形態	
2号墳周溝	3	++	Br>sb>B>sb>B>b	1.5	(+)	cl>bw>cl>pm	—
	6	(+)	B>sb,Br>sb>R>b	1.5	(+)	cl>bw>cl>pm	—
	8	(+)	B>b,Br>sb	1.0	(+)	cl>bw>cl>pm	—
	9	—	—	—	+	cl>bw>cl>pm	—
	10	—	—	—	(+)	cl>bw>cl>pm	—
3号墳周溝	9	++	Br>sb>B>sb>B>b	1.5	+	cl>pm>cl>bw	—
	11	(+)	B>sb,Br>sb	0.8	(+)	cl>pm	—
	12	—	—	—	++	cl>bw>cl>pm	—
4号墳周溝	13	—	—	—	+	cl>bw>cl>pm	—
	4	(+)	B>sb,Br>sb	1.0	+	cl>bw>cl>pm	—
	5	—	—	—	(+)	cl>bw>cl>pm	—
2号墳周溝	6	—	—	—	(+)	cl>bw>cl>pm	—
	7	—	—	—	(+)	cl>bw>cl>pm	—
	9	(+)	Br>sb	1.3	(+)	cl>pm	—
2号墳周溝	12	—	—	—	(+)	cl>bw>cl>pm	—

凡例 — 含まれない、(+) きわめて微量、+ 微量、++ 少量、+++ 中量、++++ 多量。

B: 黒色、Br: 褐色、GB: 灰褐色、R: 赤色

g: 良好、sg: やや良好、sb: やや不良、b: 不良、最大粒径は mm。

cl: 無色透明、br: 褐色、bw: バブル型、md: 中間型、pm: 軽石型。

4. 考察

各古墳の周溝埋積土層で検出されたスコリアは、遺跡の地理的位置とスコリアの特徴とから、完新世に富士山より噴出したテフラである新期富士テフラに由来すると考えられる。新期富士テフラは、上杉(1990)による記載では、富士黒土層中のS-0から江戸時代の宝永スコリアのS-25までであり、さらにこの中のテフラによっては、細分されているものもあることから、50枚近くのテフラにより構成されている。ただし、給源から離れた神奈川県東部や東京都の低地の調査例では、検出される新期富士テフラの枚数は極端に少なくなり、縄文時代後期から晩期のテフラであるS-10・11(湯船第一スコリア(Yu-1))、S-13(砂沢スコリア(Zu))、弥生時代中期頃のS-22(湯船第二スコリア(Yu-2))、古墳時代のテフラとされるS-24-1～5、平安時代延暦年間(西暦800～802年)の噴火で多量のスコリアを噴出したとされているS-24-7、さらには江戸時代の宝永4年(1707年)に噴出した宝永スコリア(F-Ho)などにはば限定される。当社では、これまでも神奈川県東部や東京都の低地の調査例により、上述した各テフラの試料を得ており、それらの観察から、各テフラにはスコリアの粒径や色調および発泡度や斑品の包有状況などの異なるスコリアが複数種混在しており、それら複数種のスコリアの中でどのスコリアが主体を占め、どのスコリアが供伴し、どのスコリアが微量含まれるかといった混在の度合いが異なることでテフラの特徴を把握している。

今回の分析では、2号墳周溝埋積土層の上部(試料番号3)および3号墳周溝埋積土層の中部にスコリアの濃集する傾向が窺えることから、各古墳の構築後に周溝の埋積がある程度進行するぐらいの時間が経過した後にスコリアの降下堆積があったことが推定される。観察されたスコリアの特徴と6世紀後半とされる古墳の年代も考慮すれば、2号墳周溝埋積土層上部および3号墳周溝埋積土層中部から検出されたスコリアは、平安時代の延暦年間(西暦800～802年)に噴出したS-24-7に由来する可能性があると考えられる。なお、4号墳周溝および2号墳墳丘におけるスコリアの産状からは、スコリアの由来するテフラおよび古墳構築年代との前後関係等を検討することはできない。

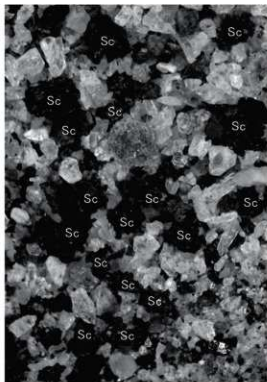
また、各試料から検出された火山ガラスは、層位的に濃集する傾向のない、および形態的特徴から、いずれもローム層中に降灰層準のあるテフラに由来すると考えられ、古墳に係る年代資料とはならない。火山ガラスのうち、バブル型は約3万年前に噴出した始良Tnテフラ(AT:町田・新井,1976;町田・新井,2003)に由来し、軽石型は約1.5万年前に噴出した立川ローム層上部ガラス質テフラ(UG:山崎,1978;町田・新井,2003)に由来すると考えられる。

ハケ遺跡の地理的位置は、関東地方北西部で認められる浅間火山や榛名火山を給源とする指標テフラも分布している可能性が高い。しかし、今回の分析では、それらのテフラに由来すると考えられる砕屑物(軽石や火山ガラス等)を認めることはできなかった。古墳時代に係る指標テフラとしては、浅間火山から4世紀中葉に噴出したとされる浅間Cテフラ(As-C:新井,1979)や榛名火山から6世紀初頭に噴出したとされる榛名二ツ岳渋川テフラ(Hr-FA:早田,1989;町田・新井,2003)および6世紀中葉に噴出したとされる榛名二ツ岳伊香保テフラ(Hr-FP:早田,1989;町田・新井,2003)などがあげられるが、これらのテフラに由来する砕屑物が認められなかった原因には、今回の古墳の構築年代が関係している可能性もあると考えられる。古墳の周溝というテフラの降下堆積物が比較的残りやすい場が、テフラの降下時にはなかったと考えられ、すなわち、古墳の構築は、上記テフラの噴出の後であったと考えられるのである。このことは、6世紀後半とされるハケ遺跡第19地点の古墳の考古所見とも整合する。

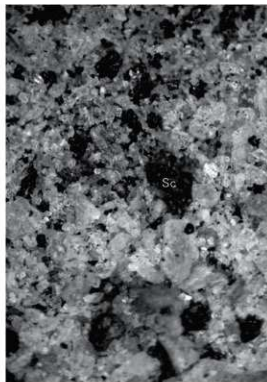
引用文献

- 新井房夫,1979,関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層,考古学ジャーナル,157,41-52.
- 貝塚爽平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦編,2000,日本の地形4 関東・伊豆小笠原,東京大学出版会,349p.
- 久保純子,1988,相模野台地・武蔵野台地を刻む谷の地形—風成テフラを供給された名残川の谷地形—,地理学評論,61,25-48.
- 町田 洋・新井房夫,1976,広域に分布する火山灰—始良 Tn 火山灰の発見とその意義—,科学,46,339-347.
- 町田 洋・新井房夫,2003,新編 火山灰アトラス,東京大学出版会,336p.
- 早田 勉,1989,六世紀における榛名火山の二回の噴火とその災害,第四紀研究,27,297-312.
- 上杉 陽,1990,富士火山東方地域のテフラ標準柱状図—その 1S-25 ~ Y-114 —,関東の四紀,16,3-28.
- 山崎晴雄,1978,立川断層とその第四紀後期の運動,第四紀研究,16,231-246.

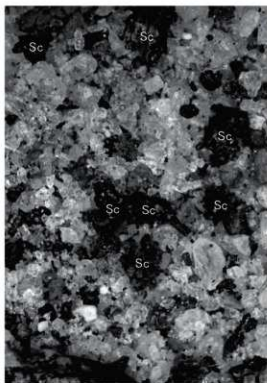
図版1 テフラ・砂分の状況



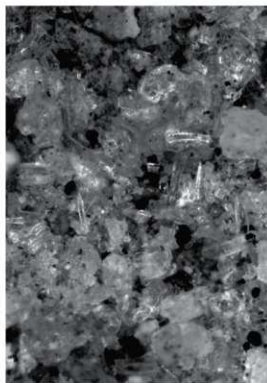
1.新期富士テフラのスコリア(2号墳周溝:3)



2.新期富士テフラのスコリア(2号墳填丘:9)

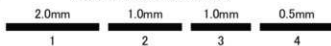


3.新期富士テフラのスコリア(3号墳周溝:9)



4.砂分の状況(3号墳周溝:12)

Sc:スコリア



ハケ遺跡第 19 地点における地中レーダー探査

株式会社中野技術 清水 理史

1. はじめに

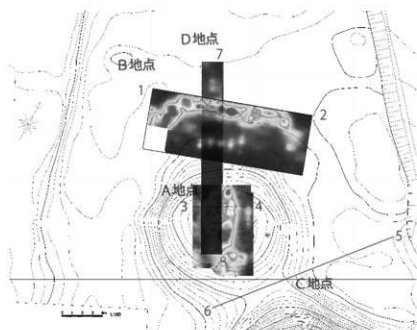
ハケ遺跡第 19 地点には、御嶽神社が建つ塚状の小山とその北西の 1 m 程度の墳丘と考えられる高まりが存在する。雑木林の中にあるため、今日まで残存したが、地下は樹木根による影響を少なからず受けている可能性が考えられる。墳丘主体部、周壕の位置や構造を探り、合わせて周辺の古墳群についても非破壊物理探査手法である地中レーダー探査 (Ground Penetrating Radar = GPR 探査) を実施することにより、発掘調査の際の基礎資料として活用することを目的とする。なお紙幅の都合上、GPR 探査の目的・方法、調査地点、使用機器等をはじめ、測線図、結果図について大きく割愛している。詳細はふじみ野市が保管する報告書に記している。

2. GPR 探査の概要

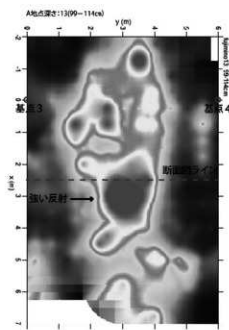
GPR 探査は平成 27 年 3 月 23 日に実施した。現地は、草、落ち葉を取り除いた状態で墳丘上には多少凹凸が認められる。天候は晴で樹木があるため地表面は程よく乾いている状態である。

現在の墳丘高は約 1.3 m で墳丘の径約 16 m の円墳もしくは前方後円墳だと推測される。GPR 探査は主体部までの深さを約 1.00 m 前後と想定し、比較的分解能が高い 400MHz アンテナを使用した。調査対象範囲は 2 号墳の墳丘から周壕にかけて A～D の 4 地点、1 号墳の墳丘の周壕が巡ると想定される E 地点の計 5 地点となるが、本報告では 2 号墳のみについて触れている。

測線は 0.50 m 間隔を基本として各地点に設定した。A 地点が視準点 3～4 を基準として計 24 本、B 地点が視準点 1～2 を基準として計 23 本、C 地点が視準点 5～6 を基準として 1 往復 2 本、D 地点が視準点 7～8 を基準として 2 往復 4 本、(第 3 図)。測線に沿ってアンテナを走査する際、測線上 1 m 毎にマークを実施している。GPR 探査により得られた断面図及び、断面図を組み合わせ簡易的な平面図を作成するタイムスライス平面図 (TS 平面図) を基にして地中の遺物の存在について判断する。なお、図中において強い反射ほど赤く表示されるように設定してある。



第 1 図 ハケ遺跡 2 号墳測線配置図

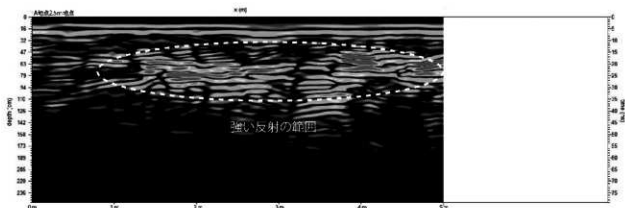


第 2 図 A 地点 TS 平面図

3. GPR 探査の結果

○A地点

A地点は埋葬施設が想定される範囲、過去に社が建てられ、現地表面においても基礎の痕跡と思われる破片が認められる範囲について探査を行った。第1図の3を $X=0\text{m}$ 、 $Y=0\text{m}$ の基点として北東方向6m、南東方向9mの範囲を中心に測線を設定した。結果、一部で強い反射が認められた。第2図は深さ91～114cmにかけてのTS平面図である。 $X=-2.0\sim 5.0\text{m}$ 、 $Y=1.0\sim 4.0\text{m}$ 付近において強い反射が認められ、深さ24～147cmの範囲にわたって顕著に認められる。形状は長方形に広がっていることから主体部の候補として考えられる。 $X=2.5\text{m}$ 地点の南西～北東方向断面図を見ると深さ47cm辺りから面的に強い反射が認められる。この位置を主体部とすると床面の可能性が考えられる。しかし、他の断面図からは同様の平坦面は確認されず確認深度にばらつきがみられる。



第3図 A地点 断面図 ($X=2.5\text{m}$ 付近)

○B地点

B地点は周壕部に相当する範囲の平坦面を第1図の1を $X=0\text{m}$ 、 $Y=0\text{m}$ の基点として東方向16m、南方向5.5mの範囲に測線を設定した。結果、上層については根の影響等があるためか判然としない状況であったが、深さ2.0m以下において周壕と思われる反射を確認することができた。

○C地点

C地点は古墳が前方後円墳であるかを確認するため、第1図5を基点に往復の2本観測した。結果、6.5～10.0mにかけて周壕、10.0～13.0mにかけて墳丘盛土の一部と思われる反射が確認された。

○D地点

D地点は墳丘と周壕の関係を確認するため、第1図7を $X=0\text{m}$ 、 $Y=0\text{m}$ の基点として2往復4本観測した。結果、上層では6.0～10.0mにかけて、下層では5.0m前後に周壕と思われる反射、15.0m付近に墳丘盛土と思われる強い反射が認められた。

4. まとめ

今回のGPR探査では主体部の位置を探ることを目的とした。その結果、墳丘中央部に何らかの埋設物があることは想定できた。しかし、大きさ、形状、深度等から埋葬施設と特定するまでには至らなかった。この成果が発掘調査を進める上で参考資料となることが期待され、より多くの成果や有益な情報を得られる一助となれば幸いである。

GPR探査の実施にご協力、ご理解いただいたふじみ野市教育委員会に厚く御礼申し上げます。

